

四 大戦をめぐる諸情報

1 独波開戦に至る経緯

212 昭和13年11月23日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒをめぐる独波交渉開始の情報報告

ワルシャワ 11月23日午後発

本省 11月24日前着

第三七八號

「ダンチヒ」ニ於ケル「ナチ」運動ハ從來トテモ盛ナリシ
處殊ニ致國問題解決後一層拍車カ加ハリ現ニ兵役義務ニ代
ルヘキ強制義務警察制度布カレ(拙信第二二九號)又官吏ノ
資格ヲ獨逸人ニ限定スル旨ノ法律制定セラレタル趣ニテ近
ク何等カ「ダンチヒ」ノ「ステータス」ニ變化アルヘキ旨
傳ヘラル右ニ付「ダンチヒ」側ノ情報ニ依レハ國際聯盟高
級委員ヲ廢止シ之ニ代ルニ獨波兩國間ノ協定ニ依ル「ステ
ータス」ヲ以テシ即チ一方ニ於テ波蘭ノ權益ヲ強化スルト
共ニ他方「ナチ」ヲシテ政權ヲ掌握セシムヘキ趣旨ヲ以テ
伯林ニ於テ獨波間ニ交渉開始サルヘキ趣ナルカ「コリドー

ル」方面ニ於ケル兩國ノ關係ハ世評ニモ拘ラス密接ナルヲ
解アリ圓滿妥結ヲ見ルモノト觀察ス

在歐各大使、芬蘭、瑞典、壽府へ暗送セリ

213 昭和13年11月27日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連との関係改善に関する波蘭政府発表につ

いて

ワルシャワ 11月27日午後発

本省 11月28日前着

第三八二號

二十七日政府ハ「パト」ヲシテ左ノ通り發表セシメタリ
蘇聯邦外務人民委員「リトヴィノフ」駐蘇波蘭大使「グジ
ボフスキ」ハ數次會談ヲ遂ケタル結果次ノ結論ニ到達セリ
一、波蘭共和國ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ現
存スル全協定及一九三二年七月二十五日附波蘇不可侵條

約ハ將來モ依然兩國友好關係ノ基礎タルヘキコト竝ニ最初有效期限五箇年ナリシモ一九三四年五月五日ニ於テ一九四五年十二月三十一日迄有效期限ヲ延期セシメラレタル該條約ハ兩國友好關係保障ノ充分ナル基礎ナルコト

二、兩國政府ハ相互の通商取引ノ進展ニ努ムヘキコト

三、兩國政府ハ相互の條約諸關係ヨリ生スル多數ノ當面事項特ニ未解決事項ヲ積極的ニ解決スルノ必要竝ニ最近勃發セル國境諸紛争ノ速カナル解決ニ同意ス

尙右ニ關聯シ「パト」ハ次ノ如ク發表ヲ爲セリ

最近蘇聯邦外務人民委員「リトヴィノフ」ト駐蘇波蘭大使「ゲジボフスキ」間ニ行ハレタル數次ニ亘ル會談及是等會談ノ結果新聞紙上ニ發表セラレタル「コムニケ」ハ兩國間ニ現存スル相互の諸條約ノ忠實ナル遵守ニ依リ兩國關係ヲ正常ナラシメントスル兩國政府ノ恆久的且不變の意思ノ表示ナリ此ノ相互的機運ハ蘇波兩國々境ニ於ケル事態安定化ノ充分ナル保障モ創造スルモノナルヘシ

在歐各大公使ニ郵送セリ

214 昭和13年11月29日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連と波蘭の接近が独波關係を悪化させたと
の観測報告

ロンドン 11月29日後發
本省 11月30日前着

第九三八號

一般情報

蘇波接近ノ傳ヘラルル反面ニハ蘇聯ノ宣傳モ大分活潑ニ行ハレ居ル處當地獨逸大使館ヨリ出タル情報ニ依レハ獨逸ハ波蘭今次ノ措置ヲ頗ル意外トシ居リ今後獨波關係ハ相當惡化スヘク獨逸ハ聽テ兩國間ノ宿題タル「ダンチヒ」廻廊等ノ問題解決ヲ迫ルコトトナルヘシトノ趣ナルカ(右ハ二十九日「タイムス」伯林電報モ報ス)波蘭カ今次態度ニ出テタルハ單ニ「カルパト・ウクライナ」問題ニ於ケル不滿ヨリ獨ニ慊カラセヲ試ミタルニ止マリ大局的ノ變化ハナキモノト觀測セラルルモ前記二十九日「タイムス」伯林電報ハ蘇波接近ノ眞意義ハ對獨共同防衛ノ姿勢ニ在リト報シ居リ一般ニ注意ヲ惹キ居レリ

在歐各大使、壽府へ轉電セリ

215 昭和13年12月4日
在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連との関係改善に関する波蘭外務当局の説
明振りについて

ワルシヤワ 12月4日後発
本省 12月4日後着

第三八四號(極秘)
往電第三八二號ニ關シ

三十日東方部長ハ井上ノ來訪ヲ求メ本使ニ報告アリ度シトテ聲明發表ニ至レル迄ノ経緯ニ付左ノ通り説明セル趣ナリ
一、波蘭ノ對蘇政策ハ其ノ保障ノ限度ヲ最低限度ニ置カントスルモノナリ蘇波關係ハ「リガ」條約ニ始マルカ其ノ後發展シテ不可侵條約ニ迄進展セリ然レトモ不可侵條約ハ其ノ限度ニテ波蘭トシテハ夫レ以上對蘇關係ヲ密ニスルコトヲ欲セス是レ其ノ後東方「バクト」ノ話起リタル際英佛ヨリモ大ナル壓迫アリタルモ遂ニ之ヲ應諾セサリシ所以ナリ其ノ後波蘇關係ハ漸次惡化シ獨リ「リガ」條約

ノミナラス國境條約ニモ違反スルニ至レルカ「チエツコ」問題起ルヤ兩者ノ關係極度ニ逼迫シ遂ニ蘇聯側ヨリ不可侵條約ノ廢棄ヲ通告シ之ニ對シ波蘭側ヨリ強硬ナル通牒ヲ以テ應酬セルハ御承知ノ通りナリ(往電第三一〇號)然ルニ右通告後新聞ニハ公表出來サリシモ蘇聯側ヨリスル國境侵犯行爲續出シ其ノ數三百餘件ニ上レルカ(多ク飛行機ノ一籽程度ノ侵略)當時波蘭トシテハ之ニ取合ハサル主義ヲ取り從テ外交交渉トセス單ニ條約ノ規定ニ基キ國境委員會ノ調停ニ俟ツ程度ニ止メ之カ解決ヲ後日ニ殘シ置キタリ然ルニ其ノ後「チエツコ」問題一段落セルニ依リ是等ノ事件ノ解決ヲ申入レタル處蘇聯側ニ於テモ之ヲ應諾セル結果蘇都ニ於ケル交渉トナリタルカ其ノ進捗ニ伴レ曩ニ疑問トナリタル不可侵條約ノ效力其ノモノニ付テモ蘇側ニ於テ有效ヲ認ムルニ至リタルノミナラス
進⁽²⁾ンテ兩國間ノ一切ノ協定ノ有效ヲ承認スルニ至ル從テ其ノ一タル通商ノ問題ニ付テモ從來蘇側ニテ金拂ノ建前ヲ執リタル爲兩國ノ貿易八百萬「ゾルチ」ニ減少セルヲ物々交換ニ依ル「クリアランス」制度ヲ認ムルニ至レル

カ右ハ原料ニ乏シキ波蘭トシテハ有利ナル解決ナリ斯クテ之カ公表ニ付蘇聯側ヨリ申出アリ波蘭トシテハ當初之ニ反對セルモ其ノ後之ニ同意ヲ與ヘタル結果前記ノ如キ公表ヲ見ルニ至リタル次第ナリ

三、本件ニ付特ニ御注意ヲ惹キ度キハ不可侵條約以外何等夫レ以上ノモノハナク波蘭ノ對蘇關係ハ今日ト「チエツコ」問題以前ノ夫レト全然同一ナルコト是レナリ

三、今一ツ御注意ヲ惹キ度キハ波蘭外交ハ

(イ) 集合制度ノ排斥即チ相互協定主義ト

(ロ) 隣接國トノ善隣ト言フヨリモ或程度ノ近交ノ政策ナリ從テ蘇聯カ聯盟ニ加入セルトキモ特ニ兩國間ノコトハ不可侵條約ヨリ解決シ聯盟規約ニハ依ラサルヘキ旨ノ公文交換ヲ行ヒ之ヲ公表シタル次第ニテ蘇波不可侵條約ニ付公表セルハ今回ヲ以テ初メテスル次第ニハアラス

四、之ヲ要スルニ戰鬪後兵力ノ配備替ヲ爲スノ要アルト同シク「チエツコ」事件後攪亂セル波蘭對外關係ヲ整調シ新陣容ヲ整ヘタル次第ニテ其ノ新陣容トハ

(一) 「リツアニア」トノ親善增長(最近「ヴルノ」回復期。成同盟ヲ解散ス)

(一) 「テシエン」、「カルバト」等「チエツコ」問題ノ解決

竝ニ

(三) 蘇波不可侵條約

ノ三者ニテ今後暫ク此ノ陣容ニテ押進ム考ナリ

英、獨、伊へ轉電シ他ノ在歐大使、壽府へ空郵セリ

~~~~~

216 昭和13年12月22日 在ポーランド酒匂大使より  
有田外務大臣宛(電報)

対独關係などに関するベック波蘭外相の時局

談について

ワルシヤワ 12月22日後発

本 省 12月23日前着

第四一七號

十九日「ベック」外相ヲ往訪種々時局談ヲ爲セルカ參考トスヘキ點要旨左ノ通り

一、獨波關係如何トノ本使ノ問ニ對シ外相ハ蘇波共同聲明ハ「ステタスクオアンテ」ヲ意味スルニ過キス獨逸官邊及新聞モ此ノ點ヲ了解シ居ルコトハ獨逸大使及來波中ノ「フンク」司法大臣ノ言ニ依リテモ認メ得ラルト答ヘ本

使カ該聲明ニ關聯シ當國新聞中ニハ獨逸ヲ非難スルカ如キ論調モ見受ケラルト言ヘルニ外相ハ之ヲ肯定シ實ハ「カルパトルス」問題ニテ對獨輿論ノ激昂ヲ來シタルモ漸次沈靜シツツアリ乍併今後再發セストモ限ラス尤モ自分ハ故「ビ」元帥ノ所信ト同シク獨ヲ敵トスルノ愚ナルヲ知ル他方獨トシテモ波ヲ敵トセサルヘキヲ信ス蓋シ獨トシテ波トノ親善ヲ必要トスル旨説キタルハ信念ニ固キ「ヒ」總統其ノ人ナルヲ以テナリ云々ト語り「ヒ」總統カ公式ニ屢對波親善ヲ説キタルハ其ノ信念ニ基クモノト確信スル旨述ヘタリ

二、外相ハ本使ノ問ニ對シ「ウクライナ」事情ニ付縷説シ波蘭内「ウクライナ」人ハ一部煽動者ハ別トシ獨立ヲ要求セス唯自治ヲ求ム(自治ヲ許與セサルハ彼等カ波蘭人等ト渾然居住スル爲事實上困難ナル爲ナリト註ス)之ニ反シ蘇領「ウクライナ」人ハ其ノ解放即チ獨立ヲ要望ス而シテ右獨立ハ不可能事ニアラサルモ唯之カ維持ノ爲ニハ波蘭ノ支援ヲ必要トスルコト歴史ノ示ス所ナリ二十六年故「ビ」元帥カ政權ヲ掌握シ蘇領「ウクライナ」獨立論者「ベトリユーラ」ト協定ヲ爲セルカ聽テ「ポリセビキ

一」ハ「ベ」ヲ暗殺セリ是レ露國當局トシテモ波蘭ノ支援アラハ蘇領「ウクライナ」獨立ノ可能ナルヲ認め之ヲ恐レ居ル一證左ナリト語レリ

三、外相ハ目下「カルパトルス」ヲ基地トシテ「ウクライナ」獨立ヲ呼號シ居ル者ハ何レモ一八一九年奧太利ノ手先トナリテ「ガリシヤ」ノ獨立ヲ企圖シ其ノ後當國內務大臣ヲ暗殺セル「テロ」ノ一味徒黨(維納ニ本部ヲ有ス)ニ過キス彼等ハ獨ノ後援ヲ口ニシ居ルモ煽動以外何等大事業ヲ爲シ得ル程ノ者ニアラス

217

昭和14年1月12日

在ポーランド酒匂大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ヒトラー總統とベック外相の会谈内容に関する情報について

ウルシヤワ 1月12日後発  
本 省 1月13日前着

第四號(極秘)

「ベルヒステン、ガーデン」ニ於ケル「ヒ」總統及「ベック」外相ノ會談ニ列席セル獨逸大使カ十日日本使ニ爲セル内

話要旨左ノ通り

會談ハ三時間餘ニ亘リ最初ノ二時間餘ハ政治談其ノ餘ハ藝術等ノ雜談ナリシカ先ツ總統ヨリ獨逸トシテハ波蘭ト他國(蘇聯ヲ指ス)トノ關係如何ニ拘ラス波蘭トノ親善關係ヲ保チ國境竝ニ「ダンチヒ」ノ「ステイタスクオ」ヲ維持スル意嚮ナルコト從來言明セル通りナリト告ケタル後一時間餘ニ亘リ致國問題ノ經緯ヲ詳述シ其ノ間洪牙利ノ態度ニ遺憾ノ點アリト指摘シ波蘭トシテハ「テツセン」地方回復ニ依リ満足ナルヘキヲ信スト爲シ「ウイン」裁定ニ付テハ人種學見地ヨリ該裁定ヲ以テ最モ公平ト認ムルニ依リ將來モ右以外ノ解決ナシト信スル旨確言シ世上「カルパトルス」ニ關シ種々ノ想像說ヲ爲ス者アルモ自分トシテハ同地方ニ格別ノ關心ヲ有セス殊ニ同地方ヲ根據トシテ波蘭ニ不利ナル工作ヲ爲スカ如キ意圖(案)モナシ

波蘭内ニ「ウクライナ」人問題ハ波蘭ノ純然タル内政問題ナリ更ニ世上獨逸カ「ウクライナ」獨立ノ野望ヲ有スル旨説ク者アルモ平和ヲ欲スル獨逸トシテハ蘇聯領内ニ何等領土の野心ヲ有スル次第ニアラスシテ他國ノ内政ニ干渉スル「ボルシエビズム」ヲ排撃ス要スルニ獨トシテハ波蘭ノ利

益ニ反スルカ如キ行動ヲ爲ス意圖ナシ此ノ點ハ特ニ諒承アリ度シト述ヘタリ(右「ウクライナ」問題ノ點ニ付テハ同大使ハ本使ノ問ニ對シ過日モ申上ケタル如ク(客年往電第四一號)「ウクライナ」獨立ト言フカ如キコトハ實現至難ナリ總統モ此ノコトヲ充分承知シ居ラルル如ク從テ「ウクライナ」獨立ト言フヨリハ蘇聯ノ分解乃至崩壞ヲ念トセラルルモノト解スル旨答ヘタリ)

右ニ對シ「ベ」外相ハ波蘭カ兩國ノ親善ヲ欲スルコトハ決シテ獨ニ讓ルモノニアラスト述ヘタル上過日ノ蘇波共同聲明ニ付陳辯シ(同大使ハ右内容ハ「ベ」外相カ吾人ニ語ル所ト同趣旨ナリシ旨註ス)總統ニ於テ何等言及セラレサリシニ拘ラス波蘭カ防共協定ニ加盟シ難キ事情ニアルコトヲ婉曲ニ述ヘ「ボルシエビキ」ヲ極力排撃スルモ波蘭トシテハ蘇聯ト長キ國境ヲ接スル關係上之ト敵對的立場ニアルコト不利ナルヲ以テ「モーダスビベンヂ」ヲ有スルコト必要ナル旨ヲ説キ政治談ヲ終レリ尙「ベ」ト「リツペン」外相間ニモ會談アリシモ格別重要ナルコトナカリシ模様ナリ致ヘ暗送セリ

218

昭和14年1月26日

在ポーランド酒匂大使より  
有田外務大臣宛(電報)

対独関係に関するベック内話について

ワルシャワ 1月26日後発

本 省 1月27日後着

第一五號(極秘)

往電第四號二關シ

一、「ベック」外相ハ廿四日往訪ノ本使ニ對シ過日來病氣ナリシ爲會見遅レタル旨斷リタル上「ヒ」總統及「リツペン」外相トノ會談内容ヲ詳述シテ満足ト安堵ノ色ヲ示シ(冒頭往電ト同趣旨尙「ベ」外相ハ「ヒ」總統ノ親波的ナルハ同總統カ政權把握後最初ニ友好的態度ヲ執リシハ波蘭ナリシコトヲ今尙銘記シ居ラルルニ依ルモノトノ強キ印象ヲ得タリト述ヘタリ)客年末本使カ東方部長ヲ通シ與ヘタル「アンフォルマシヨン」ハ旅行先「モンテカルロ」ニテ受領セシカ非常ニ有益ナリシトテ深謝シタリ而シテ同外相ハ右旅行先ヨリ「リツペン」外相ニ歸路會見方申入レタルニ「ヒ」總統ニ於テ接見スベシトノ回答ニ接シ過日ノ會談トナレル次第ナリト告ケタリ

二、客年往電第四一九號ノ通り蘇波共同聲明其ノ後ニ於ケル波蘭側ハ獨逸ノ眞意ヲ把握シ兼ネ恐獨心ニ驅ラレ「カルパトルス」ニ於ケル「ウクライナ」人ノ運動ノ如キモ波蘭ニ對スル獨ノ策動ナラスヤトノ疑スラ抱キ獨カ波蘭ニ諮ラスシテ「ウクライナ」獨立工作ヲ爲スモノトセハ防衛上蘇聯ト共同スルモ已ムナシトノ意嚮ヲ有スルヤニ觀測セラレタル處一方獨逸大使ノ本使ニ對スル所言ニモ顧ミ(客年往電第四一一號成ルヘク速ニ獨波間ニ懇談ノ機會ヲ作ラシムルコト適切ト考ヘ右促進ノ一方法トシテ井上ヲシテ本使ヨリノ思付ナリト斷ラシメタル上東方部長ヲ通シ

「ベ」外相カ本使ニ於テ大島大使ノ觀測ヲ徵スルコトヲ希望スルヤニ付夫レトナク質シタルニ之ヲ希望ストノコトナリシニ依リ客年往電第四一八號ノ通り本使伯林ニ赴キ大島大使ト懇談ノコトトナリタルカ(當時同大使ハ近ク「リツペン」外相ニ對シ波蘭側ト懇談方從薄スルモ可ナリト述ヘタリ)其ノ結果ノ印象ナリトテ獨逸ノ眞意ハ波蘭ト協力スルニアルヲ確信スルコト但シ波ノ出方如何ニ依リテハ獨ハ「カルパト」ヲ「ゲリラ」戰ノ基地ト爲



スニ至ルヤモ知レサルモ右ハ「ヒ」總統ノ本意ニアラサ  
ルヘキコト從テ其ノ内獨波懇談ノ機會到來スヘキモ早キ  
ニ及ンテ斯ル機會ヲ作ル方望マシキコトノ趣旨ヲ井上ヲ  
シテ東方部長ニ傳ヘシメタルニ部長ヨリ詳細ニ書取り  
「ベ」外相ノ旅行先ヘ至急傳達スヘシト答ヘタルカ前記  
「アンチオルマシヨン」トハ之ヲ指ス次第ナリ(本項極  
秘)

三、本使ノ問ニ對シ「ベ」外相ハ「リツベン」外相ノ來波等  
ニ付蘇聯ハ快シトセサルヘキモ既ニ蘇ノ對歐洲政策カ全  
面的ニ破綻シ殊ニ佛國ノ態度ニ落膽シ居ル實情ナルカ上  
ニ波蘭カ「ボルセヴィズム」ニ絶對反對ニシテ政治的ニ  
蘇聯ト何等深入スルヲ欲セサルコトヲ熟知シ居ル筈ナル  
ニモ鑑ミ其ノ對波態度ニ格別ノ變更ヲ見ルヘシトハ思ハ  
レスト答ヘタリ

四、「ベ」外相ハ波蘭トシテハ「ダンチヒ」問題ヲ重視スル  
モノナルカ今回更ニ總統カ同市ノ現狀維持ニ付確言セル  
コトハ波蘭ニ多大ノ安心ヲ與ヘタリ從テ今後親獨輿論ノ  
増大ヲ見ルニ至ルヘシト語レリ

在歐各大使、壽府へ轉電セリ

219 昭和14年2月1日 在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ソ連要路における対独接近の底意について

モスクワ 2月1日前發  
本省 2月1日前着

第一一一號(極秘)

<sup>(1)</sup>客年往電第一六〇二號三佛大使ノ重光大使ニ對スル内話ノ  
如キ噂ハ本使着任後モ屢々聞込ミタル處舊臘蘇獨通商協定  
更新發表直後CCCト會見種々談合ノ際同大使ハ蘇側ハ獨  
ノ機械類買入ヲ欲スルモ獨ノ工場繁忙ノ爲多量ノ注文ニ應  
スルコト不可能ナリ尙蘇獨ノ根本的關係ニ付テハ「ヒ」總  
統ノ態度ハ明確ニシテ其ノ變更ハ至難ナリト述ヘタルコト  
アリ然ルニ本年ニ入リテモ在當地蘇聯接壤諸國ノ二、三ノ  
公使ハ蘇側ニ於テハ獨トノ了解ヲ希望シ「スターリン」自  
ラ「ヒトラー」トノ會談ヲモ辭セサル考ナリトカ或ハ又ハ  
獨ハ當分西方ニ向ヒ東方進出ハ之ヲ差控フルコトナルヘ  
シ等ノ報道ヲ傳ヘ來リ尙QQQQスラUP報道トシテ右ノ如  
キ話ヲ持出シ本使ノ意見ヲ求メタリ

以上二對シテ本使ハ經濟關係ノ發展ハ兎モ角蘇獨間政治的

接近ノ如キハ到底アリ得ストノ趣旨ニテ應接シ來レル次第ナルカ惟フニ蘇聯要人中ニ獨蘇接近ヲ眞劍ニ考慮シ居ル者アルハ事實ナルモ主トシテ右種ノ報道ヲ放送シ若シ英佛ニシテ蘇ト共同セサルニ於テハ獨トノ接近ヲ圖ルヘシトノ氣勢ヲ示シ以テ英佛乃至米ヲ引付ケ國際情勢ヲ自己ニ有利ナラシメントスルモノト認メラレ前英國大使ニ對シ其ノ離任前「リトヴィノフ」ハ日獨伊三國交渉ニ關スル情報ヲ提供シ英國ヲ説付ケントセリトノ確實ナル聞込アリ尙往電第一一〇號「バートレット」ノ論文ノ「プラウダ」轉載ノ如キモ亦右下心ニ出ツルモノト察セラル右御參考迄  
英、獨へ暗送セリ

220 昭和14年3月2日 在ポーランド酒勾大使より  
有田外務大臣宛(電報)

波蘭各地における反獨運動の激化について

ワルシャワ 3月2日後發  
本 省 3月3日後着

第三九號

「ダンチヒ」ニ於ケル「ナチ」運動(客年往電第三七八號)

二伴ヒ獨波住民間ノ感情尖鋭化シツツアリタル折柄十八日(獨逸側調査ニ依レハ十一日)某「カフエ」ニ「犬ト波蘭人入ルヘカラス」ノ刷紙ヲ貼レル者アリ之カ導火線トナリ終ニ同地工科大學獨波兩國學生ノ間ニ衝突ヲ惹起シ爾來本件ハ紙上ニ於テ討論ノ的トナリタルカ「チアノ」來波ノ直前ヨリ一般輿論ハ著シク反獨ト化シ(特情第六號)「ワルソ」  
「クラコー」其ノ他ノ各都市ニ於テ波蘭學生ハ一齊ニ反獨運動ヲ起スニ至リ終ニ廿五日學生ノ一團ハ獨逸大使館ニ投石硝子ヲ破壊スルニ至レリ彼等ハ獨逸打倒、「ベツク」外相排斥ヲ怒號シツツ伊太利大使館ニ至リ「チアノ」萬歲ヲ唱ヘ又「リゾ、スミグリ」元帥邸ニ至リ「ダンチヒ」ヘ進軍ヲ呼號シ尙佛國大使館前ニテモ萬歲ヲ唱セリ本件ニ付テハ政府ハ直ニ新聞掲載ヲ禁止セルカ之カ原因ハ或ハ佛英ノ糸ヲ引ク猶太人ノ策動ナリトシ又「ウクライナ」人ノ苦肉ノ策ナリト稱セラルルモ獨逸側調査往電第四〇號ノ通リナル外當時ノ警戒振ヨリ推シ又統制アル當地學生カ著シク時間ヲ經過セル今日各地呼應シテ立ち數日間引續キ「デモ」ヲ行ヒタル點等ニ徴シ本件ハ政府部内有力者ノ使嗾ニ依ル疑ナシトセス(特情第九號合同陣營總裁ノ言モ之ヲ裏

書スル節アリ）共同國境實現失敗以來動搖シツツアル當國  
國情ノ一端ヲ現ハスモノト言フヘシ

在歐各大使へ暗送セリ

~~~~~

221 昭和14年3月5日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

對獨關係惡化の背景に関する波蘭外務省東方
部長の内話について

ウルシヤワ 3月5日後発
本 省 3月6日前着

第四二號(極秘)

往電第三九號ニ關シ

三日東方部長ハ本使ニ對シ「リツペン」外相來波後間モナ
ク「リガ」、「ケーニヒベルグ」、「ダンチヒ」、維納、「プ
ラ
ーグ」、「ブラチエスラブ」、「フースト」ノ線ニ依リ獨逸側
ハ組織的ニ反波宣傳乃至工作ヲ爲シ居ル爲ニ詳細ハ別ニ御
傳ヘスヘシト言フ）當國輿論ハ著シク反獨的トナリ今回ノ
反獨「デモ」ノ如キ其ノ一端ニシテ「ダンチヒ」事件ノミ
カ原因ニアラスト語り本使ノ問ニ對シ軍部ニ親佛派多キハ

事實ナルモ今回ノ「デモ」ハ彼等ノ使曠ニ依ルモノトハ認
メ難ク英佛ノ「エーリエント」カ學生達ヲ煽動セルモノナ
リ元來「エーリエント」ノ金カ猶太系ヨリ供給セラレ居ル
コトモ事實ナリト答ヘ要スルニ斯ル事態ハ獨逸ノ反波工作
ニ依リ誘致セラレタルモノニテ恰モ「チアノ」外相來波ノ
機會ニ反獨「デモ」ヲ見タルハ「ベツク」外相ヲ窮地ニ陷
ラシメントスルモノナリト説キ獨逸カ約言ニ忠實ナラサル
ヲ憎ムカ如キ口吻ヲ漏ラシ獨逸ノ親善ハ雷ニ兩國ノミナラ
ス日本ニ取りテモ有益ト信ストテ言外ニ何等カ日本側ノ後
援ヲ希望スルカ如キ態度ヲ示セルカ本使ハ獨ノ反波工作カ
「ヒ」總統乃至「リツペン」外相ノ意圖ニ基クモノト認め
居ラルヤト反問セルニ部長ハ其ノ點ニハ疑問アリ然シ反
波工作ノ行ハルル以上反獨派ニ乗セラルル次第ナリト答ヘ
本使カ獨逸大使ニ對シ率直ニ事情ヲ訴ヘタルヤト言ヘルニ
對シ部長ハ「ベ」外相トシテハ同大使ノミナラス過日來波
ノ「ヒムラー」總監ニ對シテモ篤ト懇談セラレタルモ何等
改善ノ徵ナシ之カ爲政界ノ一部ニハ「ベ」カ獨逸ニ翻弄セ
ラレ居レリトサヘ評スル者アリ斯ル次第故過日貴使カ示サ
レタル好意ヲ想起シ(往電第一五號)茲ニ「ベ」ノ意ヲ受ケ

1 独波開戦に至る経緯

以上ノ御話ヲ爲ス所以ナリト述ヘタリ依テ本使ハ如何ナル事ヲ爲シ得ルヤ又爲スヤハ別トシ折角ノ御來話故篤ト考慮スヘシト答ヘ置ケリ
獨ヘ轉電シ在歐各大使ヘ暗送セリ

222

昭和14年3月22日
在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

メーメル地方の対独返還をリトアニア政府が
声明したとのドイツ側発表について

ベルリン 3月22日後発
本省 3月23日前着

第二五七號

(1) 二十二日DNBハ「メーメル」問題ニ關シ左ノ通り發表セリ

「リसानニア」政府ハ二十一日夜左ノ聲明ヲ發表セリ
「リसानニア」外相「ウルプシス」ハ二十一日「コウノ」ニ歸來セル後同日午後二時ヨリ五時迄開カレタル閣議ニ於テ「リツペントロップ」外相トノ會談ノ結果ニ付報告ヲ爲セリ

右報告ニ依レハ獨外相ハ獨逸政府ノ名ニ於テ「リसानニア」政府ニ對シ「メーメル」地方ノ獨逸ヘノ返還ヲ提議シ之ヲ以テ平和維持ノ爲唯一ノ合理的解決ナリトシタリ

獨外相ハ更ニ右返還カ自由ナル合意ノ下ニ行ハルルニ於テハ獨逸ハ「メーメル」港ニ於ケル「リसानニア」國ノ經濟的利益ヲ充分顧慮スヘキ旨ヲ附言シ右解決カ「メーメル」地方獨逸住民ノ明瞭ニ表明セル希望ニ合致スルコトヲ強調シ更ニ右カ兩國間將來ノ友好關係ニ役立つコトヲ説明シ且「メーメル」地方全獨逸住民カ獨逸復歸ヲ求ムル要求ヲ支持セリ「メーメル」地方ノ空氣ハ紛擾ヲ避ケル爲ニハ獨逸ノ提議セル基礎ニ於テ本問題ノ解決ヲ爲スコトヲ目下ノ急務トスルノ狀況ナリ

「ウルプシス」外相カ右經緯ヲ説明シタル後閣議ニ於テ右事態ニ關シ協議セラレタリ同外相ハ本日中ニ「リसानニア」議會秘密會議ニ於テ右ノ事態ニ關シ報告ヲ爲スヘシ閣議ハ獨逸國ノ態度ニ鑑ミ「メーメル」地方ノ獨逸國人ノ引渡ニ對シ同意ヲ與ヘタリ右ノ同意ハ同日議會ニ通報セラレタリ

「リसानニア」國使節ハ水曜日中ニ新事態ヨリ發生セル諸

問題ノ調整ノ爲伯林へ赴クヘシ

223 昭和14年3月25日 在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

メール問題が波蘭に与えた影響について

ワルシャワ 3月25日後発
本 省 3月26日後着

第六九號

一、「メール」ノ獨逸復歸殊ニ獨ノ遣口ハ當國ニ對シ致國併合以上ニ大ナル衝動ト不安ヲ與ヘ二十三日ノ各新聞ハ舉ツテ警告的論說ヲ掲ケテ國民ノ結束ト覺悟ヲ要求シ親佛新聞ハ壞、致、「リ」國ノ例ヲ引用シテ獨トノ親善及相互協定主義ノ危險ヲ説キ議會ニテハ「ベック」外交攻撃ノ演説行ハレタルカ政府ハ二十三日ヨリ三日間大規模ノ防空演習及燈火管制ヲ施行シ又大學生義勇團ヲ召集シテ市街演習ヲ命シ(右ハ反獨「デモ」ヲ避ケントノ趣旨ト解ス)更ニ二部動員ヲ行ヒ北方警備ヲ強化セリトノコトニテ目下物情騒然ノ感アリ

三、外務次官ハ「ベック」外相ハ病氣(羅馬尼大使其ノ他ノ

使臣ニ對シ波蘭トシテハ自國ノ直接利害カ侵犯セラレサル限り武力ヲ以テ立ツ意圖ナキ旨頻リニ吹聽シ注意ヲ惹キ居レルカ右直接利害云々ニ付(イ)假ニ獨又ハ洪牙利軍カ羅國ヲ進撃スルカ如キ場合アリトセハ斯カル場合モ含ムヘシトノ觀測(獨大使)(ロ)東部「シレジア」ヲ指スモノニテ「ダンチヒ」カ獨軍ニ侵サレ又ハ獨ヨリ或條件ノ下ニ(例ヘハ「ゲデニア」港ノ利用容認)同市ヲ要求セラレタル場合ノ如キハ之ヲ含マサルヘシトノ觀測トアリ(二三ノ使臣)

三、多數使臣一致ノ意見トシテ「メール」問題カ恰モ佛大統領ノ訪英中ニ敢行セラレタルハ獨カ英佛ヲ恐レサルヲ明示セルモノニシテ之ニ拘ラス英佛等カ強ク反撥セス又獨トシテハ此ノ上ノ進展ヲ敢テセサルヘキニ鑑ミ(此ノ點ハ獨逸大使カ獨逸トシテハ波蘭乃至羅馬尼ヲ侵ス意圖ナキヲ信スル旨語り居レル爲ト思考ス)事態ハ漸次平靜ニ歸スヘク洪羅間ニ事カ起ラサル限り戰爭ノ如キハ想像ノ外ナリト觀測セラレ居レリ

在歐各大使へ暗送セリ

224

昭和14年3月28日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

ドイツの対波政策に関する波蘭大使との意見
交換について

ベルリン 3月28日前発

本省 3月28日後着

第二八四號(極秘)

一、⁽¹⁾本二十七日午後當地波蘭大使「リブスキ」本使ヲ來訪シタルカ同大使ハ最近數度「ワルシヤワ」へ往復セルカ今後貴大使トハ種々連絡ヲ執リ度キ希望ヲ有スト前置シタル後貴大使ハ獨逸今後ノ進路ニ關シ如何ナル觀測ヲセラルルヤ致國問題處理後ノ獨逸ハ更ニ波蘭ニ向フヘシト爲ス者アルモ波蘭國民ハ建國革命、蘇波戰爭等ニ依リテ鍛鍊セラレ居リ獨逸カ波蘭ニ對シ萬一致國ニ對スルト同様ノ措置ヲ執ラハ最後ノ一人ニ至ル迄戰フヘキヲ強調セリ之ニ對シ本使ヨリ自分ノ判斷スル限り獨逸ハ暫ク平和政策ヲ執ルヘク殊ニ自分ノ承知スル限り獨逸上層部ノ意圖ハ出來得ル限り貴國ト親善關係ヲ維持スルニ在ルヘシト語リタル處同大使ハ實ハ自分モ斯ク考フルモノナルモ

上層部ノ意圖ヲ了解セサル獨逸人モ相當アリ困リ居ル次第ナリトテ「ナチ」黨部若クハ出先官憲ノ反波政策アルヲ仄メカシ居レリ尙同大使ハ「ダンチヒ」問題ニ言及シ波蘭トシテハ同地方ノ獨逸人ノ生活ニハ何等干涉ノ考ナク「ナチ」運動ヲ認ムルモ其ノ「ステータス」ハ國際聯盟ニ依リ保障セラレ居ルモノニシテ右「ステータス」カ犯サルルコトハ何トシテモ承諾シ得ス此ノ點ニ關シテハ「ベツク」外相モ全ク同意見ナリト述ヘタルカ本使ノ質問ニ對シ同地方内「ナチ」黨部ノ策動ニハ不快ノ念ヲ有シ居ル旨答ヘタリ
尙本使ハ日本トシテハ對蘇關係ヨリ見テ波蘭ノ動向ニハ多大ノ關心ヲ有シ居リ獨波關係ノ密接ナランコトヲ希望シ居ル次第ナリト述ヘ置キタリ
二、⁽²⁾以上ノ會談ヨリ波蘭ハ獨逸ノ政策ニ可ナリノ不安ヲ感シ居ルコト明瞭ニシテ恐ラク同大使ハ「ベツク」外相ヨリ旨ヲ承ケテ本使ヲ來訪シタルモノナルヘク日獨關係密接ナルニ鑑ミ在伯林帝國大使ヲ利用シ波蘭ノ意嚮ヲ獨逸ニ傳ヘ獨波關係事項ヲ自國ニ有利ナル様導カントスルニ在ル如ク思ハル

當國上層部ノ意圖ハ獨波關係ヲ出來得ル限り良好ナラシムル様努ムルニ在ルコト屢次往電ノ通りニシテ今後モ右方針ニハ變更無カルヘキモ例ヘハ國內事情ニ依リ「ベツク」外相退キ後任者カ英佛ノ策動ニ乘リ彼等ト共ニ蘇聯ヲ利用シテ獨逸ニ對抗セントスルカ如キ政策ヲ執ル場合ハ(例ヘハ英佛蘇波ノ軍事同盟ノ如キ)獨逸トシテモ一舉ニ「コリドール」「シユレヂア」問題ヲ解決スルノ舉ニ出ツルヤモ測ラレスト思考ス

225 昭和14年3月28日

在独国外務大臣宛(電報)
有田外務大臣宛(電報)

英国の対独防衛共同宣言提案に関する独国外務次官補の内話について

第二八五號(極秘)

二十七日字佐美「ヴェヤマン」次官補ヲ往訪ノ際英國ノ對獨策動ニ關シ質問シタルニ對シ「ヴェ」ハ佛、蘇、波及羅馬尼等ヲ誘ヒ一定ノ線ヲ劃シ獨逸カ其ノ線以上ニ侵略シ來

ベルリン 3月28日前発

本省 3月28日後着

レル場合ニハ共同ノ利益ヲ犯サレタルモノトシテ共同ノ態度ニ出ツルヘキ趣旨ノ共同宣言ヲ爲サンコトヲ提議シタル模様ナルカ右ニ關シテハ羅馬尼亞ハ之ニ贊同セス又波蘭ハ英佛ニシテ戰爭ノ覺悟アルヲ明カニセサル以上右提案ハ贊成出來ストテ之ヲ斷ハレリトノ情報アリ他方數日前英佛ノ間ニ於テ白、蘭又ハ瑞西カ獨ニ侵略サレタル場合之ヲ以テ佛國カ侵略サレタルモノト看做ストノ趣旨ニテ從來英、佛間ニ存在セル了解ヲ再確認セル軍事協定ヲ作成セル趣ナルカ(右三國ニハ相談ナカリシモノノ如シ)白、蘭、瑞西ノ三國共中立的立場ヲ維持スルヲ有利ト考ヘ斯ル英、佛ノ企圖ヲ歡迎シ居ラサル模様ナリ斯ル次第ニテ英國今次ノ策動ハ大體不成功ト認メラレ英、蘇間軍事協定説ノ如キハ事實ニアラサルヘシト察セラルト語リタル趣ナリ

226 昭和14年3月31日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭獨立を脅威する事態が発生すれば対波援助を行うとの英国首相声明について

1 独波開戦に至る経緯

第三三一號

一般的情報

ロンドン 3月31日後発
本省 4月1日前着

三十一日下院ニ於テ時局ニ對スル政府ノ見解ニ付質問アリ
首相ハ之ニ答ヘ左ノ通り聲明セリ

獨逸ノ波蘭攻撃計畫ノ噂ニ關シテハ何等公式ノ報告ナク從
テ事實ナリトハ受取り難シ英國政府ノ政策ハ常ニ闡明シ居
ル通り如何ナル紛争モ關係國間ノ自由交渉ニ依リ解決セラ
ルヘシトノ立場ヲ採リ居ルモノナリ平和的方法ニ依リ解決
シ得サル問題ナク從テ武力ヲ以テ交渉ニ代フルカ如キハ之
ヲ正當ト爲シ得サルナリ現在英國政府カ時局ニ關シ他國政
府ト協議ヲ進メツツアルコトハ周知ノ通りナルカ英國政府
ハ右協議完了ニ先立チ此ノ際其ノ立場ヲ明確ニシ置カント
ス即チ萬一波蘭ノ獨立ニシテ明ニ脅威セラルルカ如キ事態
發生シ波蘭政府カ國力ヲ擧ケテ之ト抗爭スルノ必要ヲ認め
タル場合ニ於テハ英國政府ハ即時同國ニ對シ政府トシテ爲
シ得ル限り全幅ノ支持ヲ與フヘク政府ハ既ニ波蘭政府ニ對
シ右趣旨ノ保障ヲ與ヘタリ又佛國政府モ同様ノ立場ニ在ル

コトヲ茲ニ闡明スルノ權限ヲ與ヘラレ居レリト述ヘタリ
次テ質問ニ答ヘ首相ハ以上ノ聲明ハ中間の報告ニシテ政府
ハ蘇聯ヲ含ム他ノ政府トモ協議ヲ進メ居リ今朝モ外相ハ蘇
聯大使ト會見シ本問題ニ全面的檢討ヲ加ヘタルカ蘇聯政府
モ英國政府ノ把持スル主義ヲ諒承シ居レリ「ベツク」外相
ノ來英ハ侵略阻止ニ關シ更ニ同國トノ努力協調ヲ充分ナラ
シムル方法ヲ研究スル機會ヲ與フヘシト答ヘ尙蘇聯トノ間
ニ思想的障礙ハ絶對ニナキ旨答ヘタリ
在歐各大使、壽府へ郵送セリ

227

昭和14年4月4日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國首相の対波援助声明に関する観測報告

ロンドン 4月4日後発

本省 4月5日後着

第三四二號

往電第三〇七號ニ關シ

一、蘇聯トノ連繫ハ國內ニ於テ反對アルノミナラス波蘭カ蘇
聯ト共同ノ軍事援助ヲ好マサル關係上一時延期ノ姿ニテ

専ラ將來ノ發展ニ俟ツコトナリ英國ハ主トシテ獨逸ノ東南隣國トノ連繫ニ力ヲ注キ居ル處

二、波蘭トノ關係ハ「ベツク」外相ノ倫敦訪問ニ關聯シ英國及獨逸共相當興奮ノ空氣ニテ當地ニ於テハ一時ハ恰モ獨逸軍ノ波蘭進入迫レルカ如キ報道スラ行ハレ獨逸ハ英國ノ此ノ種ノ宣傳ヲ攻撃シ緊張裡ニ往電第三三二一號「チエンバレン」ノ波蘭援助ノ重大宣言行ハレタリ波蘭ハ獨逸トノ關係上英國トノ軍事同盟ヲ締結スルコトヲ躊躇シ英國ノ援助ハ白耳義等西歐諸國ニ對スルカ如ク自發的一方的ノモノタラシムルコト及餘リニ獨逸ヲ刺戟セサル方法ニ依ラレタキ希望ヲ表明シ「チエンバレン」ノ議會ニ於ケル聲明トナレリ右聲明ハ「ベツク」ノ訪英ニ壓力ヲ加ヘタル獨逸ニ對スル牽制タルハ勿論ナルモ「ベツク」ノ倫敦交渉ニ對スル準備工作タルコトモ明カニシテ英國ニ對スル小國側ノ不信頼ノ空氣ヲ一掃セントスル意味アリ「ベツク」ノ交渉ハ英國ノ援助意嚮ヲ利用シテ財の援助ヲ求メ軍需品購入ノ爲「クレヂット」ヲ得ルヲ主トストト言ハレ居レリ

三、英國首相ノ聲明ハ英國外交政策ノ劃期的轉換ナリトハ之

迄冷靜ニ自重セシ首相自身議會ニ於テ言明スル所ニシテ英國内政府黨、反對黨ノ一致セル國民的決意表明ト見ルヲ得ルト共ニ右ハ今日ノ處波蘭ノ獨立侵害ノ場合ニ限ラレ獨逸トノ合意ニ依ル場合等獨立侵害ノ意義ニ付テハ將來ニ對スル問題起リタル場合ニ其ノ適用ニ付再ヒ英國内左右兩派ノ意見ニ相違ヲ來スコトアリ得ヘシ從テ英國ノ起。否。如何ノ問題ハ要スルニ軍備ノ進捗程度ト輿論ノ方向如何ニテ定マル譯ナルモ獨逸ノ大陸優越權設定ニ對スル反擊政策ハ茲ニ確定セラルルモノニシテ今回ノ致國併合ハ恰モ一九一四年ノ白耳義侵入ニ比スルカ如キ感情ヲ以テ迎ヘラレ居レリ

四、波蘭ニ對スル交渉ト同様ノ提議ハ他國ニ對シテモ行ハレ羅國ハ目下「バルカンパクト」國特ニ土耳其等ト協議中ノ由ニテ諜報ニ依レハ羅國ハ獨逸ノ侵略ヲ受クル場合土耳其古カ英佛艦隊ニ海峡通過ヲ許スヲ條件トシテ既ニ英國ノ提議ヲ受諾シ來レリトノコトナルカ英國ハ羅國ノ石油ヲ獨逸ノ自由ニ委ヌルコトハ獨逸ニ決定的優勢ノ地位ヲ與フルモノナリトシテ總ユル手段ヲ以テ之ヲ妨ケントシ居ルモノト傳ヘラル然シ乍ラ獨逸ニ對スル防禦ノ方法無

1 独波開戦に至る経緯

キ東南歐諸國ハ西歐大國ト連繫シテ其ノ政策ノ犠牲トナルコトハ非常ニ躊躇セラルルヲ以テ尙幾多曲折ヲ免カレサル様子ナリ

獨、波、蘇、米ニ轉電シ其ノ他在歐大使、壽府ニ暗送ス

228 昭和14年4月5日 在独国大島大使より 有田外務大臣宛(電報)

对波關係に関する独国外相の内話について

ベルリン 4月5日前発
本省 4月5日夜着

第三二三號(極秘)

三日「リ」ト會談ノ際彼ハ對波關係ニ關シ獨逸ハ對蘇關係上波蘭トノ關係ヲ出來得ル限り良好ナラシムル様努メ居ルモ何分波蘭ノ國內事情複雑ナル上ニ現在英佛等ノ策動モアリ「ベツク」ノ地位モ強固ナラス明確ナル態度ヲ執リ兼ネ居ルモノト思考ス然レトモ獨逸カ波蘭ニ求ムルハ大體「ダンチツヒ」ヲ獨領トスルコト及「コリドール」(ヲ)通スル獨逸ノ交通路設定ヲ條件トシテ獨波現存國境ヲ保障シ且對「スロバキヤ」政策ニ關シ波蘭ノ意嚮ヲ尊重スルコトヲ約

東セントスルニ在リテ寧口寛大ナル要求ト思ヒ居レリ波蘭カ若シ「チエツコ」ノ轍ヲ踏ミ自國ヲ英、佛、蘇等ノ對獨前進根據地ト爲スカ如キコトトナラハ獨逸ハ之ヲ默過スルコト能ハス同國カ第二ノ「チエツコ」トナルコトモアリ得ヘカラサルコトニアラスル事態發生スルモ英、佛等ハ到底武力援助ヲ爲シ得ス從テ波蘭ノ抵抗ハ問題ニナラサルヘシスノ如キハ波蘭トシテ不利ナルヲ以テ同國內ノ反獨分子モ結局時日ト共ニ冷靜ヲ取戻スニアラサルカト見居ル次第ナリト内話セリ

尙「リ」ハ波蘭ノ防共協定加入ハ現在ノ所見込ナキモ獨トシテハ將來之カ實現ニ努力スル考ナリト語レリ

229 昭和14年4月5日 在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)

英国の対独包圍政策など欧州情勢の見通しに

つき報告

ロンドン 4月5日後発
本省 4月6日前着

第三四九號

往電第二〇七號ニ關シ⁽¹⁾

今回ノ事件ニ依リ益々明瞭トナレル一事ハ英國ノ國防線カ西歐(蘭、白、佛)ヨリ埃及「パレスタイン」ヲ經テ土耳其ニ至リ印度、緬甸、新嘉坡ヨリ濠洲ニ至ル線ニ在ルコトニシテ此ノ線ハ英國ノ強大ナル海軍力ヲ主トシ全力ヲ盡シテ防禦セントスルモノナリ尙獨逸ノ優越權ニ對抗スル意味ニ於テ東歐ニ於テ羅馬尼、波蘭ヲ通スル第一包圍線及蘇聯ヲ引入レントスル第二包圍線アルコトモ明カナリ英國ハ是等ノ線ヲ政治的、經濟的、財政的ニ維持強化スヘク全力ヲ擧ケツツアリ英國カ自治領ノ結合ヲ計リ帝國圈内ノ各種ノ障礙ヲ除キ(「パレスタイン」等)國內ニハ軍備ノ擴大(空軍ノ擴張、地方軍ノ倍加等)ニ邁進シ居リ對外的ニハ米、蘇其ノ他トノ聯携ヲ計リ居ルハ何レモ此ノ趣旨ニ出ツ

英國ノ今日考フル所ハ「ミュンヘン」會議ノ妥協ノ精神ハ死滅シ愈獨逸ノ武力ヲ以テスル優越權ニ挑戰セサルヘカラサル状態トナリタルヲ認ムルト共ニ國際關係ヲ判斷シテ獨逸ハ東進シツツ漸次大陸ニ於ケル霸權ヲ確立シ遂ニハ中央亞細亞方面ニ勢力ヲ及ホシ印度ノ帝國々防線ヲ

モ危クスルモノトシ又伊太利ハ西班牙及地中海ニ於テ完全ニ英國々防線ヲ破リ居リ

更ニ其ノ「イスラム」政策ヲ通シ「アラビア」印度方面ニモ危險ヲ及ホスモノトナシ更ニ日本ハ結局新嘉坡及緬甸印度ニ迫ルモノトナシ茲ニ外交政策トシテハ日獨伊三國ノ結合ハ最近ノ傾向ヨリミテ必スシモ強固ナラスト見テ之ヲ離間セントシ其ノ爲政治經濟財政ノ總ユル力ヲ利用スルハ勿論大規模ノ宣傳機關ト方法トヲ動員シ茲ニ三國ノ地位ヲ出來得ル限り各個ニ弱メント計畫シ居ルカ如シ

ニ、獨逸ノ西ヲ防キ東ニ進ムノ政策ハ今後モ着々進行スヘク右ハ獨逸ノ大陸ニ於テ絶對的優越權ヲ確立スル迄ハ尙急速度ヲ以テ爲サレサルヘカラサル歐洲國際情勢ニアリ今回ノ事件ニ依リ獨逸ハ波蘭、羅馬尼ノ線ニ突進シ居リ更ニ進ミテ次ノ準備ヲ急クヘシ即チ獨逸ハ北ハ「バルチック」諸國ヨリ波蘭、羅馬尼ニ至ル自己ノ地位ヲ強固ナラシムル爲英國ノ包圍政策ニ對抗シテ總ユル努力ヲ爲スモノト觀察セラル英國ノ對獨第二包圍線タル蘇聯トノ關係ヲ獨逸カ打破スルコトハ直接日本トノ關係ヲ招ク次第ナ

ルカ此ノ點ハ恐ラク歐洲ノ形勢ノ推移及日本トノ關係ノ今後ノ發展ニ懸ルコト多カルヘキモ獨逸トシテ恐ク今年一杯ニハ諸般ノ準備ヲ終ルモノト見ラル

三、獨伊ノ關係離間ノ策動ハ今回相當強ク行ハレ居ルモ「ヒ」、「ム」ノ提携ハ牢乎トシテ動カスヘカラサルモノアルカ如ク即チ獨逸力東歐ニ其ノ目的ヲ達シタル曉ニ於テハ伊ヲ援ケテ植民地問題ヲ起シ結局ハ佛ノ植民地ニ目ヲ付クルモノト認メラル即チ獨逸ノ東歐ニ於ケル經倫ノ成功スル迄伊ハ戰爭ヲ誘發スルコトナキ程度ニ於テ行動シ主力ヲ西班牙ノ事態ノ利用ニ集中スヘク認メラル然シ乍ラ右獨伊ノ關係ハ日獨伊三國關係ノ強力ナル結合ヲ前提トスルモノニシテ若シ日本ノ態度ニシテ動搖スルカ如キ場合ニハ直ニ英米等ノ利用スル所トナリ歐洲政局ニ重要ナル影響ヲ與フヘキハ勿論ナリ

四、英蘇ノ連繫ハ其ノ後ノ發展ハ屢報ノ通り從來ノ關係ニ制セラレ一進一退ノ狀況ナルヘキモ日獨兩國ニ對スル關係ヨリ常ニ相互利用ノ政策ハ強化セラルヘク特ニ蘇聯トシテハ歐洲ヲ獨イ中心ニシテ渦亂^(稱)ニ導キ自ラハ局外ニ立タントシツツアルカ如シ次ニ波蘭ハ蘇聯ヲ含ム共同宣言

ニハ反對ヲ表明シタルカ「ベツク」露國訪問ニ多大ノ期待ヲ懸ケ居ル英國側ハ頻リニ波蘭ト英佛トノ軍事同盟成立可能ヲ宣傳シ居ルモ假令或種ノ援助諒解成立スルモ其ノ實際ノ效果ハ尙問題ニシテ英國ノ東歐ニ於ケル獨逸包圍ハ英國軍備及外交力更ニ進捗シ西歐戰線ニ於テ自信ヲ得ル迄ハ效果ヲ擧ケ得サルヘシ

三月三十一日「チエンバレン」ノ波蘭援助聲明ハ英國ノ劃期的外交ノ轉換ト見ラレ愈々獨逸ノ優越權設定ニ對スル挑戰ト謂ハレ今後ノ發展ハ深甚ノ注意ヲ要スルモ恐ク英國ハ尙當分準備ノ不足ヲ感スルモノト認メラル

五、獨逸力從來ノ民族主義ヨリ逸脱シテ「チエツコ」ヲ力ヲ以テ併合セルコトハ重大ナル主義上ノ犠牲ニシテ英佛ノ大イニ乘スル所ナルハ勿論英佛ノ國內結合及對獨敵愾心ヲ旺ニシ歐洲ノ中小國ヲシテ恐怖ヨリ來ル利害ノ一致ヲ見セシムルニ至リ茲ニ獨英爭霸ノ勢顯著トナリ英國トシテハ第一項英國國防線ノ防禦ニ全力ヲ盡ス爲軍備ヲ進メ宣傳ヲ行フト共ニ其ノ優越ナル經濟財政力ヲ利用シテ獨逸ノ進路ヲ遮ルニ努ムヘシ然レトモ獨逸トシテハ英國ノ包圍政策ニ屈セサル以上即チ之ヲ打破スル爲東進ヲ續行

スルカ又ハ西歐ニ突出スルノ外ナク恐ラク「ヒトラー」トシテハ東進ノ豫定ヲ變更セサルヘク日本ハ好ムト好マサルトニ拘ラス對蘇聯ノ問題ニ直面スヘシ

230

昭和14年4月13日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

英波間の防守協定交渉に関するベック内話に
ついて

ウルシヤワ 4月13日後発
本 省 4月14日後着

第九六號(極秘)

往電第九〇號ニ關シ

「十二日「ベック」外相ヲ往訪セル處外相ハ英波協定ハ英國外交ノ一大轉換ナルモ波蘭トシテハ從來ノ外交方針ノ繼續ナリ即チ最近ニ於ケル英佛關係及佛ノ國情ニ鑑ミ佛波同盟ヲ強化セシモノニシテ善隣關係維持ノ熱意ニハ變化ナシ從テ獨ノ意嚮如何ニ依リテハ獨波不可侵條約ノ強化ニ付テモ考慮スヘク獨波間ノ諸問題ニ付テモ其ノ解決カ「リーゾナブル」ニシテ「オナラブル」ノモノナラハ

喜ンテ之ニ應スル用意アリ英波協定ハ防守のモノナルモ第三國ヲシテ其ノ約束ニ忠實ナラシメ強壓ノ手段ヲ執ラシメサラントスル積極的趣旨ヲ有シ右趣旨ヲ達成スル爲充分ノ效果アリト信ス從テ或ル者ノ憂フルカ如ク該協定ハ却テ歐洲ノ危機ヲ早ムル結果ヲ生スルヤモ測ラレサルモ右ハ一二全ク第三國(獨)ノ出方如何ニ懸ル次第ニシテ英ト同様ニ波トシテハ國運ヲ賭スル覺悟ヲ決シ居レリト説明シ本使ノ問ニ對シ

(イ)初メ英國ヨリ共同宣言案ノ提議アリタルニ對シ留保ヲ附セシニ其ノ後英國ヨリ種々懇談アリ右ニ付テハ前回會談ノ際ニモ内話セシ通りナル處(往電第七一號ノ四)英トシテハ一方のニ保障ヲ與ヘ其ノ決意ヲ示セルカ波蘭ハ致國トハ異ルニ依リ相互保障ト爲セルモノナリ(ロ)倫敦ニテ蘇聯ノ加入方ニ付相談ヲ受ケタルカ波ノ對蘇外交方針ハ御承知ノ通りナルニ付(トテ外相ハ一昨年十二月特ニ本使ニ手交セル「パクト、オリエンタール」案及對佛覺書ノコトヲ指摘ス一昨年往電第一五四號及客年一月二十二日附拙信機密第二四號)蘇聯トハ不可侵條約以上ニ深入スルヲ欲セストテ極力反對セル

1 独波開戦に至る経緯

- 結果英首相モ漸ク納得スルニ至レル次第ナリ
從テ英トシテハ今後蘇聯ヲ誘フヘシトハ思ハレス蘇聯⁽²⁾
トシテハ自國カ攻撃セラレサル限り中立ノ態度ヲ執ル
ナルヘシ或ル者ハ蘇獨接近ヲ見ルヘシト説クモ右ハ條
理トシテハ考ヘラレサルニアラサルモ感情ノ點ヨリ觀
テ當分アリ得サルコトト信ス尤モ眞ニ危急存亡ノ事態
トナラハ各國トモ其ノ政策ニ如何ナル變化ヲ爲スヤ測
リ難シ
- (ハ) 昨年九月ノ危機ニ際シテハ當時御話セシ通り自分ハ戰
争ニ至ラストノ確信ヲ有セシカ今日ハ斯ル確信ナシ
- (ニ) 然レハトテ巴爾幹關係ヨリ戰爭トナルヘシトハ思ハレ
ス今回ノ「アルバニヤ」事件ハ率直ニ言ヘハ伊ノ國內
關係ニ基クモノト思ハル右ハ伊國內ノ宣傳振ニ依リテ
モ看取セラルヘク恐ラク大事ニ至ラサルヘシ
- (ホ) 最近獨カ波ニ何等カノ要求ヲ爲セリ等ノ新聞報道アル
モ事實無根ニテ過去ニ週間以上獨波間ニ商議セシコト
ナク英波協定ニ付テモ獨紙論調ハ不機嫌ナルモ正式ニ
ハ未タ何等ノ申出ニ接シ居ラス
- (ヘ) 獨ノ反波宣傳カ最近如何ニ變化セルヤ知ラサルモ近頃

獨ノ反洪牙利宣傳顯著トナレリ獨ノ眞意カ那邊ニ在ル
ヤ捕捉スルコト困難ト言フヘシ

(ト) 羅馬尼トノ同盟ヲ修正スルコトニ付倫敦ニテ相談ヲ受
ケシモ自分ハ右ハ羅政府ト直接交渉スヘキ筋合ナリト
テ斷ハリ置ケルカ未タ羅政府ト協議スルニ至ラス云々
ト答ヘタリ

二、波トシテハ獨之迄ノ遣口ニ徴シ其ノ信賴ヲ失ヒ引續キ獨
逸ノ反波宣傳(「ブレスラウ」ノ學校ニテハ舊獨領恢復ノ
必要ヲ教ヘ居ル趣尙往電第四二號參照)ハ「アンシユル
ス」乃至致國問題起ル以前ニ夫々行ハレタルモノト同性
質ナリト觀測シテ獨ヲ疑ヒ且大イニ怖レ獨ノ强硬要求ハ
唯時ノ問題ニ過キスト看做シ假ニ獨伊樞軸ニ加盟セント
スルモ對蘇及內政關係上之ヲ許ササルノミナラス其ノ地
位ハ洪牙利ノ夫レニ類スルコトトナルヘキヲ思ヒ苦惱セ
ル矢先英ノ誘ヒニ逢ヒ而モ米モ亦之ニ即應シ英米共ニ對
獨强硬態度ヲ決シタルモノト認メ今次協定ヲ爲スニ至レ
ルモノト觀測ス右ニ付過般獨逸大使ハ本使ニ在歐洲米國
大使カ波蘭說得ニ努メ居ル形跡アル旨內話セルカ十二日
偶々米國大使ハ本使ニ「ブリット」大使ヨリノ傳言ヲ傳

ヘタルヲ以テ本使ハ貴使等ノ努力ハ酬ヒラレタルカ如シト言ヘルニ同大使ハ如何ニシテ嗅附ケタルヤト答へ自分等ノ努力ニ依リ波ヲ決心セシメタリトハ考ヘサルモ「ル」大統領ノ意ニ從ヒ説得ニ努メタルハ事實ナリ又英ノ強硬態度カ米國ノ輿論ニ支配サレタルコトモ亦事實ト認ムト内話セリ

英、獨へ轉電シ在歐各大使へ暗送セリ

英ヨリ米へ轉電アリタシ

231 昭和14年4月15日

在仏国宮崎(勝太郎)臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢の緊迫化に対する仏国動静につき報告

パリ 4月15日前發

本省 4月15日後着

第二二六號

先般來英ノ波蘭抱込運動活發ナリシ際ニモ佛ハ佛波間相互援助條約ノ存在ヲ指摘スルノミニテ何等表面的行動ニ出テス又訪英ノ際巴里ニ立寄ルヤノ噂アリタル「ベック」外相モ姿ヲ見セス所謂平和「チャンピオンシツプ」ヲ英ニ獻上

セルヤノ外觀ヲ呈セル爲國內ノ一部ニ於テハ政府ノ不活潑ニ嫌ラサルヤノ怨聲ヲ放ツ者モアリタルカ政府ハ今ヤ演説ヤ會議ノ時機ニアラストテ之ニ耳ヲ藉サス今次ノ「アルバニヤ」事件ニ對シテモ社會黨方面ノ執拗ナル議會召集論ヲ不問ニ附シ羅馬尼及希臘ノ保障問題ニ付僅ニ政府ノ聲明ヲ發スルニ止マリタリ

右聲明ノ内容ヲ檢討スルニ佛ハ今回ノ「アルバニヤ」事件ニ對シ特ニ伊ノ行動ヲ非難スルカ如キ言辭ヲ差控ヘ居ルコト一般ニ注目セラレ其ノ他ノ希臘、羅馬尼兩國ニ對スル保障カ一方的ニシテ「ベック」訪英前ノ英波關係ト同性質ノモノナルコト及保障ノ發動ハ希臘、羅馬尼共其ノ軍事的抵抗ヲ前提條件トセルコト等要點ナルカ當國左派カ喧傳是レ努メ居ル對蘇關係ニ付テハ特別ニ言及スル所ナク聊カ寂寥ノ感ヲ與ヘ居レリ

他方英ヲ主役トシ佛ヲ脇役トスル是等小國ノ獨立保障ナルモノハ當國ノ一部ニ於テモ果シテ如何程ノ實效アリヤニ懷疑のナルモノ鮮カラス曩ノ波蘭ト言ヒ今回ノ希臘、羅馬尼ト言ヒ白、蘭兩國トハ異リ何レモ地理のニハ獨、洪樞軸ノ彼方ニ在リ殊ニ希臘、羅馬尼ノ軍事的抵抗ナルモノハ甚タ微弱ニ

シテ一週間ヲ支へ得ルヤノ確信モナカルヘク而モ義務兵役ナキ英ノ陸軍ト獨ニ比シ三分ノ一ノ劣勢ニ在リト稱セラルル佛ノ空軍ヲ以テシテ良ク勝算アル攻勢ニ出テ得ルヤ頗ル疑問ナリト判斷セラレ居リ況ンヤ兩樞軸ノ全面的衝突ハ勝敗ノ如何ニ拘ラス多大ノ疲弊損害ヲ齎ラスノミナルヲ知ルニ於テ殊ニ然リトス今ヤ獨、伊、西、佛、洪ノ各國ニ於テハ何レモ百萬内外ノ軍隊召集セラレ居リ瑞西、和蘭、白耳義モ此ノ例ニ洩レスル空氣ノ中ニ佛側ハ軍備ノ缺陷補充ニ黙々ト努力シ居ルニ拘ラス英カ専ラ音頭取りニ浮身(當)ヲ偕スノミニテ義務兵役ノ制定ニサヘ乗り出ササル有様ハ佛ニ於テモ鮮カラサル不滿ヲ以テ眺メ居ル模様ナリ

在歐各大使、壽府へ暗送セリ

232

昭和14年4月15日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國の対独伊平和通牒について

ワシントン 4月15日後発

本省 4月16日後着

第三〇三號

十五日午前大統領ハ臨時ニ新聞會見ヲ行ヒ十四日午後九時「ヒットラー」總統ニ對シ要旨左ノ通牒ヲ發シ同時ニ同一趣旨ノ通牒國務長官ヨリ「ムツソリニ」首相ニ對シ發セラレタル旨ヲ發表セリ

現在世界數億ノ人類ハ戰爭ノ恐怖ヲ感シ事態此ノ儘ニ推移スルカ一旦武力爭鬪トナラハ戰勝國モ戰敗國モ中立國モ共ニ苦痛ヲ免レ難キ情勢ナル處列國首腦者ニハ來ラントスル災害ヨリ國民ヲ救フノ力アルヲ信ス歐洲ノ三國、阿弗利加ノ一國ハ何レモ獨立ヲ失ヒ極東ノ一國ハ其ノ廣大ナル領土ヲ隣國ノ爲占領セラレタルカ今ヤ更ニ獨立國ニ對スル新ナル侵略ノ計畫アリトノ報アリ余ハ眞率ナル會談ニ依リ國際問題ヲ解決シ得ルヲ確信スルモノニシテ貴下カ歐洲紛争ノ圏外ニ在ル國ノ首長タル余ニ對シ貴方ノ政策ヲ通報セラレ余ヲ仲介者トシテ之ヲ貴國ノ政策ニ危懼ヲ懷ク諸國ニ傳フルコトニ同意サルヘシト思考シ茲ニ問ハントスルモノナルカ貴國ハ芬蘭、「エストニヤ」、「ラトビヤ」、瑞西、諾威、丁抹、和蘭、白耳義、英國及愛蘭、佛蘭西、葡萄牙、西班牙、瑞典、「リヒテンスタイン」、「ルクセンブルグ」、波蘭、洪牙利、羅馬尼、「ユーゴスラビヤ」、露西亞、勃牙利、

希臘、土耳其、「イラク」、「アラビヤ」、「シリヤ」、「パレスタイン」、埃及及「イラン」ノ領土ニ向フ十年間(出來得レハ二十五年間)攻撃又ハ侵入ヲ爲ササル旨ノ確言ヲ與フル意思アリヤ若シ右確言ヲ與ヘラルレハ直ニ余ハ右ヲ前述ノ諸國ニ傳達スヘク是等諸國亦同様ノ確言ヲ余ヲ通シ貴國ニ向ツテ爲スヘシト信ス而シテ斯ル相互ノ保障成レル上ハ會議ヲ開キテ軍縮及國際通商障除去ノ二主要問題ヲ議セシコトヲ提案スルモノニシテ之ニハ米國モ喜ンテ参加スヘク又政治問題ニ付テハ關係國間ニ話合ヲ爲シ得ヘシ余ハ以上ノ申入ニ對スル貴下ノ回答カ人類ヲシテ恐怖心ヲ除キ「セキユリテイ」ヲ回復セシメ得ルモノナルヲ希望ス紐育ヘ郵送セリ

233

昭和14年4月16日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英仏両國の軍事外交上の準備が充実するまでは
対独衝突は発生しないとの観測報告

ロンドン 4月16日後發

本省 4月17日前着

第三八七號(極秘)
往電第三四九號ニ關シ

一、今回ノ英國ノ新外交政策確立ハ佛トノ密接ナル聯繫ニ依リ爲サレ又米ノ激勵ニ負フ所アリタルコトモ明カニシテ英國内部ノ輿論ヲ探查スルニ政界上下各方面ニ於テ之ヲ支持シ「シチー」方面モ之ニ贊意ヲ表シ居リ唯一部理想派ニ於テ蘇聯トノ提携ノ未タ手緩キコトヲ頻リニ非難シ居ル狀況ナリ右政策ハ現實主義者タル「チエンバレン」等ノ冷靜ナル判斷ニ依リテ確立セラレタルモノニシテ而シテ最近歐洲ニ於ケル時局ノ發展カ「アングロサクソン」特有ノ「センチメンタリズム」若クハ正義觀ニ訴ヘラレタル結果右政策ハ益々硬化スル傾向アルコトハ歴史ノ證明スル所ナリ

英佛ハ今回ノ政策決定ト共ニ軍備ノ急速充實及其ノ運用ニ非常ナル眞劍味ヲ加ヘ兩國ノ陸海空軍當局者ノ聯絡ハ殆ト完成シ居レル狀況ニシテ此ノ點ハ實際上ノ危險ヲ含ミ居リスノ如クシテ遂ニ双方勢力ノ衝突ハ到底免レサルモノナリトノ印象ヲ一般ニ深メツツアリ

(2) 當國ニ於テハ「アルバニア」問題ハ兎モ角一段落ヲ見タ

ルモ伊國ノ約束セル五月西班牙撤兵ノ問題ヲ繞リテ次ノ
危機生スヘシト不安ノ空氣ハ深刻トナリツツアリ株式界
モ之ヲ反映シ居レリ

西班牙問題ニ付テハ西國ノ防共協定勸誘ニ際シ既ニ獨伊
トノ間ニハ完全ナル軍事協定成立セルモノト見最近ノ西
「モロツコ」(「セオタ」)ニ於ル軍隊ノ増加等ハ「ジブラ
ルタル」ニ對スル西國ノ要求ヲ反映セルモノニシテ西班
牙問題ノ背後ニハ獨伊アルハ既ニ明瞭ナリトシ此ノ點ハ
又佛ニ對スル直接ノ脅威ナルヲ以テ佛ニ對シ多大ノ刺戟
ヲ與ヘ居ル狀況ナリ「チエンバレン」トシテハ英伊協定
ヲ楯トシテ西班牙問題ノ解決ヲ齎ラサント焦慮シツツア
ル模様ナルモ世界全局面ノ重大化セル今日伊太利引離妥
協ノ政策ニハ一般ニ大ナル期待ヲ懸ケ居ラス

三、英國カ羅、希兩國ニ關シ爲セル今回ノ保障ニ付テハ素ヨ
リ佛ト協議ノ結果ナルカ之ヲ波蘭ニ對スルモノト比較研
究スルニ幾分ノ字句ノ差違アリ英國側保障カ鞏固ナル決
心ヲ以テ爲サレタルコトハ前述ノ通りナルモ其ノ運用ニ
付テハ未タ幾分ノ餘地ヲ殘シ居レリ

是等東歐及巴爾幹諸國ノ態度ハ英佛ノ武力援助ニ對シ充

分ノ信頼ヲ掛ケ得サル關係ヨリ獨伊トノ關係ニ於テモ相
當現實的ナル取引ヲ爲シツツアルカ如ク昨今ハ是等小國
ハ獨伊側ト英佛側トニ於テ奪合ヒノ形ナルモ英國ノ決意
ノ漸次明カトナルト共ニ米國ノ態度ニ刺戟ヲ受ケ且英國
ノ對蘇聯及土耳其古政策カ成功スルニ伴レ小國側ノ態度モ
漸ク之ニ左右セラルルノ傾アリ

四、英國カ目下全力ヲ注キ居レルハ英國ノ包圍政策ノ「キ
ー」的地位ヲ有スル土耳其古ノ抱込ナリ土ハ英ノ宣傳ニモ
拘ラス露獨英ノ間ニ挾マレ未タ明白ナル態度ヲ決定シ得
サルカ如ク英トシテハ東歐諸國ニ對スル保障ノ關係上土
ヲ取入レ兩海峽ノ通過ノ自由ヲ確保スルコト絕對ニ緊要
ナルヲ以テ目下此ノ方面ニ全力ヲ擧ケツツアリ而シテ他
ノ重要ナル地位ヲ有スル蘇聯ニ對シテハ英國ハ形勢斯ク
ナル以上ハ佛ト共ニ軍事同盟ヲモ辭セサル態度ヲ明瞭ニ
シ蘇聯引込ニ力ヲ注キ他國(波蘭、羅馬尼等)ノ故障ヲ除
ク爲努力シツツアリ

五、⁽⁴⁾獨伊トシテハ英佛ノ包圍線ノ突破點タル西班牙ヲ利用シ
テ後方攪亂ノ作用ヲ爲サシメントシ(此ノ點ハ米國ヲ刺
戟シツツアリ)英佛ノ軍備充分ナラサル間ニ東歐、巴爾

幹ニ勢力ヲ固ムル方向ニ進ミツツアルハ明ラカニシテ此ノ見地ヨリ勃牙利ノ「ドブルジヤ」海港「デデヤガツチ」要求問題、洪牙利ノ「トランシルバニア」要求問題、「ユーゴ」問題等ヲ中心トシテ頻リニ新聞報道等ニ注意拂ハレ居リ之ニ對シ英ハ既ニ波蘭及羅馬尼、希臘ニ保障ヲ與ヘ居ルヲ以テ直ニ衝突ノ惧ナシトセサルモ前述ノ通り英ノ保障ニハ幾分ノ餘裕ヲ存シ居リ且是等諸小國モ現實ノ政策ノ問題トシテ今日直ニ英佛ノ完全ナル武力援助ヲ期待シ得サル狀況ニ於テハ或種ノ體面ヲ保チ獨伊ト交渉ヲ行ヒタキ希望ヲ有シ居ルニ顧ミ英佛ノ外交軍備ノ完全ナル準備出來上カル迄茲當分ハ恐ラク大衝突ナクシテ進ムモノト見ラル

六、而シテ英佛側ノ軍備ハ勿論外交上ノ準備モ前記ノ如ク着々進捗シ其ノ間ニ異常ノ宣傳行ハレツツアル狀態ニ於テハ歐洲ノ戰亂ハ何等カノ形ニ於テ不可避ノ點ニ押詰メラルヘク勿論總テハ今後ノ進展ヲ俟テ判斷セサルヲ得サルモ今日ノ事態ニ付テ見ルニ猶大體蘇聯ノ參加アル場合ト然ラサル場合ト二分チ歐洲大亂ノ際ニ處スル我方ノ態度ニ付考究シ置クヲ要スヘシ

234

昭和14年4月17日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國の対独伊政策の背景に米国の支援がある

との観測報告

ロンドン 4月17日後発

本省 4月18日前着

第三九二號

英國政府カ佛ト提携シテ波蘭、羅馬尼、希臘ニ對シ保障ヲ與ヘ又蘇聯、土耳其ノ抱込ヲ策シ樞軸諸國ニ對抗シテ萬一ノ場合一戰ヲ辭セサル強硬態度ヲ固ムルノ政策ノ大轉換ヲ行ヘルニ付テハ其ノ背後ニ於テ米國ノ有力ナル聲援アルコト與ツテ力アルモノト觀測セラレ大統領ノ意ヲ承ケタル在歐米國大使カ頻リニ英佛政府ト聯絡シ活動シツツアルコトハ累次電報ノ通りナル處歐洲問題ニ捲込マレサルコトハ寧ロ米國ノ國是ニシテ孤立主義者ノ勢力ハ牢固タルモノアルニ拘ラス最近歐洲事態ノ急速ナル發展及其ノ重大性ハ民主主義國ニ對スル重大脅威ヲ感セシメ米國人一般ノ感情性ヲ刺戟シ大統領ヲシテ思切ツタル強硬態度ヲ發表セシムルニ至レルカ如ク右ハ大統領ノ國內政治ヨリ發セラルヤモ知レ

1 独波開戦に至る経緯

サレトモ今日ニ於テハ大體國民ノ支持ヲ受ケ居ルカ如ク共和黨側等ニモ有力ナル賛成者モアルカ如シ素ヨリ米國國內事情ヲ當國ヨリ見テ判斷スルハ當ラサル所ナルヘキモ當國ヨリ最近ノ發展ヲ觀察スルニ米國ノ態度ハ單ニ一片ノ「ヂエスチャー」タルノ程度ヲ超ヘ居レリトノ感ヲ深クス以上ノ點ハ今日激化セル國際關係ニ處シ頗ル重要ナ點ナルニ付充分御考究ノ事トハ信スルモ爲念
米へ轉電セリ

235

昭和14年4月18日

在米國壠内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國大統領による平和通牒発出の背景につき
観測報告

ワシントン 4月18日前発
本省 4月18日後着

第三〇八號(至急)

往電第三〇三號ニ關シ

一、米大統領今次ノ獨伊宛「アピール」ハ要スルニ向フ十年

間波蘭、羅馬尼、希臘等ノ領土ニ兵ヲ進メサル保障ヲ與

フルナラハ仲介者トシテ他方諸國ヨリモ同様ノ保障ヲ取付ケ得ヘク然ル上ハ獨伊從來ノ要望ニモ鑑ミ軍縮殊ニ通商障碍除去問題ノ解決ニ一肌脱クヘク尤モ政治問題ハ直接關係國間ニ話合ヒ然ルヘシト言フニアリ

二、大統領カ「アピール」ヲ發表セル新聞會見ノ際獨伊ニ對シ不侵略保障ヲ促シタル諸國中ニ「ダンチヒ」無キハ如何トノ質問ニ對シ右ハ自由市ニテ獨立國トハ言ヒ難キニ付特ニ「メンシヨシ」セサリシ旨ノ非公式説明アリタル趣ナリ他方埃太利、致國、「アルバニア」及「エチオピア」ヲ舉ケサリシハ之等ノ消滅ハ既成事實ナルヲ暗示シ居ルモノト見ラル要スルニ今日ノ獨伊ハ既往ハ兎モ角將來ハ斯クシタシトノ趣旨ト解セラル尙政治問題ハ直接關係國間ニテ議スヘシトアル處政治問題ハ何カトノ質問ニ對シ大統領ハ右ハ國境領土交換等ニ關スルモノナリト答ヘ且本件「アピール」ニ付テハ事前ニ何レノ國トモ協議セルコト無シト述ヘタル趣ナリ(佛國大使モ十五日日本使ニ對シ英佛ニ對シ事前ニ協議無カリシト承知スル旨語レリ)

三、極東ニ關シテハ「アピール」中ニ或一國ハ廣大ナル領土

ヲ隣國ニ占領セラレ居レリトテ事實上我國ヲ獨伊ト一絡ニ扱ヒ居リ乍ラ我國ニ對シテハ何等申出テ來ラサリシハ米國トシテ目下關心ヲ抱クハ主トシテ歐洲問題ニシテ極東問題ハ第二次のトナリ唯歐洲情勢ニ影響ヲ及ホス程度ニ於テ日本ノコトヲ考慮シ居ルモノノ如ク從テ今我國ヲ獨伊ト同列ニ取扱ヒ日本ヲ驅ツテ獨伊トノ連携ヲ益々固メシムル結果トナルヲ不得策ト考ヘタルニ依ルモノト見テ可ナルヘク旁艦隊ノ太平洋歸還線上ノ如キヲ以テ事實上我方ニ睨ミヲ利カスニ必要且充分ト考ヘタルモノト觀察サル

四、最近致國、「メーメル」、「アルバニア」ト次々ニ起リ來レル獨伊ノ進出ニ對シ米大統領ハ過日來英佛ヲ援ケ獨伊ヲ牽制スヘク獨伊兩獨裁國ニ對スル直接呼掛ケヲ考慮シ居タル折柄獨ノ「ダンチツヒ」進出近シトノ報道頻リニ傳ヘラレ(十九日ノ總統誕生日ヲ期シ敢行セラルヘシトサエ爲ス者アリ)他方英佛モ遂ニ決意ヲ固メ波蘭、羅馬尼及希臘ニ對シ共同保障ニ乘出セルヲ見茲ニ獨ノ機先ヲ制スヘク急遽「ハル」長官及「ウエルス」次官ト相談ノ上十四日夜「メツセーヂ」ヲ發電セルモノト認メラル

然レ共本「アピール」カ直ニ受諾セラルルモノトハ初メヨリ期待シ居ラサルモノノ如ク其ノ主タル狙ヒ所ハ歐洲ニ戰爭起ラハ獨伊ノ責任ナルコトヲ豫メ明瞭ナラシメ時機ヲ失セサル中ニ全世界ノ輿論ヲ英佛ノ側ニ動員スルト同時ニ世界政局上ニ於ケル米國ノ「プレスデージ」ヲ高メ之ヲ以テ内政上現民主黨政府ノ立場ヲ有利ナラシメントスルニアリテ「アピール」ヲ直ニ公表シ而モ歐洲及南米ニ對シ英、佛、獨、伊、葡萄牙、西班牙ノ六箇國語ニテ放送セル如キ正ニ之ヲ示唆スト云フヘシ

唯今次ノ「アピール」ニ依リ米大統領カ歐洲問題ニ一歩踏出シ英佛援護ノ氣勢ヲ一段ト明瞭ナラシメ其ノ結果萬一獨伊、英佛間ニ事アル場合少クトモ米ノ物質的援助カ相當迅速ニ行ハルヘキ機運ノ助長セラレタルコトハ一般ノ均シク認ムル所ニシテ當國言論界ノ中ニハ此ノ際獨伊ヨリ不攻略ノ保障ヲ取付クルカ如キコトノ可能性ヲ疑ヒ又假ニ取付ケタリトスルモ右カ平和維持ノ爲何ノ程度ノ價値アリヤヲ疑フモノアルモ「アピール」ノ文句比較的穩ニシテ獨伊ノ立場モ考慮シ居ルノミナラス米國トシテ昨年九月ノ場合ト同様何等「コミット」スル所ナキヲ

以テ「ハル」長官モ十五日夜宴會ノ席ニ於テ本使ニ對シ米國トシテハ何等干涉ノ意無ク友誼の申入ヲ爲セルモノナリトノ趣旨ヲ語レリ「アピール」其ノモノニ對シテハ殆ト一齊ニ贊意ヲ表シ流石ノ「アイソレーシヨニス」トモ此ノ所聲ヲ潛メ居ル如キ狀況ナリ從テ本件處置ニ對スル獨伊ノ應酬振ニ依リテハ獨伊ヲ米國國民ノ前ニ一層不利ニ映セシメ中立法修正問題ノ推移ニモ相當影響ヲ與フルモノト察セラル

伯刺西爾ヨリ南米各公使へ暗送アリタシ

獨、伯へ轉電シ紐育、加へ暗送セリ

獨ヨリ在歐各大使へ轉電アリタシ



236 昭和14年4月21日 在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢に関する米國國務次官との意見交換
について

ワシントン 4月21日前発
本省 4月21日夜着

第三二三號

二十日「ウエルズ」國務次官ト會談ノ際本使ヨリ歐洲情勢ニ付如何様考へ居ラルルヤト尋ネタルニ同次官ハ目下ノ情勢ハ極メテ豫測ヲ許ササルモノナリ歐洲各方面ニ軍事的措置行ハレ例へハ地中海等ニ於ケル軍艦ノ動靜各國ニ於ケル兵ノ召集ノ如キ事實上ノ動員狀態ハ甚タ不安ヲ感セシムルモノアリ此ノ情勢ニ對スル米國ノ態度ハ過日ノ大統領「アピール」ニ依リ明カナリト言ヘルニ付之ニ對スル獨伊兩國ノ反響如何ト尋ネタルニ現在ノ所新聞ニ依リ承知セル以外格別ノ情報ニ接シ居ラスト答ヘタリ更ニ本使ヨリ「アピール」ノ中ニ獨伊カ不侵略ノ保障ヲ與ヘタル曉ニハ軍縮及通商障除除去ノ國際會議ニ參加ノ用意アル旨述ヘラレ居ルカ米國ハ何等カ具體的結果ヲ豫期セラレ居ル次第ナリヤト借問シタル處同次官ハ現在各國ニ不安ヲ與ヘ居ル問題ハ三アリ一ハ特定國間ニ於ケル政治問題ナルカ之ハ關係國間ニテ解決サルヘキ問題ニシテ米國ハ之ニ關與スル考ナシ是等ノ問題解決サレタル後平和的空氣ノ下ニ軍縮及通商問題ヲ審議シ得ルモノト考へ居ル次第ニシテ軍縮ハ申ス迄モナク各國力軍備競争狀態ニアリ財政上ノ負擔ヲ増シツツアルヲ以テ米國トシテハ斯ル事態ヲ改メ漸減的軍縮ヲ行フコトカ適

當ト考ヘ居レリ幸ニシテ關係各國カ米國今回ノ提議ニ贊同シ國際會議開催ノ場合ニ於テハ前記三種類ノ問題ヲ別々ニ審議シ米ハ後ノ二ツニ參加スヘシト述ヘタリ依テ本使ハ歐洲ノ情勢ニ付テハ世上頻リニ war talk カ流布セラレ居レルモ新聞カ聊カ「エキジヤジエレイト」シ居ル様思ハルルモ事實上ノ動員狀態以外ニ歐洲戰爭カ切迫シ居ル何等カノ「インデイケイション」ヲ有シ居ラルルヤト問ヒタルニ次官ハ米國トシテモ今直ニ大戰爭カ起ルヘシトノ特別ノ前兆ヲ認め居ル譯ニハアラサルモ何時如何ナルコト勃發スルヤモ知レサル不安カ各國ヲ襲ヒ居ル現下ノ事態カ此ノ儘繼續スルニ於テハ實際ニ戰爭勃發ノ危險アルニ付早キニ及ンテ此ノ不安ヲ除カントスルコトカ米政府ノ意圖スル所ナリト答ヘタリ

英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛獨伊ヘ轉電アリタシ



237 昭和14年4月26日

有田外務大臣より
在英国重光大使宛(電報)

英ノ提携の東洋に及ぼす影響につきクレー

ギー英国大使へ注意喚起について

本省 4月26日後8時30分発

第一〇九號(極秘)

二十二日在京「クレীগー」英國大使本大臣ヲ來訪ノ際
一、本大臣ヨリ新聞報ニ依レバ英蘇提携ノ話合ヒ進行中ナリトノコトナルガ帝國ハ歐洲ニ於ケル情勢殊ニ蘇聯ト英國トガ提携スルコトハ其ノ東洋ニ及ボス影響ノ甚大ナルモノアルヘキニ鑑ミ特ニ異常ナル關心ヲ有スル次第ナル旨ヲ述ベタル處同大使ハ歐洲ノ平和維持ノ爲特ニ東歐ノ事態ヲ考慮シ英國トシテ或程度迄蘇聯ト手ヲ握ルハ已ムヲ得ザル所ニシテ寧口強ヒラレ居ル有様ト謂フヘク英蘇ノ接近ハ英ノ「フォールト」ニ非シテ獨ノ「フォールト」ニ出ズルモノナリト述ベタルニ付本大臣ヨリ帝國ハ唯英蘇ノ接近カ東洋ニ重大ナル關係ヲ有スルニ鑑ミ之ヲ重視スルモノナルコトヲ英國側ニ於テ充分承知セラレ度シト考ヘ居ル次第ナリト述ベタリ

二、大使ヨリ日獨伊關係強化問題其後ノ經過如何ト尋ネタルニ付本大臣ヨリ前回會談ノ際述ベタル所ト何等變更無シト答ヘタル處大使ハ然ラバ帝國政府ハ尙本問題ヲ研究中

パ リ 4月27日後発
本省 4月27日夜着

238

昭和14年4月27日

在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

英ソ提携協議の停滞に関する観測報告

ニシテ政府間ノ交渉ハ未ダ行ハレ居ラザル次第ナリヤト
尋ネタルニ付本大臣ハ(右ニ直接答ヘズ)帝國政府トシテ
ハ本件強化方ヲ考慮シ居ルモ右強化ヲ何時如何ナル方法
ニ依リ實行スルカハ日本ノ直面スル情勢如何ニ依リテ決
定セラルヘキモノナリト考ヘ居ル旨答ヘタリ
右ニ對シ大使ハ日英間ニハ種々困難ナル問題アルモ支那
事變終了セバ何トカ調整ノ途モアルヘシト考ヘ居ル處日
獨伊關係強化ニシテ實現セララルニ於テハ右調整ノ余地
モ無クナルヘシト繰リ返ヘシ述ベ居リタリ
尙二十四日波蘭大使本大臣ヲ來訪ノ際本電一ノ點ニ付之ヲ
話シ置キタリ
在歐各大使在米大使ヘ轉電アリ度シ

獨ノ「ブラハ」進出後英佛ノ開始セル東歐諸國抱込運動ハ
相當好調ヲ傳ヘラレタルカ最近軍事的地理的及通商の二優
位ヲ占ムル獨伊ノ反擊ニ遭フヤ聊カタチタチトナリ殊ニ洪
牙利ヲ中心ニ「ユーゴースラビヤ」及勃牙利ヲ連結シテ巴
爾幹協商ヲ破リ波蘭、羅馬尼、土耳其、希臘ヲ壓迫セント
スル氣勢ハイタク英佛ヲシテ狼狽セシメ居ル處英佛力蘇聯
邦ノ蹶起ヲ促スヘク焦慮シ居ルハ大勢巴爾幹方面ニ非ナル
ヲ蔽ハンカ爲ナルコト當然ニテ當方面ノ報道ハ蘇聯邦ノ英
佛陣營參加カ既ニ實現ノ途上ニ在ル旨屢傳ヘ居ルモ從來親
蘇分子力蘇聯邦トノ聯絡ヲ愆漣スルニ對シ反蘇分子ハ英ノ
義務兵役制ヲ重視シ以テ獨伊ニ遅レサランコトヲ努メ來レ
ルニ徴シ近時英ノ動向カ義務兵役制ニ傾キ始メタルハ蘇聯
邦ノ抱込意ノ如クナラサリシ證左ナリト見ルモノナキニア
ラス
斯クシテ英佛モ漸ク自力更生ノ本筋ニ入り來リ尅大ナル軍
備豫算ヲ計上シテ國民ニ半戰時的犠牲ヲ要望スルニ至レル
カ茲暫クノ間兩樞軸間ニ睨合ノ状態カ繼續スルモノトセハ
英佛ニ取り軍事的「ハンデイキヤツプ」ヲ回復スルノ強味
ハ加ハルヘキモ「デモクラシー」及自由主義經濟ノ立場上

最後迄國論ノ統一ヲ持續シ得ヘキヤ多大ノ努力ヲ要スヘク
今後ノ動向ハ主トシテ此ノ點ニ懸リ一カ八カノ戰爭開始以
上ニ問題ノ觀察ヲ複雜ナラシムヘシト思考セラレ
在歐各大使、壽府へ暗送セリ

239

昭和14年4月28日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英ソ提携交渉には極東問題を持ち出さないと
の英國外相言明について

ロンドン 4月28日前発

本省 4月28日前着

第四三〇號(至急)

二十七日求メニ依リ外務大臣ヲ往訪シタル處「ハリファツ
クス」ハ「クレイギー」其ノ他ヨリノ報告ニ依レハ英蘇交
渉ニ付テ日本政府ノ充分ナル諒解ヲ得置クコト緊要ナリト
認メラレタルニ付至急貴大使ヲ煩ハスコトトセリ英蘇交渉
ハ既ニ御承知ノ通り倫敦及莫斯科ニ於テ繼續中ナルモ右ハ
侵略アル場合蘇聯ノ援助ヲ洩ラスコトナキ趣旨ヨリ爲サレ
タルモノニシテ歐洲問題ニ局限セラレ極東方面ノコトハ英

國側ヨリハ勿論蘇聯側ヨリモ持出サレタルコトナシ英國ハ
常ニ極東問題ト歐洲問題トヲ區別シテ考ヘ居レリ此ノ點充
分ニ御了解ヲ得度ク右ハ日英關係改善ヲ常ニ念頭ニ置ク爲
茲ニ申入ヲ爲ス次第ナリト申出テタルニ付本使ヨリ右ニ關
シ英蘇交渉ノ狀況ヲ伺ヒ得レハ幸ナリト答ヘタルニ「ハ」
ハ素ヨリ御説明申上クヘシトテ右ハ莫斯科ニ於テ「リトビ
ノフ」ト英大使トノ間ニ又當地ニ於テハ自分ト「マイスキ
ー」(最近ハ代理)トノ間ニ行ハレ居リ未タ結末ニハ達セス
其ノ趣旨ハ前申上ケタル通り萬一歐洲ニ於ケル侵略行爲ア
ル場合ニ對シ之ヲ防ク爲蘇聯ノ力ヲ借ラントスル趣旨ニ出
テ居ルモ獨蘇間ニ横タハル波蘭及羅馬尼トシテハ自ラ獨蘇
ニ對スル立場及感情アリ又援助ノ程度ニ付テモ種々交渉ヲ
要スル所アリ又國內ニハ蘇聯ノ力ナルモノニ付テ種々判斷
ヲ異ニスル者モアリ今日猶交渉ヲ續ケ居ル次第ナリト説明
セリ

本使ハ過日「サイモン」藏相ハ政府ノ名ニ於テ軍事同盟ヲ
蘇聯ト締結スルコトモ主義上異存ナシト聲明セラレタルカ
右ノ程度迄發展スヘキヤト問ヒタルニ右ハ主義上ノ聲明ナ
ルカ交渉上ノ狀況程度ハ大體上記ノ如シト述ヘタルニ付本

使ハ右説明ヲ謝シ御希望ニ依リ右ハ早速本國政府ニ傳達ス
ヘシト答ヘタリ

240 昭和14年4月28日
在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢觀察上の留意点に関する筒井書記官
の意見具申

パリ 4月28日後發
本省 4月29日前着

第二五九號

貴電第一一六號ニ關シ(歐洲情勢觀察及事務連絡ノ爲筒井
書記官出張ノ件)

手不足ノ折柄ニ付適當時機ニ成ルヘク速ニ筒井ヲ出張セシ
ムヘキ處同官ヨリ不取敢左記具申アリタリ

出張後ノ報告ハ別トシ時局柄不取敢早見申進ス

(一)四月中旬佛國ニ於テハ獨伊側ノ不意打ヲ惧レ萬一二備ヘ
ル警戒配備ヲセル程ナルモ現在ノ處獨伊側モ英佛側モ戰
争ニハ至ラサルコトヲ望ミ居ルモノト想像セラル
即チ獨伊ハ英佛其ノ他カ戰爭スル決心付カス準備モナキ

ニ乘シ捨身ノ姿勢ヲ執リ戰爭ノ脅威ヲ以テ威壓シツツ戰
争ニハ至ラスシテ膨脹發展ノ希望ヲ遂ケ來レル處出來得
ル限り此ノ手ヲ續ケントシ居ルモノト認ムヘク英佛ハ
「ミュンヘン」政策ノ完全ニ失敗セル今日ニ於テハ軍事
外交内政上諸般ノ戰爭ノ準備ヲ急キ強硬態度ヲ以テ押シ
之ヲ誇大ニ吹聴シテ列國ヲ獨伊側ヨリ遠サケ獨伊側ヲ孤
立ニ陥レ尻込ミサセント試ムル以外ニ途ナキ次第ニテ之
ニ依リ獨伊ノ膨脹ヲ喰止ムルト共ニ獨伊ヲシテ戰爭ヲ斷
念セシメ得ンコトヲ望ミ居ルモノノ如ク此ノ意味ニ於テ
右戰爭準備ハ和戰兩様ノ目的ニ役立テントシ居ルモノト
見ルヘシ(英國徵兵制度モ行ク々々ハ戰爭ニ役立ツ様ニ
ナルヘキカ差當リハ寧ろ政治的身振トシテノ意義ノ方カ
大ナルヘク當方面ニ於テモ此ノ意味ノ效果アルヘシトノ
感想ヲ有スルモノ多シ)要スルニ双方共ニ闘ハスシテ目
的ヲ達セントシ相手ヲ威壓尻込セシムルニ努メ居ルモノ
ナルヘク双方共盛ニ虚勢ヲ張り誇大宣傳ヲナシ居ルモ未
タ戰爭ニ迄進ム肚ヲ決メタルモノト見ルハ尙早ナラン
(二)今後此ノ状態ニ變化ヲ與フヘキ要素トシテハ左記事情ノ
如キハ觀察ヲ怠ラサルヲ要スヘシ

(イ) 昨年九月ノ一般ノ憂慮狼狽戰爭絕對回避態度ニ比シ昨今ノ人心カ割合ニ平然タルハ一ニハ今回ハ和戰ノ瀬戸際カ目ニ見エテハツキリ現ハレ居ラサルニモ依ルヘキモ又一ツニハ人心カ危險ニ慣レテ次第ニ平氣トナリ放任的トナリ來レル心理狀態ニモ依ルモノト見ルヘク今後此ノ心理的傾向ハ外交軍備ノ競爭激化竝ニ國民生活上物心兩面ノ苦痛増加(戰爭氣構ノ爲經濟界ノ困難甚タシ)ト相俟ツテ勢ノ趨ク所戰爭避ケ難シト觀念スル者乃至ハ前途益々不安ナル平和ヲ續クルヨリモ寧口戰爭ヲ賭スルニ如カストノ心理ヲ益々一般化スルニ至ルヘク戰爭回避ノ努力ハ減退スル傾向ニ在ルヘク

(ロ) 白熱的競爭ハ無限ニ續ケ得サルヘク時間ノ經過カ何レノ利益ニ歸スヘキヤカ判然タルニ至ラハ早く戰フヲ利トスルモノハ和戰何レカヲ選ハサルヲ得サルヘキ處英佛側ニ於テハ從來無準備ナリシ丈クニ時間ノ經過ハ有利ナリト信シ居ルモノノ如ク(獨伊カ現在直ニ不意打シ來ラサルヤヲ惧レ居ルモ此ノ爲ナルヘシ)又其ノ國論ヨリ見ルモ進ンテ戰ヲ開クコトハ出來サルヘク和戰ヲ決スルモノハ結局ハ獨伊更ニ突キ詰ムレハ獨逸ノ肚

ナルヘク之ヲ絶エス讀ミ居ルコトカ時局判斷ノ要諦ナルヘク其ノ他諸國ニ於ケル狀況ノ推移ハ夫レ自體重要ナルニハ相違ナキモ要スルニ獨逸カ肚ヲ決スル材料ナルニ過キサルモノト見ルヲ得ヘシ

(ハ) 是等狀況ヲ觀察シツツ全局ニ對スル結論的判斷ヲ下スハ總テノ情報ノ集中スル本省以外ニ於テハ爲シ得サルヘシ倫敦巴里ノ如キ報道ノ割ニ自由ナル所ト雖畢竟盾ノ半面ヲ多ク見居ル次第ナルヘシ

(三)⁹¹⁾ 情勢觀察ニ當リ左ノ點注意ヲ要スヘシ

(イ) 雙方共外交及內政上ノ理由ニ依リ政策的目的ヲ有スル報道ヲ益々多ク放ち居ルニ付(最近殊ニ多キ日獨伊離間ノ爲ニスル報道ノ例ニ見ルモ明カナリ)外國新聞報道ハ其ノ儘ニハ信シ得サルモノ多ク重要ナルモノハ「チエツク」シ「タロスエクザミン」スル等充分ニ吟味スル要アルヘシ(尙競爭ノ爲先走り報道多クナルコトモ注意ヲ要ス例ヘハ「ダラデイエ」演説ノ國內反響ト題スル我新聞特電ハ多ク演説前ニ打電セラレタル如キ其ノ例ナリ)

(ロ) 我國新聞カ競爭シテ思ヒ々々ニ様々ノ外國報道ヲ受讀

シ我國ヲ外國宣傳ノ自由市場トスルコトハ我國ニテ外國報道ヲ其ノ儘信用スル傾向強キ丈ケニ我國論ヲ迷ハシムル危険アルノミナラス(殊ニ我國ニテ英米獨側報道壓倒的ナル點注意ヲ要スヘシ)新聞カ餘リニ歐洲「ニュース」ニ重キヲ置キ過クルトキハ國民ハ自然歐米情勢ニ氣ヲ奪ハレ東亞ニ於ケル我國策遂行ニ面白カラサル影響サヘアリ得ヘシ

(ハ)我代表常駐セサル國ニ關シテハ泥繩式ニ現地ニ人ヲ派スルヨリモ大國及近隣ノ中國ニ於テ官邊、政界、外交團、新聞方面等ヨリ情報ヲ得ルニ如カサルヘシ現地ニ於テハ御用通信ノ「コントロール」サレタル「ニュース」及流言蜚語ヲ得ル程度ニ止マルヘシ
在歐各大使、維納へ暗送セリ

241

昭和14年4月28日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

英独海軍協定および独波不可侵条約の廃棄を
ヒトラー声明について

第三八五號

ベルリン 4月28日後発
本省 4月29日前着

二十八日國會ニ於テ「ヒ」總統ハ英國及波蘭ノ最近ノ對獨政策ハ英獨海軍協定及獨波不可侵條約ノ精神ニ違反シ兩條約ハ孰レモ存在ノ價値ナキモノナリトシテ兩條約ノ廢棄ヲ聲明シ但シ英國及波蘭側ニ於テ各々本件ニ付新ニ談合ヲ爲スノ希望アラハ獨逸トシテハ之ニ應スルノ用意アル旨ヲ附言セリ

英へ轉電シ在歐各大使、壽府へ郵送セリ

242

昭和14年4月29日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

對英・對波關係、對日伊關係、米國大統領の
平和通牒に関する回答などヒトラー演説の要
旨報告

第三八八號

ベルリン 4月29日前発
本省 4月29日後着

〔¹¹ヒ〕總統ハ二十八日議會ニ於ケル演說ニ於テ獨逸外交政策ニ關シ就中對英對波關係及日獨伊三國樞軸ニ付述ヘタル後米大統領「ルーズベルト」ノ「メツセージ」ニ對スル回答ヲ爲シタルカ其ノ要旨左ノ通り

一、對英關係

獨英間ノ永續の友好關係ハ相互ノ利益尊重ヲ不可缺ノ前提トス英國ハ今日尨大ナル世界帝國ヲ擁シ居ルモ獨逸モ亦過去ニ大帝國ヲ成シタル經驗アリ英ニ對シ毫モ引ケ目ヲ感スルモノニアラス獨逸國民ハ二千年ノ歴史ニ於テ自ラ誇トスル數多ノ業績ヲ殘シタリ然ルニ英國力之ニ對シ何等ノ理解ナク獨逸ヲ目シテ從屬國ノ如クスルニ於テハ吾人ノ英ニ對シテ示シ來レル友好的態度ノ無意味ナリシコトヲ認メサルヲ得ス而モ吾人ハ之ニ依リ何等失望スルモノニアラス吾人ハ自ラノ力ト友邦ノ力ニ依リ獨逸ノ獨立ヲ保持シ名譽ヲ維持スルノ途ヲ見出スヘシ吾人カ英獨逸海軍協定ニ於テ自ラ進シテ海軍力制限ヲ約シタルハ兩國間ニ戰爭ハ起リ得ストノ確信ニ基クモノニシテ今日猶之ヲ信スルモノナルカ英側ニ於テハ今ヤ全ク之ト考ヲ異ニシ居ルコト明カトナレリ即チ英國ハ獨逸ノ參加スル總ユ

ル紛争ニ對シテハ常ニ反對側ニ立タサルヘカラストシ對獨逸爭ハ自明ノコトト解シ居レリ斯ル英ノ態度ハ洵ニ遺憾ナリ蓋シ獨逸ノ對英要求ハ英ニ取り何等ノ價值ナキ植民地ノ返還以外ニ何物モナク余ハ英ニ對シ曾テ其ノ利益ニ觸レ損害ヲ與フルカ如キ要求ヲ爲シタルコトナシ然ルニ英國カ總ユル場合ニ獨逸ニ對抗スヘシトノ態度ヲ持シ對獨逸包圍政策ニ於テ之ヲ實行セントスルニ於テハ海軍協定ノ前提條件ハ失ハレタリト言フヘク

²⁾余ハ本日右ヲ英政府ニ通告スルコトヲ決心セリ尤モ英國ニ於テ本問題ニ關シ猶獨逸ト交渉スル希望アルニ於テハ余ハ欣然之ニ應シ問題ノ明確ナル解決ヲ圖ルノ用意アリ

二、對波關係

獨逸條約ハ歐洲政局ノ安定ニ寄與スル所大ナリシカ「ダンチヒ」問題ハ未解決ノ儘殘サレタリ同問題ハ早晚解決ヲ要スヘキモノニシテ獨逸ハ數箇月來本問題ニ關シ波蘭ト接觸ヲ重ネタル後最近左ノ如キ具體的提案ヲ爲シタリ即チ

(一)「ダンチヒ」ハ「フライシユタート」トシテ之ヲ獨逸ノ手ニ復歸セシメ

(二)獨逸ハ「コリドー」ヲ貫通スル道路ト鐵道ヲ取得シ
右道路及鐵道ニ關シテハ波蘭カ「コリドー」ニ於テ有
スルト同様ノ治外法權の性質ヲ有セシムルト共ニ
他方獨逸ハ

(一)「ダンチヒ」ニ於ケル波蘭ノ全經濟利益ヲ承認シ

(二)波蘭ニ對シ「ダンチヒ」ノ自由港ヲ確保セシメ港ノ規
模及出入ヲ全ク自由トシ

(三)右ヲ以テ獨波國境終局ノモノト認メ

(四)二十五年間ノ不可侵條約ヲ締結シ

(五)「スロヴァキア」獨立ヲ獨波洪三國ニ依リ共同保障ヲ
爲スコト

ヲ提議セルカ波蘭ハ之ヲ拒否スルト共ニ獨逸ヲ目標トシ
英國ト相互援助ノ確約ヲ爲シタルカ右ハ獨波不可侵條約
ニ矛盾スルモノナリ獨逸ハ波蘭ノ此ノ態度ニ依リ右條約
カ波蘭ニ依リ一方の二侵害サレ最早存在セサルモノト認
メ之ヲ波蘭政府ニ通告シタリ然レトモ波蘭ニシテ對獨關
係ヲ新タナル取極ニ依リ調整スルコトヲ重視スルニ於テ
ハ余ハ之ヲ歡迎スルモノナリ

但シ右調整ハ兩國ヲ均等ニ拘束スヘキ明瞭ナル義務ヲ基

礎トスルコトヲ前提トスヘク獨逸ハ何時ニテモ斯ル義務
ヲ引受ケ且之ヲ實行スルノ用意アリ

三、對日伊關係

我々ニ最モ親密ナル伊太利ハ今年ニ於テモ獨逸ノ正當ナ
ル利益ニ對シ諒解ヲ示シタルカ吾人モ亦伊太利ノ生存權
ニ對シ同様ノ感ジヲ抱クハ當然ノコトナリ兩國民ノ結合
ハ引裂クコト不可能ニシテ此ノ事實ヲ搖カサントスル試
ハ總テ一笑ニ附スヘキノミ「アルバニア」ニ對スル伊太
利ノ正當ナル行動ニ關シテハ獨逸ハ心ヨリ之ヲ歡迎スル
モノナリ日伊トノ關係ノ緊密化ハ獨逸國策ノ不變ノ目標
ニシテ吾人ハ此ノ三大國ノ自由ト獨立ト確保コソ眞ノ人
類文化及將來ニ於ケル公正ナル秩序維持ノ爲最モ強力ナ
ル要素ナリト思考ス

四、米大統領ニ對スル回答⁽⁴⁾

(一)「ル」大統領ハ人類ノ戰爭ニ對スル恐怖心ヲ強調シ居
ルモ右ハ虛構從テ恐怖心ハ實際戰爭起リ得ル危險ニ淵
源スルヨリ無責任ナル新聞ノ煽動ニ原因スル所多シ各
國政府カ自制シ且報道機關ニ必要ナル抑制ヲ加ヘルニ
於テハ斯ル戰爭ノ恐怖ハ忽チニシテ消滅スヘシ

(二)「ル」ハ今後ノ戰爭ノ慘禍ハ後世數代ニ及フヘシト信シ居ル處計畫的ニ世界全體ヲ戰爭ニ捲込マントスルカ如キ試ノ爲サレサル限り凡テノ戰爭カスル慘禍ヲ齎ストハ信スルヲ得ス

(三)「ル」ハ曾テ余ニ對シ各種問題ニ付平和ノ解決ヲ懲滯シタルコトアリト爲ス處自分ハ今日迄常ニ武力ニ訴ヘス解決ヲ計リタリ然ルニ今ヤ斯ル平和ノ解決ハ外部ノ政治家新聞等ノ介入ニ依リ困難ナル狀況ヲ呈スルニ至リタリ

(四)「ル」ハ現在ノ如キ暴力ノ脅威カ續クトキハ世界ノ大半ハ滅亡スヘシト信スルモ獨逸ニ關スル限り他國ニ對シスル脅威ヲ與ヘ居ル事實アリトハ承知シ居ラス民主主義諸國ノ新聞カ連日獨逸ノ動員等ヲ報スルハ全然ノ虛構ナリ

(五)戰爭ノ結果ハ戰勝國タルト戰敗國タルト又中立國タルトヲ問ハス何レモ大ナル災害ヲ受クヘシトスル「ル」ノ考ハ自分ノ二十年間抱キ居リタルモノニ外ナラス

(六)「ル」ハ國民ヲ戰爭ノ脅威ヨリ救フコトハ大國ノ指導者ノ責務ナリトスル處然ラハ捏造記事ヲ報道スル新聞

ニ對シ何ノ處置ヲモ執ラサル政治家ノ如キハ處罰スルヲ必要トスヘシ

(七)「ル」ハ歐洲ノ三國阿弗利加ノ一國カ獨立ヲ消失

シタリトスルモ獨逸ニ編入セラレタル地域ハ曾テ獨立ノ意思ナクシテ強制的ニ獨立國タラシメラレタルモノニシテ又阿弗利加ニ於テハ全住民カ次々ニ民主國ニ征服セラレタル事實ヲ知ラサルヤ

(八)「ル」ハ更ニ他ノ獨立諸國ニ對スル攻撃計畫アリトノ風説ヲ口ニシ居ル處斯ル根據ナキ流言ハ世界ノ平和秩序ヲ害シ諸小國ヲ徒ニ脅スモノナリ果シテ如何ナル國カ何處ニ對シテ斯ル計畫ヲ立テ居ルヤ

(九)「ル」ハ世界ハ將ニ戰爭ノ慘禍ニ向テ邁進スルノ一途ヲ辿リツツアリトナセル處余ハ常ニ戰爭及戰爭誘發ニ對スル嫌惡ヲ明カニシ來レリ獨逸ハ果シテ如何ナル目的ノ爲戰爭ヲ爲スノ要アリト爲スヤ

(十)「ル」ノ考ニ依レハ明白ナル自衛ノ場合以外一國政府カ他國民又ハ自國民ヲ戰爭ニ捲込ム權利モ理由モナシトスルモ如何ナル戰爭ニ於テモ雙方ヨリ自衛ナリト主張スルヲ常トス

- (ト)「ル」ノ言ハ人類愛ノ發露ナリトノコトナルカ若シ米國ノ人類愛カ實際效果ヲ齎シタリトセンカ「ヴェルサイユ」體制ノ成立ノ如キハ之ヲ阻止シ得タルヘシ
- (タ)「ル」ハ更ニ總テノ國際問題ハ會議ニ於テ解決シ得ヘシトノ信念ヲ披露シ居ル處最大ノ國際會議タル國際聯盟ニ對スル參加ヲ第一ニ拒否シタルハ米國ナラスヤ余自身モ聯盟ニ對スル協力ノ無益ナルヲ知ルヤ米國ノ例ニ倣ヒ之ヨリ脫退シタリ
- (チ)「ル」ハ紛爭當事者カ自己ニ有利ナル保障ヲ前以テ得ルニアラスンハ武器ヲ捨テストノ態度ハ平和的商議ヲ行フノ約束ト一致セスト爲スモ獨逸ハ平和會議ニ於テ苦キ經驗ヲ嘗メタリ今後獨逸ハ如何ナル會議ニモ抵抗カナキ代表者ヲ參加セシムルコトハ絶対ニセス
- (六)⁽⁶⁾右代表者ノ背後ニハ必スヤ獨逸全國民ノ力アルヲ知ルヘシ
- (ニ)「ル」ハ會議ニ赴ク際ハ法廷ニ赴ク如キ心構ナルヲ要スト爲シ居ル處獨逸ハ法廷ノ如キ會議ニハ今後決シテ參加セサルヘシ
- (ホ)「ル」ハ世界各國カ現在竝ニ將來ノ國策ヲ公表スルコ

- トハ平和ノ爲寄與スル所多カルヘシトスル處右ハ常ニ余ノ實行シ來リタル所ナリ
- (ク)「ル」ハ米國カ直接歐洲ノ紛爭ニ捲込マレサル立場ニアレハ獨逸ハ之ニ對シ政策ヲ通報シテ然ルヘシト爲スモ然ラハ如何ニ獨伊ニノミスル要求ヲ爲シタリヤ又獨逸ヨリ米國乃至其ノ對中南米政策ノ公表ヲ要求シタルトキハ如何ニセントスルヤ
- (ケ)「ル」ハ獨逸ノ政策ニ關シ通報ヲ得タルトキハ之ヲ獨逸ニ脅威セラレ居ル諸國ニ傳達スヘシト言フモ如何ナル方法ニ依リ脅威セラレ居ル國家ト然ラサル國家トヲ鑑別スルヤ
- (カ)「ル」ハ獨逸カ軍隊ヲ侵入セシメ又ハ攻撃スルコトナキ旨ノ保障ヲ與ヘンコトヲ要求シ歐洲諸國ヨリ「パレスチナ」「イラン」ニ至ル各國ヲ列擧シ居ルニ付余ハ果シテ右諸國カ實際ニ脅威セラレ居リト感スルヤ否ヤ又ハ「ル」ハ是等國家ノ要請ニ應シ若クハ之ト了解ノ上今回ノ質問ヲ發シタルヤ各國ニ就キ質問シタルニ全然否定的ナ回答ノミヲ得タリ最近愛蘭首相カ同國ニ對スル侵略ノ故ヲ以テ英國ヲ攻撃シ獨逸ヲ名指シ居ラ

サルカ如キハ寔ニ奇ト言フヘシ又「パレスチナ」ノ如キモ獨逸軍ニアラス英國軍ニ占領セラレ自由ヲ束縛セラレ居ルハ如何獨逸ハ「ル」ノ列擧セル諸國ニシテ獨逸ヨリ「ル」ノ希望スル如キ保障ヲ取付ケタキ希望ヲ申出ツルニ於テハ相互主義ノ原則ノ下ニ

何時タリトモ之ニ應スルノ用意アリ

(戊)「ル」ハ右ニ關聯シ軍備縮少ノ重要性ヲ説キ居ル處大戦後獨逸力大規模ノ軍縮ヲ爲シタル時他國ハ之ニ追隨セザリシハ何人モ知ル所ナリ余モ軍縮提議ヲ列國ニ爲スコト數次ノ後其ノ無益ナルヲ知りテ再軍備ヲ命スルノ由ナキニ至レリ

(己)「ル」ハ最後ニ國際經濟ノ調整ニ加ハルノ用意アル旨確言セル處世界經濟ヲ攪亂スルモノハ第一ニ各國ノ自身ノ國內經濟不統一ニシテ「イデオロギー」ノ相異ヲ理由トシテ或國ノ商品ヲ「ボーコツト」スル如キハ其ノ最タルモノナリ

(三)「ル」ハ尙政府ノ首腦者ハ人類ノ運命ニ付責任ヲ負フモノニシテ人民ヲ戰爭ノ慘禍ヨリ救フヘク人民ノ聲ニ耳ヲ傾クヘシト説キ居ル處余ハ六年半ノ施政中日夜國

民ノ經濟狀態改善ニ努力シ七百萬ノ失業者ヲ有益ナル生産ニ振向ケ農民ヲ救ヒ商業ヲ盛ナラシメ人民ノ幸福ヲ圖リ來レリ獨逸ハ米國ニ比シ面積小ナレ共人類共同體ノ正義幸福進歩平和ニ寄與セントスル點ニ於テハ決シテ之ニ劣ルモノニアラス

243

昭和14年4月30日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國におけるヒトラー演説の反響について

ワシントン 4月30日前發
本省 4月30日夜着

第三五〇號

(1)「ヒットラー」總統ノ演説ハ翻譯附ニテ放送セラレ各新聞擧ツテ要旨ヲ載セ更ニ全文ヲ掲クルモノモ鮮カラサルト共ニ各紙一齊ニ社説ヲ掲ケ如何ニ當國一般ノ獨逸ニ對スル關心ノ大ナルカヲ示スモノアリ

論調ヲ綜合スルニ注意ノ焦點ハ獨逸カ今後和戰何レノ途ヲ採ルヤニ在ルモノノ如ク何レモ長文ノ演説中ヨリ之カ回答ヲ窺ハントシ居レル處結論ハ必スシモ一致セス紐育

「ヘラルドトリビューン」華府「ポスト」「アトランティック・コンスチテューション」等ハ獨カ武力ヲ背景トスル進出政策ヲ抛棄ヲ肯セサルモノト見、紐育「タイムズ」同「デーリー・ニュース」「ボストン・ポスト」同「ヘラルド」「シカゴ・トリビューン」「デトロイト・フリープレス」等ハ侵略ノ意思ナキコトヲ明言セサルモ近キ將來武力ヲ行使スルカ如キコトハナカルヘシト爲セリ

二、有力新聞ノ華府通信ニ依レハ大統領及國務長官ハ批評ヲ爲スヲ斷リタル由ナルカ白堊館及國務省方面ニ於テハ獨逸カ通商及軍縮問題ノ審議ヲ峻拒セルモノニアラサルコトハ認ムルモ演說ノ内容ニハ一般ニ失望ヲ感シ且獨ノ對英海軍協定竝ニ對波蘭不侵略保障ノ廢棄殊ニ「ダンチヒ」竝ニ「コリドール」ニ對スル要望ノ明示ヲ重視シ來ルヘキ危機ハ依然此ノ方面ニ在リト爲セルモノノ如ク尙獨カ回答ヲ外交文書ノ形式トセス演說ニ依リタルコトニ付テハ相當忿懣ノ色アル由ナリ

三、⁽²⁾議會方面ニテハ平和ノ希望增シタリト爲スモノト戰爭ノ脅威加ハレリト爲スモノト意見分レ居ル趣ノ處例ヘハ「ナイ」（上院共和黨）ハ演說ノ内容カ何等米國民ヲ侮辱

セル所ナカリシハ欣フヘク米政府ノ出方ニ依リテハ獨トノ了解ヲ増進スルコトヲ得ヘク此ノ際米獨間ニ經濟交渉ヲ試ムルコト妙ナルヘシトシ「クラーク」（上院民主黨）ハ大統領カ唐突ニ「アピール」ヲ出シタルハ夫レ自身危険ナルノミナラス徒ニ「ヒツトラー」ニ「パブリシテイー」ノ機會ヲ與ヘタルニ過キストシ「ボストン、ヘラルド」モ大統領カ濫ニ仲介役ヲ買ツテ出テタルヲ行キ過キトス）他方「キング」（上院民主黨）ハ本演說ハ挑戰的且僞善的ニテ侵略ノ意圖ヲ蔽ヒ得ストシ「バンクヘツド」（下院議長民主黨）ハ獨逸ハ條約遵守ノ意思ナキコトヲ明カニシ他國ノ侵略ニ關スル覆面ノ脅威ヲ與ヘタリト評シタル趣ナリ

四、「ロ」大統領ハ對獨「アピール」ヲ送ルニ當リ其ノ效果ノ一トシテ民心ヲ外交問題ニ向クルト同時ニ獨ニ對シ諾ト回答セハ自身ノ名聲ヲ高メ否ト回答セハ獨ノ國際的地位ヲ悪クシ現政府ノ英佛擁護政策ヲ推進セント試ミタルカ如キモ總統ノ回答ハ諾ニモ否ニモアラス（少クトモ米國輿論ニハ二様ノ見解生シ居レリ）巧ニ肩透シヲ喰ハセタル結果トナリタルモノト觀測セラル

五、「パブリシテイー」ノ見地ヨリスレハ總統ノ演説ハ大統領

領ノ「アピール」ニ優ル注意ヲ喚起シ殊ニ「アピール」

ノ各點ニ答ヘタル辯明ノ中ニハ過去ノ事實ヲ詳細ニ掲ケ

獨側言分ヲ廣ク傳播スル上ニ效果アリタリト言ヒ得ヘク

米國孤立論者ニ好都合ナル材料ヲ供給セル點モ見遁シ難

カルヘシ併シ乍ラ米國ノ對獨感情ニ對スル影響ヨリスレ

ハ全體トシテ決シテ好影響アリタリトハ稱シ難ク寧ロ議

論ニ勝チテ反感ヲ増セル嫌アリト觀察セラル

六、米政府今後ノ出方ニ付テハ未タ確タル兆候ノ見ルヘキモ

ノナク或ハ近ク大統領カ「ラデオ」放送ニ依リテ一矢ヲ

報ユルナラントノ報道アルモ要スルニ「ヒ」總統ノ演説

ニ依リ米大統領ノ斡旋申出ハ態良ク拒否セラレタルコト

明カナル以上先般ノ對獨伊「アピール」ノ「ライン」ニ

沿ヒテ俄ニ第二段ノ外交の措置ニ出ツルモノトハ考ヘラ

レサルモ他面大統領トシテ對内外政策上獨ノ不誠意ヲ

強調シ米國輿論ヲ英佛擁護ノ方向ニ一層誘導シ行カント

スルモノト觀測セラル

獨ヘ轉電セリ
獨ヨリ英、佛、伊ヘ轉電アリタシ

244 昭和14年5月1日 在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國におけるヒトラー演説の反響について

ロンドン 5月1日後發
本省 5月2日前着

第四四七號

「ヒットラー」演説ノ當國ニ於ケル反響ハ既電ノ通り大体
同演説ハ獨逸ノ方針ヲ變更セル點無シトスルニ一致シ居リ
唯凡ユル言辭ヲ盡シテ英獨關係ノ破綻ヲ生セサル様ニ努メ
居リ此ノ點ハ英國ニ於ケル獨逸蠱虜ノ方面ニ於テハ相當反
響アリ獨逸トノ交渉ハ必スシモ放棄スヘキニ非ストスル者
アルモ大体一般識者ハ特ニ外務省ハ寧ロ「ヒ」ノ演説ノ
種々ノ説明ハ之ヲ無視スル態度ヲ取り最早「ヒ」ノ所言ニ
信用ヲ措ク能ハストシ歐洲ニ於テ今日直ニ戰爭勃發ヲ豫想
スルニハ非サルモ今回ノ演説ニ依リ何等事態ノ改善ヲ見サ
ルノミナラス獨波不侵略條約及英獨海軍協定ノ廢棄通告ナ
ル演説ノ實質的ノ點ハ波蘭ニ對シ保障ヲ與ヘ居ル英國ニ對
シテハ對獨關係ヲ益々深刻ニ考ヘシムル結果ヲ生シツツア
リ右ハ英國カ今日徵兵制度施行ヲ發表スル等大掛リノ戰事

準備ヲ進メツアル國民一般ノ空氣ト響合シ右演説後ニ於テモ英國ノ對獨輿論改善ノ氣配ハ無キ狀況ナリ
佛、獨、米へ轉電シ在歐各大使へ暗送セリ

245 昭和14年5月3日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

ソ連提示の広範な軍事同盟案には応じない旨
を英國外務次官内報について

ロンドン 5月3日後発
本省 5月4日前着

第四五六號

往電第四四六號ニ關シ

英蘇關係ニ付テハ屢報ノ通り英國國內ニ於テ左翼方面自由黨(ロイドジョージ)及保守黨左派(「チャーチル」、「イーデン」)ヲ中心トシテ熱心ニ唱導セラレ政府ニ於テモ國內一致ヲ保ツ爲之ニ迎合シ主義トシテ軍事同盟ニ異議ナキ旨ヲ聲明セル位ナルカ「ハリファツクス」ノ説明ノ通り波蘭、土及羅馬尼等ノ小國側ヲ納得セシムルコト困難ナルノミナラス國內ニ於テモ保守黨右派(「チエンバレン」等)ヲ中心

トシテ蘇聯トノ緊密ナル聯繫ヲ忌避スル思想深キ状態ナリ
當方ニ於テハ最初ヨリ政府民間ノ有力者ニ對シテ若シ英側カ蘇聯ト同盟スルカ如キ場合ハ右ハ日本ト英國トノ關係ヲ決定的トナス惧アル所以ヲ力説シ右ハ「チエンバレン」ノ直接輔佐ノ地位ニ在ル人々ニモ通シ置キタルカ是等ノ日本關係ヲ重要視スル方面ハ蘇聯トノ提携ニ疑問ヲ持ツ有力分子ト派ヲ同ウスル次第ニシテ四月二十七日「ハリファツクス」ノ本使ニ對スル説明ハ「チエンバレン」ノ意嚮ニ出テタルモノナルコト明カナリ

然ルニ英蘇兩國ノ見解ハ大體往電第四五四號ノ通りニシテ英國トシテハ前記ノ諸事情(日本關係ヲモ含ミ)ヲ考慮シテ蘇聯ノ提案タル廣汎ナル軍事同盟案ニハ反對スルコト進ミ居ル由ニテ五月二日豫テ約束ニ依リ會合セル「パトラ」次官ハ首相及外相ノ意ヲ承ケテ本使ニ對シ蘇側ノ提案ニ對シテハ飽迄反對スル次第ニ付安心アリタキ旨ヲ傳へ要スルニ對蘇關係ハ蘇聯ヲ反對ニ廻ササル消極的意義ニ重キヲ置カルル次第ニシテ交渉ノ結果ハ數日中ニハ判明スヘシト述ヘ且對蘇聯携派特ニ徵兵制度ニ反對スル勞働黨等左翼トノ國內鬭爭ハ今後相當ニ激(化)スヘキ見込ナリト洩シ居

タリ本電ハ屢次往電ト重複ノ點アルモ御參考迄電報ス

246 昭和14年5月4日 在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ヒトラー演説に対する波蘭外交当局の反応振
りについて

ワルシヤワ 5月4日後發
本 省 5月5日後着

第一一號(極秘)
往電第九六號ニ關シ

一、二日「ベツク」外相往訪ノ本使ニ爲セル内話中參考トス
ヘキ點左ノ通り

(イ)「ヒ」總統ノ對米回答演說中波蘭ニ對スル事項及獨ノ
對波覺書(往電第一〇六號)ニ對スル政府ノ態度ニ付テ
ハ近日中自分ヨリ(五日ナラント報セラル)議會ニ於テ
表明スルコトトナルヘシ

(ロ)本年一月「ヒ」總統ハ自分ニ對シ「ダンチツヒ」等ノ
現狀維持ヲ確言セシニ拘ハラス果然今回ノ如キ提案ヲ
爲セルハ誠ニ心外ナリ波蘭トシテハ治外法權道路ノ如

(二六九)

キハ到底許容シ難キヲ以テ三月二十一日對案ヲ提出セ
シカ其ノ後何等交渉行ハルルニ到ラス對案中(A)二十五
年間ノ不侵略條約及(B)「スロバキヤ」保障問題ニ觸レ
サリシハ「ダンチツヒ」問題ニ對スル獨ノ正式提案中
ニ斯ル事項ヲ含ミ居ルモノトハ想像出來サリシカ爲ナ
リ即チ右(A)ニ付キテハ曾テ「ゲーリンク」カ獨トシテ
ハ不侵略條約ヲ二十五年間ノモノト爲スニ異存ナシト
述ヘタルコトハアルニ過キス(B)ニ付キテハ「リプスキ
ー」大使カ三月中旬「リツペン」外相トノ會議終リ辭
去スルニ際シ「リ」外相ヨリ「スロバキヤ」ニ付保障
ヲ與フルコトモ考ヘ得ヘシト述ヘタルコトアルニ過キ
ス從テ「ヒ」總統ノ演說ヲ聞キテ驚キタル次第ナリ

(ハ)不侵略條約ハ言フ迄モナク相互信頼ニ基礎ヲ置ク波蘭
トシテハ獨ヲ信頼シ難キニ依リスル條約ノ有無ハ問題
トナラス

(ニ)「メーメル」ト異リ「ダンチツヒ」ニ於テハ是迄「ナ
チ」運動等ニモ制限ヲ加ヘ來ラサリシ次第ニテ獨トシ
テモ波蘭ノ斯ル態度ヲ良ク了解シ居ル筈ナリ
從テ獨カ今少シ妥協ノ精神ヲ以テ考慮セハ圓滿解決ノ

方途ナキニアラスト思ハルルモ治外法權道路ニ付テハ波蘭トシテハ絶對ニ容認シ難シ(「ダンチツヒ」問題ニ付テハ波蘭トシテモ妥協的態度ニ出ツル用意アルモノノ如キ印象ヲ得タリ)

(ハ)形勢逼迫シ居ルハ事實ニシテ波トシテハ破約ノ場合ヲ覺悟シ居ルモ獨ヨリ進ンテ武力ニ訴ヘサル限リ戦火ヲ見ルコトナキ道理ナリ

(ヘ)英蘇間ノ交渉如何ニ拘ラス波蘭トシテハ蘇聯ト不侵略條約以上ノ關係ニ入ル意圖毫モナキコトニハ變化ナシ

二、東方部長ハ一日井上ノ來訪ヲ求メ英蘇交渉ニ於テ極東方面ヲ除外スルコトニ付テハ英蘇間ニ了解濟ナル旨ノ印象ヲ得タルニ依リ右本使ニ傳ヘラレタシト告ケタル由ナリ

三、二日本使ノ晚餐會ニ際シ伊太利大使ト時局談ヲ爲セルカ同大使ハ「ダンチツヒ」問題ハ「コーザス、ベリ」ナルモ獨ハ武力ヲ用ヒサルヘキニ依リ戰端開カルヘシトハ思ハス又同問題カ圓滿解決セラルヘシトモ思ハス從テ獨波間ニ「コンフリクト」ノ存スル時期カ相當長ク繼續スルモノト觀測セサルヲ得スト語り獨大使ハ未タ歸任セサルカ或ハ當分歸任セサルニアラスヤト考フル旨述ヘタリ

(他面今週末歸任スヘシトノ聞込アリ)

在歐各大使へ暗送セリ

247 昭和14年5月4日

在ウイーン山路(章)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭は対独強硬姿勢を維持できないとのイン
クバルト独国無任所大臣の観測について

ウイーン 5月4日後発

本省 5月5日夜着

第三一號

諸情報ヲ綜合スルニ獨逸側ハ波蘭ノ萬一ノ出方ヲ慮リ既ニ軍事的準備ヲ整ヘ居ル模様ナル處(一情報ニ依レハ南北ヨリ「ワルソー」ニ進撃シテ西方國境方面ニ集中サレ居ル波蘭軍ヲ包圍遮斷セントスル作戰ノ下ニ波蘭ノ南境二十七師團北境二十二師團ヲ待機セシメ居ル由)「インクアルト」(五月一日附ヲ以テ獨逸國務大臣ニ任命セラル)ハ四日本官ニ對シ波蘭ハ(一)獨逸ヨリ殆ト包圍セラレ居ル狀況ニ在ルコト(二)開戦ノ場合英佛蘇側ヨリ實際上直接有效ナル援助ヲ受ケ得サルコト(三)國內ニ「ウクライナ」人(最近當地方面ヨ

リ盛ニ働キ掛ケ居ルカ如シ猶太人及獨逸人等多數ノ異民族ヲ有スル關係ニテ國民的團結固カラサルコト等ノ理由ニ依リ最近英佛紙ノ報スルカ如キ強硬ナル態度ニハ到底出テ得サルヘク萬一ノ場合ニモ獨逸ハ四分ノ一ノ兵力ニテ短期間ニ波蘭ヲ押ヘ得ヘキ旨内話セルカ當方面一般ニ極メテ冷靜ナリ

尙最近「ワルソー」ヨリ歸來セル在當地波蘭總領事ハ三日本官ト種々會談セル際波蘭國民一般ハ致國ノ瓦解以來最早獨逸ノ約束ニ信ヲ措キ得サルニ至レルコトヲ述ヘ又獨逸兩國ニ對シ良好關係ヲ有スル「ムソリニ」カ兩國ノ間ヲ調停シ得ヘキ可能性ナキニアラサルヤノ口吻ヲ洩シ居タリ

248

昭和14年5月6日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ問題に関する波蘭政府对独覚書の要旨について

ワルシャワ 5月6日後発

本省 5月7日前着

第一一五號

(1) 往電第一一二號ニ關シ

五日午後六時駐獨波蘭代理大使ハ獨逸政府ニ對シ回答ノ「メモランダム」ヲ交付シ其ノ内容發表セラレタルカ要旨左ノ通り

「ダンチヒ」問題ニ付テハ之迄數年來波蘭側ハ之カ解決ヲ獨逸側ニ諮リタルモ獨逸側ハ常ニ之ヲ體良ク遷延シ客年九月事件後ニ至リ始メテ之カ解決交渉ヲ慫慂スル所アリタルニ過キス獨逸ハ「メモランダム」中ニ所謂三月二十一日伯林ニ於ケル獨波會談ニ於テ獨逸側ハ本問題ノ至急解決ヲ促シタルニ依リ波蘭側ハ二十六日對案ヲ提出シ「ダンチヒ」住民ノ内部的の生活ノ安全ナル自由ト波蘭側權益尊重ノ基礎ノ下ニ「ダンチヒ」自由市ノ確然タル存在ニ付獨逸兩國ニテ保障ヲ與フルコト竝ニ「ボメラニア」地方ノ鐵道及道路ニ依ル通過問題ニ付テハ波蘭ノ主權ヲ毀損セサル基礎ニ於テ凡ユル便宜ヲ與フル旨回答セリ然ルニ爾來一箇月ニ亘リ何等ノ回答ナク先般ノ「ヒ」總統演説及「メモランダム」ニ依リ始メテ獨逸側ニ於テハ波蘭側ノ前記對案提出ヲ以テ交渉ヲ拒否セルモノト見做シタルヲ知りタル次第ナルカスノ如ク國家間ノ交渉ニ際シ

1 独波開戦に至る経緯

相手方⁽²⁾ノ而モ回答ニ依ル申出ヲ無條件ニ受諾スルコトヲ強ヒラルルコトハ獨リ一九三四年ノ獨波協定ニ所謂兩國間ノ懸案ヲ自由ナル交渉ニ依テ解決セントスル趣旨ニ副ハサルノミナラス實ニ波蘭ノ生存ニ關スル利益ト國家ノ威嚴ト相容レサルモノナリ

獨逸側ハ英波協定ノ締結ヲ以テ獨波宣言ニ違反スト爲スモ獨波宣言ノ前文中ニハ兩國ノ關係ヲ不戰條約ノ原則ニ置ク旨規定セラレ居ルヲ以テ獨逸カ不戰條約ニ違反セル場合ハ獨波聲明ハ效力ヲ失フモノナリ一方英波協定ハ純然タル防禦的性質ノモノナルニ依リ右協定ニ基ク波蘭援助義務ノ發生ハ獨逸カ英國ノ獨立ヲ脅威シ其ノ結果トシテ一九三四年ノ獨波聲明及巴里協定ニ基ク波蘭ノ獨逸ニ對スル義務カ消滅セル場合ニ限ラル從テ獨逸政府ノ一方的廢棄ハ何等ノ根底ナシ斯ノ如ク波蘭トシテハ一九三四年ノ協定ヲ蹂躪セリトノ獨逸側ノ主張ニ承服スルコト能ハサルモノナルカ若シ獨逸政府ニシテ獨波關係ヲ重視シ善隣關係ヲ新ニ調整センコトヲ欲セハ本「メモランダム」中ニ記述セル原則ノ尊重ヲ條件トシ之カ提議ニ應スル用意アリ(主文郵送)

在歐大公使、壽府、米ニ郵送

249

昭和14年5月12日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英ソ交渉の成りゆきに日本が強い関心を有する旨を英國首相側近者へ注意喚起について

ロンドン 5月12日後発

本省 5月13日前着

第四九四號

往電第四五六號ニ關シ

一、英蘇交渉ノ成否及其ノ内容如何ハ申迄モナク我對外關係
ニ重大ナル影響ヲ與フルニ付帝國ノ蘇聯邦ニ關スル立場
及蘇聯邦ノ事情ヲ充分ニ英國政府當局及其ノ他ノ有力方
面ニ理解セシメ以テ英蘇接近政策ニ對スル反省ヲ求メ來
リタルコトハ累次電報ノ通りニシテ英外相及次官トノ數
次ノ會見等ニ於テ右趣旨ハ充分先方ニ徹底セシメ又首相
呢懇方面ニ對シテモ此ノ點ハ同様ニ取計ヒ來レリ

二、他方最近ハ日本カ日獨伊三國軍事同盟ニ參加セサル立場
ヲ執リ居レリトノ新聞電報傳ヘラレ英國輿論ニ對シ相當
好感ヲ與ヘ一般對日感情好轉ニ資シ居ルモ猶祕密ノ軍事
同盟ハ既ニ成立シ居ルモノニシテ日本ハ既ニ獨伊側ニ

「コンミット」シ居ルモノナリトノ疑ヲ以テ有力ナル方面ヨリ問合セ來ル向モアリ右ニ對シテハ本使ハ何等當方ニ於テハ承知スル所ナキモ「日本ハ歐洲問題ニ對シテハ之二加入スル意嚮全然ナシ然シ乍ラ蘇聯トノ關係ニ於テハ其ノ地理的地位ヨリシテ日本ニハ直接ノ關係ヲ及ホシ從テ英蘇交渉ニ付テハ多大ノ關心ヲ有セサルヲ得ス」トノ趣旨ヲ以テ差當リ應酬シ居レリ

三、然ルニ英蘇交渉ノ昨今ノ事態ニ鑑ミ更ニ問題ニ對スル當方ノ意嚮ヲ印象セシメ置クコト必要ナリト認メ「チエンバレン」呢懇者ニ對シ日本ハ勿論歐洲問題ニ關係スル意嚮ナキモ蘇聯邦ノ問題ハ直接日本トノ關係ヲ事實上惹起スルヲ以テ我方トシテハ日英國交ヲ顧念スルカ故ニ英蘇交渉ノ成行ニ付テハ非常ナル關心ヲ以テ注意シ居ル旨ヲ強ク通シ置ケリ尙右ト同時ニ日英親善關係ノ回復ヲ希望スル有力分子モ多キ次第ナルヲ以テ是等ノ向ニモ大體同様ノ趣旨ニ依リ出來得ル丈ケノ手段ヲ執リ來リツツアル現狀ナリ御參考迄

250

昭和14年5月15日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

独波關係改善の斡旋は時宜に適せずと波蘭外務当局へ回答について

ワルシヤワ 5月15日後発
本省 5月16日前着

第一二七號(極秘)

貴電第九八七號ニ關シ(獨波間ニ調停申入ニ關スル情報部長談ノ件)

御來示ノ次第ハ十三日當地新聞ニモ掲載セラレタルカ十三日外務省官房長ハ(以前「ダンチツヒ」問題主任官)本使ヲ來訪シ「ベ」外相ニ於テ本使ノ往訪ヲ煩ハス程ノ要件ニアラサルヲ以テ自分カ來訪セリト前置シ獨波關係ニ付伯林ニ於テ本使カ如何ナル印象ヲ得タルヤ又前記新聞等ニ付何等カ承知スル所ナキヤト質問セリ依テ本使ハ極メテ率直ニ御答ヘスヘシトテ過般「ベ」外相ニ傳達セル通り日本政府ハ獨波關係改善ノ爲常ニ斡旋ノ用意ヲ有ス殊ニ獨波ノ對立カ激化シ來レル此ノ際ニ於テハ兩國政府カ希望スルナラハ喜ンテ斡旋ノ勞ヲ取ル用意アル次第ナルカ其ノ效果覺束ナキ

1 独波開戦に至る経緯

幹旋ハ却テ面白カラスト考ヘ大島大使トモ篤ト協議セルル處
獨ノ態度ニモ鑑ミ此ノ際幹旋ノ申出ヲ爲スコトハ時宜ニ通
セストノ結論ニ達シ此ノ旨ハ本國政府ヘ電稟シ置ケリ
尤モ問題解決ノ爲兩者ノ間ニ立チテ調停ニ當ルカ如キコト
ハ別トシ單ニ交渉再開方ニ付口添ヲ爲ス程度ナラハ之ヲ試
ミルコト一案ナルヘキモ之トテ如何程ノ效果アルヤ甚タ疑
ハシキカ如シト語り若シ右ニ付波蘭側ニ希望アラハ申出テ
ラレタシ云々ト告ケタルニ官房長ハ右「ベ」外相ニ詳細報
告スヘク外相ニ於テハ日本政府ノ好意及本使ノ態度ニ對シ
テハ之ヲ大イニ多トセラルヘキヲ信スト述ヘタリ
尙官房長ハ「ダンチツヒ」問題ニ付テハ波蘭側トシテハ努
メテ極秘ニ附シ居タルニ「ヒ」總統カ交渉ノ内容ヲ暴露セ
ル爲解決困難トナレリト嘆シ本使カ獨獨ニ於テ「プレビシ
ツト」ヲ行フ計畫アリトノ情報アリト言ヘルニ「ダ」市ヲ
獨立國ト爲サントスル場合ハ考慮ノ餘地アルモ獨領乃至獨
ノ保護國ト爲サントスル場合ニハ英佛ノ態度如何ニ拘ラス
波ハ武力ヲ以テ抗爭スル覺悟ナリト述ヘ本使ハ然ラハ戰爭
ノ前後ニアリトノ觀測カ正シキヤト語りタルニ波蘭官民ハ
齊シク其ノ通りニ考ヘ居レリト答ヘタリ

獨、蘇、佛、伊、英へ轉電セリ

251 昭和14年5月17日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英ソ交渉に日本が強い関心を有する旨を十分
理解したとの英國首相側近者内報について

ロンドン 5月17日後発
本省 5月18日前着

第五一〇號

往電第四九四號ノ三二關シ

首相側近者ヨリノ傳言ニ依レハ日本ノ立場ハ充分ニ了解セ
リ英政府ハ恐ラク飽迄蘇聯ノ同盟案ニハ反對スルコトナ
ルヘシ何レニシテモ歐洲問題ニ局限スヘキ方針ニハ毫モ變
化ナシ蘇聯トノ提携ハ保守黨内ニ於テモ「イーデン」「チ
ヤーチル」等ノ躍起組アリテ政府ハ措置ニモ困リ内政問題
トシテ相當波瀾アルヘキ情況ナリ(往電第四五六號「バ」
氏談話參照)云々トノコトナリ壽府ニ於テ蘇聯ハ單ニ「マ
イスキー」ノ代表スル情況ナルニ付或ハ蘇聯ノ態度モ「リ
トヴィノフ」時代トハ根本的ニ差異アリ(往電第四七八號

ノ二及特情第四七號參照)蘇聯ハ飽迄純然タル相互主義ヲ
楯トシ濫ニ英佛側ニ聽從セサル方針ヲ確立シ居リ今後ノ交
渉ハ相當長引クモノト認メ居レリ但シ英國ノ對蘇交涉ハ
素々兵力不足ニ起因セルモノナルニ付何トカシテ蘇ノ援助
ヲ得ル爲交涉ヲ進ムヘク何レニシテモ蘇聯ヲ敵ニ廻ササル
様ニ努力スルコトハ明カナリ(「ハ」外相及「バ」次官ノ言
明參照)

252

昭和14年5月19日

在トルコ武富(敏彦)大使より
有田外務大臣宛(電報)

バルカン諸国の動向に関する観測報告

アンカラ 5月19日後発

本省 5月20日前着

第一三五號

一、消息通ノ内話左ノ通り

(一)英カ「アルバニア」事件後羅馬尼希臘ニ對スル一方の
保障ヲ聲明シタル頃迄ハ英ノ意圖カ果シテ那邊迄確實
ナリヤハ小國ニトリテハ「ムツソリニ」ヤ「ヒツトラ
ー」ノ約言ト同様頼リナキ感ヲ禁シ難カリシ處英カ微

兵令ヲ布キテ事變對應ノ決心ヲ明ラカニシタル上更ニ
土ヲ誘フテ相互援助ノ共同宣言ニ出テタルコトハ之ニ
依リ英蘇協定ノ成功近キヲ思ハシムルト共ニ小國ノ對
英依存心ヲ昂ムルニ與ツテ力アリタルモノノ如ク此ノ
點^(マ)二十日波、羅等ノ新聞論調ニ依ルモ窺知シ得ル次第
ナリ殊ニ希臘ハ英土宣言ヲ以テ英カ飽迄モ地中海ニ於
ケル其ノ權益擁護ニ熱心ナル事實ノ證左ナリトナシ且
希ノ同盟國タル土カ此ノ宣言ニ依リ英ト共ニ東地中海
ヲ守ルノ決意ヲ表明シタルハ曩ノ英ノ保障ト合セ二重
ニモ三重ニモ保障ヲ重不得タル感ヲ抱キ居ルモノト認
メラル同國ノ新聞カ本提言ニ大歡迎ヲナシ居レルハ此
ノ感情ノ發露ト見ルヘキモノノ如ク土希間ニハ英土交
渉ノ經過ニ伴ハレ常ニ聯絡アリタル何人モ疑ハサル所
ニシテ現ニ種々交渉ヲ重ネ居ル形跡モアルモ最近英佛
方面ニテ行ハルル土希間ニ軍事協定成立シ兩國軍隊及
軍艦ノ利用問題モ協定セラレタリトノ報道ハ未タ事實
ニアラサルモノノ如シ

(二)²⁾希ハ往電第七六號ノ通り獨ニ傾キ易キ情勢ヲ有スルハ
事實ナルモ國民ハ歴史のニモ現實のニモ寧口親英のナ

ルコト他ノ巴爾幹諸國ノ比ニアラス故ニ「メタクサ」ノ獨裁政治ヲ以テシテモ此ノ國民の感情迄ハ容易ニ變ヘ難カルヘク現ニ今日ニテハ希臘中ニハ地中海ニ於ケル希ノ地理的位置ヨリスルモ英ノ(脱?)受ケ乍ラ外相ハ西歐出張ニ際シ獨伊ヲ訪問スル等媚態ヲ呈スルヲ忘レ居ラス此ノ點ハ土ノ政府機關紙迄カ英土宣言後急ニ伊ニ毒付キ出シタルトハ選ヲ異ニス(往電第二二六號)尤モ羅トシテハ英ヨリノ軍事的援助ノ如キ余リ當ニシ得サルハ充分承知シ居ルモ英土協定カ海峽ニ及フトセハ羅ニ關係スル所大ナルノミナラス勃カ「インペリアルルート」ノ觀念ヲ捨テヌ限リ希獨伊ノ壓迫ニ拋棄セサルヘシトノ期待相當ニ強キモノアリト謂フ

(三) 羅ハ波ニ次ク危險區域乍ラ未タ波ノ如ク反抗の態度ニ出テ居ラス寧口獨ノ壓迫ヲ感スレハ感スル程獨ノ神經ニ觸レヌ様萬事ニ用心ヲ重ネルモノノ如ク從テ英ノ保障三國ハ土以上ニ各國勢力ノ均衡ニ依リ自己ノ安全ヲ圖ルニ汲々タルモノアレハ六月「ガフエンコ」外相ノ「アンカラ」訪問ハ時節柄一般ニ注意セラレ居レリ

(四)³⁾ 「ユーゴースラビア」ノ方向轉換ハ事實ナルモ同國外

務大臣ノ羅馬訪問乃至「ボール」攝政ノ羅馬訪問ハ獨伊新聞ノ記事程ノ結果ハナカリシモノノ如ク現ニ攝政ノ伊太利ヨリ歸リタル頃同國官邊ヨリノ發表トモ見ラレル通信記事中ニハ(一)巴爾幹協商ニ忠實ナルコト(二)反共協定ノ如キ「イデオロギー」ニ囚ヘラレタル政策ヲ執ラスコトノ二事項ノ表明モアリタリ但シ内外二種々ノ弱點ヲ有スル同國トシテハ獨伊ノ間ニ全ク捕虜トナリ居レルハ事實ナルヲ以テ土英交渉ニ關シテモ伊ノ爲ニ土ニ對シ真相ノ説明ヲ求ムルノ勞ヲ執リタル形跡アルモ自然ノ成行ナルカ唯土トシテハ説明ヲ求メラレテ益々警戒ヲ嚴重ニシ結局何等ノ説明ヲモ與ヘサリシト傳ヘラル

(五) 土カ英土間ノ協定ヲ以テ獨ヲ刺戟セサル用心ヲ爲シ居ルコトモ事實ニシテ現ニ英土宣言ノ發表ニ先立ち昨年秋土獨間ニ決定シタル一億五千萬馬克ノ借款案ヲ國民議會ニ急遽上程シ承認ヲ得タル如キ其ノ一例ニシテ右案中ニハ獨逸商會ノ土耳其ニ於テ起工スヘキ諸企業殊ニ「イスミット」灣内 Grudnik ニ於ケル大海軍根據地ノ築造材料等モ含ミ居レリ又政府筋ノ一要人ハ英ト

ノ相互援助ハ地中海丈ケノ問題ニシテ要ハ「アルバニヤ」ヲ經テ希及土ヲ壓迫セントスル「ムツソリーニ」ノ侵略政策ニ對抗スル爲ノモノナルヲ以テ結局伊ヲ目標トスルコトニ解セラルルハ已ムヲ得サルモ獨ハ樞軸關係ニテ伊ヲ援助スル場合ニノミ問題トナルニ過キス故ニ假ニ若シ英獨戰ヒ伊之ニ加ハラズ從テ地中海ニ何等關係ヲ生セヌ事態アリトセハ土ハ中立タルヘシト甚タ苦シキ説明スラモ爲シ居レリ今日ノ場合英ト協定ヲ決定シツツモ尙之ヲ懼リ而モ伊ヲ懼ラヌ點ニ土耳其外交ノ特長ヲ認メラル

英へ轉電シ在歐洲各大使、羅へ暗送セリ

編注 本電報は電文に乱れが見られるが、原文のまま採録した。

昭和14年5月20日

在カナダ富井公使より
有田外務大臣宛(電報)

英ノ接近が日英關係に及ぼす悪影響をカナダ

首相へ注意喚起について

第六八號

オタワ 5月20日後発
本省 5月21日前着

五月四日「キング」首相ト會談ノ際本使ヨリ重ネテ最近ノ我對獨伊關係(往電第五七號(二)參照)ニ言及シ之ト日英關係ノ機微ナル關聯性ニ付説明ヲ加ヘタル後英蘇ノ接近ハ自ら日獨ノ一層緊密ナル關係ヲ誘致シ延イテハ日英關係ヲモ「アフエクト」スヘキコトヲ指摘シ置キタルカ首相ハ右ニ對シ英國ノ對蘇接近ハ「アルバニヤ」事件等ノ爲ニ餘儀ナクセラレタルモノト認ムルモ自分トシテハ英帝國ト蘇トノ緊密ナル關係ヲ希望セスト述ヘ更二十九日「ステートデイナー」ノ後ニ於テモ首相ヨリ進ンテ日獨關係ニ言及シ我方態度ニ付尋ネタルニ付在米大使館ニ於テ聽取セル情報ヲモ考慮シ然ルヘク説明シ置キタリ

首相カ英蘇ノ緊密ナル關係ヲ好マスト述ヘタルハ同氏外交上ノ所見ニモ依ルヘケレト一方當領カ會テ蘇ノ宣傳ニ惱マサレタル苦キ經驗アリ加フルニ英蘇ノ緊密ナル接近カ舊教ノ本據ニシテ反共產思想ノ旺盛ナル「ケベック」州ノ人氣ニ及ホスヘキ影響モ總選舉ヲ控フル今日自由黨首領トシテ

1 独波開戦に至る経緯

無關心タリ得サル事情ニモ依ルヘシト認メラル
十九日英國下院ニ於テ「シンクレア」ハ英國カ蘇トノ全
面的同盟又ハ佛ノ之カ對案ニ躊躇シツツアルハ加奈陀ニ於
ケル反響ヲ考慮シツツアルカ爲ナル様認メラルト述ヘタル
趣ノ同日倫敦發「カネデイアン、プレス」電報二十日ノ當
地(脱)掲載セラレタル事情モアルニ付本件電報ス
英、米へ轉電セリ

254 昭和14年5月20日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭外務次官補と独国外務大臣との会談内容に關
する情報報告

ワルシャワ 5月20日後發
本 省 5月21日後發

第一三一號(極秘)
往電第一二八號ニ關シ
勃牙利公使カ十九日及二十日本使ニ爲セル内話要領夫々左
ノ通り
二十九日

獨逸大使ハ特ニ訓令ニ接セサル限り自ラ進ンテ「ベツ
ク」外相ヲ往訪スヘキ立場ニアラサルモ次官補カ希望ス
ルナラハ喜ンテ會談スヘシトノコトナリシニ依リ其ノ旨
十一日次官補ニ傳ヘ置キタルニ「ベ」外相ト相談ノ要ア
リトシ返事遅レタル處十八日會談ノ用意出來タリトノコ
トナリシニ依リ本十九日「ブ」公使館ニテ同大使次官補
及自分ノ三人限りニテ午餐ヲ共ニシ約三時間會談行ハレ
タリ同大使ハ辭去スルニ際シ次官補ニ本日ノ會談ハ私的
ノモノトハ考ヘス公式ノモノノ始マリナリト考フル旨述
ヘタリ

三、二十日

右會談ニ於テ獨逸大使ハ次官補ニ對シ波蘭ノ西方國境ヲ
保障シ得ル唯一ノ國ハ獨逸ニシテ斷シテ英佛ニアラス
「ヒ」總統ハ右保障ヲ與ヘントスルモノニテ「ヒ」總統
以外ノ者ハ到底斯ル英斷ヲ爲シ得サルヘシ獨ハ「ベルサ
イユ」條約ヲ以テ不正當ノモノト認メ之カ是正ヲ念願ト
ス「コリドール」ノ設定ノ如キ實ニ不自然極マルモノナ
ルカ「ヒ」總統トシテハ波蘭カ海ヘノ出口ヲ要求スルハ
當然ナリトシ之ヲ認メントスルモノナリ波蘭トシテハ之

等ノ點ヲ充分考慮シ認識スルノ要アリト考フル旨力強く述ヘタル二次官(補カ)ハ之ヲ認識シ居ラサリシニアラサルモ獨ヨリ恰モ致國及「リスアニヤ」ニ對スルト等シキ態度ヲ以テ要求セラレタル爲波蘭トシテハ次ニ如何ナル要求ヲ受クヘキヤニ付危懼セサルヲ得サリシハ何人モ之ヲ認ムル所ナルヘシト應酬シ「ダンチヒ」カ獨領トナルハ經濟上、軍事上波蘭ノ苦痛トスル所ナリト言ヘルニ對シ獨大使ハ獨ヨリノ要求カ其ノ時期ヲ得サリシコトハ自分個人トシテ之ヲ認ム

乍併獨ハ當時一兵モ動員セサリシハ右ハ「ヒ」總統カ如何ニ波蘭トノ友好關係ヲ重視セラレ平和的解決ヲ熱望シ居ラルルカノ證左ト思フ「ダンチヒ」カ數世紀ニ亘リ波蘭領ナリシハ事實ナルモ最近約百五十年間ハ獨領ナリシノミナラス現在ニテモ住民ノ殆ト全部カ獨人ナルコトモ事實ナリ經濟上ノ理由ヲ云々スルナラハ又何故「グデニニア」港ヲ設備セルヤ右ハ明ニ「ダ」ヲ殺ス爲ナルヘシ又軍事上ノ理由ハ今日初メテ波蘭側ヨリ聽ク所ナルカ此ノ點ヨリ言フナラハ「コリドール」ノ存在ハ殊ニ獨ニ取り絶エサル苦痛ナリ(往電第一一九號)此等ノ點ヨリ波蘭

トシテハ「ヒ」總統ノ要求カ如何ニ讓歩的ナルヤヲ知ルヘキナリ云々ト陳述セル二次官補ハ之ヲ強ヒテ反駁セス「ベ」外相カ五日議會ニテ演說セル後接受セル數千ノ激勵電報ヲ机上ニ投付ケ民衆ハ國力ト國策トヲ知ラスト嘆シタルコトヲ述懐シ何トカ兩國間ニ於テ平和的解決ヲ期シタク獨大使カ此ノ上共盡力セラレンコトヲ希望スト結ヘリ尙同大使カ波蘭新聞ノ反獨及反大使記事ヲ指摘シ自分ハ之ヲ意トセサルモ獨ニ對シ不快ヲ與ヘ居ルハ事實ナリト述ヘタルニ對シ次官補ハ本十九日早速各新聞社主幹ヲ招致シ警告ヲ與フヘキ旨答ヘタリ

三、獨大使ハ自分(勃國公使)ニ對シ右會議ハ「ボン、コンマンスマン」ナリト考フル旨述ベタリ云々

在歐各大使ニ轉電セリ

255

昭和14年6月2日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

歐州情勢に関する米國國務長官の見解について

ワシントン 6月2日後発

本 省 6月3日後着

第四六三號

一日須磨渡歐ノ途次來華中ノ東日楠山同道「ハル」長官ニ會見シタル際長官ハ絶對發表セサル了解ニテ楠山ノ問ニ答ヘタル要領左ノ通り御參考迄

一、歐洲ニ近ク開戦アルヘキヤトノ問ニ對シ長官ハ一切豫言ハ出来ヌモ米國トシテハ歐洲各國ノ言分ヲ其ノ儘默認シ難ク事實厄介ナル狀態ト言ハサルヲ得ス取分ケ獨逸始メ各國カ熱心ニ大掛リノ軍備ヲ急キ居ル現狀ニテハ何時開戦ノ危険ナシトモ言ヘス然シ米國トシテハ從來自分等ノ主張シ來リタル通り各國カ經濟上ノ調整ヲ計リ延キテ軍備縮少ノ機運ヲ助成シ得ル見込ナシトセス現ニ獨逸ハ將來通商ニ依リ發展スルコト最モ肝要ナル國柄ニテ急迫セル政治問題カ一片付キタル上ハ速ニ獨逸實業家ヲシテ安ンシテ諸外國トノ貿易増進ニ專念セシメサルヘカラス「ヒットラー」ト雖モ早晚此ノ必要ヲ自覺スルモノト信セラルト答ヘタリ

二、不幸大戰勃發ノ際米國ハ如何ニスヘキヤトノ問ニ對シ長官ハ米國ハ日本同様歐洲ノ騷亂ニ直接ノ關係ヲ有セサル次第二モアリ從來通り中立法ノ精神ニ依リ歐洲騷亂ニ捲

込マレサル様充分ノ措置ヲ執リ居ルモ一朝開戦トナリ中立法ノ適用全ウシ難キ事態トナラハ他ノ方法ヲ執ルノ必要アルモ是等ニ付テハ未タ考慮ヲ盡シ居ラスト答ヘタリ

三、巷間支那大使ヨリ米國ニ調停ヲ依頼シ居ルトノ噂アルカ如何トノ問ニ對シ長官ハ先ツ此ノ種ノ質問ニハ假令絶對祕密ヲ嚴守スルノ了解ノ下ニ於テモ答ヘ得サル筋合ナリト前置シ唯米國トシテハ事變ノ當初ヨリ日支兩國カ一日モ速ニ停戦ノ話合ヲ遂ケ得ルニ至ルコトヲ希望シ居リ此ノ趣旨ヲ兩國ニ對シ同様ニ徹底シ居ル筈ナリ尤モ最近ハ日支ノ何レトモ此ノ種ノ話合ヲ爲シタルコトナキニ付何レトモ言ヒ難キカ假ニ多少ノ腹案アリトスルモ外交機關ヲ通スル以前ニ話シ得サルハ當然ナリト答ヘ

四、最後ニ長官ハ歐洲各國大使ニモ夫々本國政府ニ對シ先ツ各國ノ經濟上ノ回復ヲ圖リ軍備ノ縮少斷行ニ乗出シ生産ト分配トノ増進ニ依リ世界人類ノ福祉ヲ増スノ要アル所以ノ強調方申入レ居レルカ此ノ主義ト方針ハ東歐ニモ世界何レノ地域ニモ適用シ得ヘシト確信ストテ通商公平問題ノ持論ヲ反復シ居リタリ

英ヘ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使へ轉報アリタシ

256 昭和14年6月6日
在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

筒井書記官のドイツ方面視察報告

パリ 6月6日前發
本省 6月6日後着

第三五九號

往電第二五九號ニ關シ

筒井十五日發「ザール」「フランクフルト」「ライプチヒ」
伯林次テ飛行機ニテ「ワルソー」「グデニア」「ダンチツ
ヒ」「ケニヒスベルグ」「リガ」「ヘルシングフオールス」
「ストツクホルム」伯林ト一巡ノ上漢堡「アーヘン」經由
一日一先ツ歸任報告左ノ通り

短時間ノ駐足旅行從テ皮相的瞥見ニ過キサルヘキモ御命令
ナルニ付敢テ報告ス

一、獨逸カ現在大々の戰爭準備ヲ爲シ居ルモ戰爭ニ依ラスシ
テ目的ヲ達セント努メ居ルハ冒頭往電申進ノ如シ例ヘハ
波蘭問題ニ於テハ波蘭カ對獨關係緊張狀態ノ持續ニ堪ヘ

得サルニ至ル様仕向ケ居リ遂ニ波蘭ノ腰砕ケテ獨逸ノ要
求ヲ容ルルニ至ルコトヲ狙ヒ居ルモノナルヘク即チ波蘭
カ現ニ一部動員ニ依リ(現在兵力七十萬ト稱シ居ルモ實
ハ五十萬位ト云ハル)一日數百萬「ズロチ」ノ支拂ヲ余
儀ナクセラレ居リ此ノ上軍備充實長キ對獨國境防備等ノ
費用ハ英佛ノ援助アリトモ容易ナル負擔ニ非サルヘク又
國民ノ經濟生活力準戰時狀態ノ爲日常ノ如ク行カサル苦
痛モ大ナルヘク要スルニ戰爭ノ脅威ノ爲受ケツツアル苦
痛ハ相當大ナルヘク他方此犠牲ヲ忍ビテモ守ラントスル
權益ナルモノハ獨逸側工作ニ依リ次第ニ有名無實ニ歸シ
ツツアリ即チ「ダンチツヒ」ニ於テハ人口ノ九割八分迄
獨逸人ニシテ獨逸領ト何等異ルナキニモ拘ハラス別ニサ
レ居ル爲却テ同地住民ノ獨逸意識乃至ハ「ナチ」的表現
ハ獨逸國內ヨリモ強烈ニシテ獨逸國旗「ヒットラー」肖
像「エスアー、エスエス」「ヒットラー」青年隊等ノ制
服等ハ獨逸國內ヨリ多ク目ニ付ク程ナリ加之先般來同地
稅關鐵道郵便等ニ勤務スル波蘭人ヲシテ居タタマレサル
様種々ノ工作ヲ計畫の二行ヒ居ルモノト認メラル先般來
ノ種々ノ事件頻發及種々ノ「デモ」ハ今後モ執拗ニ續ケ

ラルヘク其ノ目的ハ「ダンチツヒ」領ヨリ波蘭人ヲ一掃スルニアルヘク然ル上ハ波蘭既得權益ナルモノハ事實上窒息セシメラレクスコシテ有名無實トナレル權益擁護ノ爲戦争ノ脅威下ニ何時迄モ非常ナル犠牲苦痛ヲ忍ヒ續クルコトハ引合ハヌコトトナルヘク結局斷念シ讓歩セシコトヲ狙ヒ居ルモノト想像セラル又「コリドール」問題ニ付テモ獨逸側「トランシジツト」ニ對スル波蘭側「サボタージ」ナルモノニ關スル攻撃既ニ開始サレ居ル處「ダンチツヒ」解決ニ際シ自由地帯等ノ便益ヲ波蘭ニ與フル代償トシテ「コリドール」通過問題ヲ解決セントスルコトモ想像セラレサルニ非ス要スルニ獨ハ波蘭ト戦争ニ至ラサル方法ヲ以テ解決ニ努メ居ルモノト認メラル(五月三十日「タイムス」ノ「ダンチツヒ」現狀ニ關スル記事ハ割ニ好ク實情ヲ寫シ居レリ御參考迄)

二、⁽²⁾獨逸人カ勝利者ノ如ク意氣昂然タルハ佛國ヨリ赴キタル者ノ著シク眼ニ付ク所ナリ英佛カ獨逸ノ發展ヲ挫カントスレトモ既ニ時機ヲ失シタリト豪語スルヲ聞キタルカ斯克信スル獨逸人多キカ如ク右ハ其ノ國民性カ全體主義的統一主義的組織のナルヲ好ムニ加ヘテ組織の計畫の宣傳

ヲ施シ居ル結果ニハ相違ナキモ獨逸人カ現ニ甚タ強キ自信ヲ有スル事實ハ極メテ重要ナリト認ム尙伯林ニ於ケル獨伊同盟成立祝賀振及漢堡ニ於ケル西班牙義勇軍ノ歸國歡迎振ヲ見タルカ「ナチ」的二組織セラレ居タルニハ相違ナキモ大衆モ「ナチ」諸團體同様ノ熱心サヲ示シ居タルハ「ナチ」ニ依ル國民の統一カ成功シ居ルヲ視フニ足リ英佛側カ時ニ指摘セント努ムル國內ノ不平不一致ノ如キハ問題トスルニ足ラサルヘシ

三、獨逸國內食料不足云々ハ反獨宣傳者ノ盛ニ吹聽スル所ナルカ爲替節的⁽³⁾ノ爲ニ依ル「コーヒー」ノ如キ嗜好食料品ヲ購入制限シ又ハ戰時ニ備ヘテ脂肪蛋白等榮養食料品貯藏ヲ爲シ居ル爲(例ヘハ大豆、落花生、鯨油等)ノ買付變態的ニ多キ由)消費市場ヘノ出廻リ充分ナラサルコト等ハアル模様ニテ右ハ爲替及食料ヲ濫費セシメサル程度ノ調節ト觀ルヘク何等國民生活ヲ暗クスル程度ニ非ス例ヘハ家庭消費者ノ買溜ハ出來サル由ナルモ大衆向キ飲食店ト雖モ豚毛卵モ「コーヒー」モ「バター」モ事缺キ居ラス飲食店ノ繁昌振佛國內ニ優ルトモ劣ラス尙到ル所大小種々ノ建築盛ニシテ鐵材モ豊富ニ使用シ居レリ

四、⁽³⁾戦争ノ場合ノ國家總力ニ付テハ種々ノ觀方アリ得ヘキモ軍事力ニ於テ獨逸カ極メテ強キハ疑ヲ容レス空軍ハ問題外トシ地上戰ニ付キテモ「ジীগフリード」線ノ強サハ先般「ヒットラー」カ視察ノ際ノ宣傳カ必スシモ誇張ニ非サルヲ感セシム即チ「ザール」及「アーヘン」附近ニテ鐵道沿線ノ地上ニ現ハレ居ルモノヲ見タル素人觀察ニ過キササルモ「マヂノ」線ヨリハ物々シキ艇々タル「コンクリート」ノ戰車止メモ新式ニシテ殊ニ「アーヘン」ノ北「ルール」地方行鐵道沿線八十數哩ニ亘リ車窓ニ近キ「トーチカ」ノミニテ數十アリ今尙工事中ノモノモ夥シクコケ威シノ爲故意ニ見セツケ居ルニ非サヤトノ疑スラ起ル程ナリ又國境方面自動車道路工事亦盛ナリ

五、「バルチツク」諸國ハ何レニモ憎マレサル様嚴正中立ノ綱渡リニ一生命ナルハ當然ナルカ地理的ニ觀レハ若シ獨蘇開戰ノ場合軍略的必要ヨリ何レカ占領シ他方カ之ヲ攻撃スル可能性ハ極メテ多カルヘク從テ現在蘇聯カ英佛ニ求メ居ル「バルチツク」諸國保障ノ如キモ今日之等諸國ニ取リテハ迷惑千萬タルノミナラス若シ戰爭ノ場合ハ蘇聯カ援助ト稱シテ占領スル口實及其ノ場合英佛ノ參

戰義務ヲ豫メ作り置カントスルモノタルヘク又「オーラント」問題モ右軍略的占領ノ場合ヲ考慮シ且又「バルチツク」ニ於テ獨逸海軍カ優越ナルタケニ蘇聯トシテハ一層頑強ナル態度ヲ執リ居ルモノト稱シ得ヘキカ如シ

巴爾幹方面ヘハ本月下旬赴ク積リナルカ倫敦「ローヤル・インスチチュート・オブ・インターナシヨナル・アフエヤーズ」發行「サウスイースタンユーロプ」ハ英國的立場ヨリ書カレタル點ヲ割引ケハ最近迄ノ巴爾幹事情ノ好キ資料ト認メラレタルニ付先般歐亞局長宛送付シ置ケリ

轉報轉電無シ

257

昭和14年6月11日

在伊国白鳥(敏夫)大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊友好同盟条約締結時に暗黙了解された兩國の勢力範囲に關し伊国外相内話について

ローマ 6月11日前發

本省 6月11日前着

第一五九號

貴電第九八號ニ關シ(獨伊協定ニ關スル件)

「チアノ」ニ面會ノ際過般ノ獨伊同盟條約ニ關聯シ兩國間ニ相互ノ勢力範圍ニ關シ何等カ秘密協定アルカ如ク取沙汰セラルル處眞僞如何ト尋ネタルニ外相ハ何等格別ノ取極ハ無キモ伊獨兩國カ夫々最モ關心ヲ有スル地方ニ付キテハ暗黙裡ニ劃然タル了解アリト言フヲ得ヘシ之ヲ假ニ「ヴァイタル・スフエア」ト呼ビ得ヘク而シテ其ノ範圍ハ獨逸ハ「バルチツク」諸國、波蘭、「ウクライナ」、伊太利ハ「ユーゴースラビヤ」、希臘、土耳其、西班牙、阿佛利加等總テ一言ニ之ヲ言ヘハ地中海ニ直接關係スル一切ノ地方ヲ以テスル範圍ト看做シ羅馬尼、勃牙利、洪牙利等ハ之ヲ共同地帯(コンモン、グラウインド)ト認ムル次第ナリト答ヘタリ

獨へ轉電セリ

258

昭和14年6月14日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

対波關係改善交渉は進展を見ないとの独国大

使内話について

第一四九號

往電第一三一號ニ關シ

十二日或宴席ノ際本使ヨリ獨逸大使ニ對シ東方部長トノ會談(九日本使ノ催セル夜會ノ際本使ニ於テ適當ノ機會ヲ作リタリ)ハ如何ナリシヤト問ヘルニ同大使ハ自分ハ部長ニ對シ波蘭ニ海ヘノ出口ヲ保障シ得ルハ獨ノミニシテ斷シテ英佛ニアラス波蘭最近ノ政策ハ徒ニ内外ニ不安ヲ與ヘ居ルカ如シトノ趣旨ヲ述ヘシニ部長ハ英波協定ハ事情已ムヲ得サル結果成立セル防衛的ノモノニ過キスト辯シ國論カ今日ノ如ク硬化シ居リテハ如何トモ致方ナシトテ大イニ強氣ノ態度ヲ示セルニ依リ自分ハ獨トシテハ波力自ラ反省シテ其ノ態度ヲ是正スルヲ期待スル次第ニテ之カ爲ニハ一年ニテモ二年ニテモ忍耐スヘシト強ク告ケ置ケル旨述ヘ(尙九日夜東方部長ハ本使ニ對シ獨大使ト會談ノ機會アリタルヲ謝シ今後モ斯ル會談ヲ重ネ行クニ於テハ何等カ局面打開ノ方途ヲ見出し得ヘシト述ヘ居タリ)波ノ誇大妄想狂ハ稍鎮靜ノ模様ナルモ當分ハ何人ノ仲介アルニセヨ具體的商議ヲ爲

ワルシヤワ 6月14日前発
本 省 6月14日後着

スハ無益ト考フル旨附言セリ
在歐各大使へ轉電セリ

259 昭和14年6月19日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊両国が合意した勢力範囲に関する独国外
相の説明振りについて

ベルリン 6月19日後発

本省 6月20日前着

第五五七號

伊太利宛貴電第九八號ニ關シ(獨伊協定ニ關スル件)

十六日「リ」外相ト會談ノ際質問セルニ「リ」ハ何等祕密
文書存在セサルモ自然ニ定マレル所ニシテ伊太利ノ重要權
益分野ハ地中海及「ユーゴ」希臘ナリト述ヘタルヲ以テ
駐伊大使ノ電報ヲモ考ヘ土耳其古洪牙利等ハ如何ト質シタル
ニ土耳其ニ付テハ明答ヲ與エス洪牙利ニ付テハ洪牙利ハ世
界大戰以來ノ關係モアリ獨逸トハ特別ノ關係ニ在ル次第ナ
リト答ヘタリ
伊へ轉電セリ

260

昭和14年6月21日

在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

英ソ提携交渉が難航している事情につき諜報

報告

パリ 6月21日後発

本省 6月22日前着

第三八五號

材料⁽¹⁾

過日來例ノ極祕諜報者カ莫斯科交渉ニ關シ語レル所左ノ通
リ

(一)蘇聯邦側ハ英國ノ足許ヲ見透シテ高飛車ニ強要的態度ヲ
以テ支那及「バルチック」諸國ヲ始メ蘇聯邦周圍諸國ノ
問題ニ英國ヲ能フル限り多ク「コミット」セシメ第一ニ
英國始メ「デモクラシー」側ト日獨伊ノ「アクス」側ト
ノ關係悪化ヲ目論ミ第二ニ若シ蘇聯邦カ自ラ戰爭セサル
ヲ得サル羽目トナル場合ニモ日本及獨逸ノ銳鋒カ蘇聯邦
ニ集ラサル様即チ必ス日本ハ大規模ノ南方作戰ヲ又獨伊
ハ寧口西方及東南方作戰ヲ避ケ得サルカ如キ形勢ヲ作り
出スニ努力シ居ルモノニシテ其ノ交渉振モ註文ヲ小出し

ニシテ一步一步英國ヲ深入リセシムルニ成功シ居リ其ノ
 駈引多ク且巧妙ナルハ佛國極左方面モ顔負ノ體ニシテ
 「ヒトラー」ト手口同一ナリト言ヒ居ル由ニテ而モ他方
 英佛カ戦争スル場合蘇聯邦カ協定通り全力ヲ擧ケテ参戦
 スルトハ信セラレ居ラス六月四日在英蘇聯邦大使館参事
 官「カガン」ハ往訪者ニ對シテ「協定ハ恐ラク結局調印
 サルヘキモ蘇聯邦ハ英國ヘノ復讐ヲ忘ルルコトナカラ
 ン」(復讐トハ過去二十年間英國ノ對蘇態度ニ對スル意
 味ニ解セラレタル趣)ト言ヘル由又先般「タイムス」通
 信中ニ蘇聯邦ハ調印迄ハ猶太人ノ執拗サヲ以テ駈引シ調
 印後ノ適用ニ付テハ「アンブラクチカル」ナル露西亞人
 ノ本領ヲ發揮スヘシトノ批評アル旨記載セラレ居タルカ
 當方面ニモ協定成立スルモ蘇聯邦ハ當ニナラストノ感想
 ヲ有スル者相當多キ由

(二)²⁾ 諜報者カ天津問題發生前聞カサレ居タリト稱スル所ニ依
 レハ蘇聯邦ハ極東問題ニ付満足ヲ得スンハ協定ヲ成立セ
 シメサル方針ナル趣ニテ蘇聯邦ハ英佛カ九箇國條約ノ政
 策ヲ堅持シテ支那主權保全ニ飽迄忠實從テ日本ノ占領ノ
 結果ヲ認メサルコト及今後モ適時ニ蔣援助ヲ續クルコト

(材料ニ參照) ヲ誓ハシメ更ニ協定自身ニ付テハ第一二日
 本カ蘇聯邦ヲ攻撃スル場合ハ英佛モ参戦スルコト少クト
 モ日本カ獨伊同盟ニ参加セハ英佛蘇同盟ハ日本ニ對シテ
 モ自動的ニ軍事同盟タル性質ヲ有スルニ至ル旨約定スル
 コト又日本カ獨伊同盟ニ参加セサル場合ニモ外蒙トノ相
 互援助關係ノ存在ヲ英佛ヲシテ積極的ニ認メサセ置クコ
 トヲ主眼トシ居リ先般聯盟理事會ニ際シ前記支那政策共
 同宣言ヲ英佛ニ要求セルモ英カ之ヲ斷リタル爲其ノ時ヨ
 リ蘇聯邦ハ言論機關ヲシテ英蘇交渉悲觀說ヲ流布セシメ
 タルコトアリ(特情第八一號第八三號參照)

(三) 天津問題發生後ノ十六日夜蘇聯邦大使館書記官「ビリュ
 コフ」カ支那大使館ニテ同館員及「ペルチナクス」「タ
 ブイ」竝ニ諜報者ニ聞カセタル所ニ依レハ蘇聯邦ハ天津
 問題ニ付英國カ飽迄強ク出ンコトヲ要求シ(但シ武力行
 使ハ却テ自ラ戦争ニ捲込マルル故希望シ居ラス)英カ強
 硬態度ヲ明カニスル迄ハ調印セストノ態度ニテ押シ居リ
 目下交渉ノ中心ハ支那問題ナリ尙「バルチツク」問題ハ
 獨逸カ之等諸國ニ兵ヲ入ルルトキハ之等諸國ノ同意ノ有
 無ニ拘ラス之ヲ蘇聯邦ニ對スル間接ノ侵略ト認メテ協定

ヲ發動セシムルコトニ纏マリ又日本カ蘇聯邦ノミナラス外蒙ヲ攻撃スル場合ニモ協定ヲ發動セシムルコトモ纏マル見込充分ナリ云々(右ハ極左方面及支那人ニ聞カセル爲ノ宣傳ヲ含ムコト勿論ト思フモ研究材料トシテ電報スル次第ナリ)

261

昭和14年6月30日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢に関する全般的観測報告

ロンドン 6月30日後発

本省 7月1日前着

第七一九號

(1) 一般的情報

往電第六一七號ニ關シ

一、英國政府筋ヨリノ聞込ニ依レハ英國政府ハ「ヒトラー」カ近ク波蘭又ハ羅馬ニ對シ事ヲ起サント計畫中ナルコトヲ信シ何トカシテ之ヲ喰止メ若シ右阻止カ不可能ナル場合ニ於テハ英國側ノ立場ヲ出來得ル限り有利ニ導カンコトヲ企圖シ全勢力ヲ此ノ問題ニ集中シ居ル趣ナリ

二、右努力ノ一部ヲ爲スモノニ往電第六〇五號英國側ノ平和提唱アリ尙最近ハ首相及外相ニ於テ數度ニ亘リテ英國ノ贊意ヲ表明シタルノミナラス獨逸ノ海軍條約廢棄ニ對スル回答モ此ノ際最モ宣傳的ニ作成發表セラレタリ(往電第七一三號)而シテ「ダラジエ」ノ演説(六月二十七日)二次ク二十九日夜ノ「ハリファツクス」ノ演説ハ孰レモ「ヒトラー」ニ對スル警告ノ意味ニ於テ爲サレタルモノナリトス而シテ右ハ孰レモ英國ノ政策カ獨逸ノ所謂包圍政策ニ非スシテ單ニ「侵略」防止ニアルニ過キサルコトヲ強調シ獨逸ノ平和的經濟的發展ヲ阻止スルノ意ナキノミナラス之等ノ點ニ對シ常ニ協力ノ意アルコトヲ聲明シ以テ英國ノ立場ヲ有利ニ宣傳シテ明カニ萬一ノ場合ニ對處スルノ用意ヲ示シ居レリ元來英國側ハ「ヒトラー」ノ政策カ獨逸國民ノ意思ニ合致シ居ラサルヲ信シ居ルモノノ如ク作爲的ニ常ニ獨逸國民ヲ爲政者ヨリ引離ス用意ヲ以テ其ノ政策ノ運用ヲ行ヒ居ルモノノ如シ尙英國ハ獨逸ノ不滿ヲ補フ目的ト稱シテ經濟會議ヲ興シ廣ク經濟問題ヲ討議スルノ用意アルコトヲ示サントシ右ノ如キ會議開催ヲ米國ヨシテ主催セシメント圖リツツアリトノ諜報ア

三、英蘇交渉ハ英國側讓歩ニ拘ラス尙妥結ニ至ラサルモノノ
 如ク芬蘭ヲ筆頭トスル小國側ノ態度ハ終始一貫極メテ明
 瞭ナルモノアリ(蘇聯邦ノ保障反對)英國トシテモ全然其
 ノ態度ヲ無視スル譯ニモ行カス從テ充分蘇聯邦ヲ満足セ
 シムルノ形式ヲ發見スルヲ得サルモノト一般ニ認メラレ
 居ル處最近ニ至リテハ右蘇聯ノ躊躇ハ寧ろ歐洲ノ形勢推
 移ニ依ル政治的考察ニ基クモノト見ルモノ多キニ至レリ
 即チ蘇聯トシテハ英佛側ノ同盟ノ提供ト獨逸側ノ通商交
 渉ヲ通スル中立及不可侵(蘇聯ノ)提供トノ取捨ニ迷ヒ居
 ルモノナルノミナラス歐洲ノ形勢ハ英獨勢力ノ衝突ヲ不
 可避ト見テ寧ろ蘇聯ハ之レニ捲込マルルヲ避ケントスル
 態度顯著ナルモノアリ更ニ「チエンバレン」首相ノ企圖
 スル所ハ蘇聯ニ對スル全部讓歩ハ今日内外ニ對スル關係
 上斷行困難ナルニ付交渉ヲ引摺リ歐洲戰爭ノ不可避ナル
 形勢ノ押シ詰マルヲ俟ツテ茲ニ蘇聯ノ要求ヲ全部容レテ
 同盟ヲ成立シ蘇聯ヲ味方ニ引キ入レントスルモノナリト
 ノ情報アリ然シ若シ蘇聯邦カ前記ノ如キ政治上ノ理由ニ
 依リ妥協ヲ躊躇シツツアルニ於テハ果シテ最後ノ場面ニ

右英國側ノ企圖スルカ如ク動クヤ之レモ見透シ困難ト云
 フノ外ナシ

四、獨逸ハ英蘇交渉「クレヂツト」ノ設定等ヲ以テ中立ヲ購
 ハントスルカ如ク即チ最近ハ反蘇宣傳ヲモ一切中止シテ
 蘇聯ノ意ヲ迎フルニ力ヲ注キ居リ相當ノ利目アリタルモ
 ノ如シ(獨逸ノ對蘇政策ノ最近ノ變更力單ニ英蘇交渉
 妨碍ノ一時的掛引ニ依ルモノナルヤ又眞ニ政策變更ヲ招
 來スルモノナリヤハ今後ノ形勢ニ依リ判斷スルノ外ナキ
 モ此ノ點ハ今日頗ル注意セラレ居レリ)

五、獨逸ト波蘭トノ關係急迫ハ屢報ノ如ク當方面ニ於テハ
 「ダンチヒ」問題ニ付テハ獨逸ハ「ダンチヒ」自身ニ依
 ル獨立ヲ敢行シ若シ波蘭カ攻略セハ之ヲ以テ波蘭ノ挑發
 ト爲サントスルノ策略(即チ英佛參戰ノ理由ナキモノト
 爲ス措置)ナリト觀ラレ居レリ又羅馬尼外相ノ昨今ノ態
 度ハ表裏一致セス實際ニ於テ萬一ノ場合ヲ支持スルモノ
 ナリトテ著シク獨逸ノ不興ヲ買ヒ居リ獨逸ハ洪牙利ヲシ
 テ何時ニテモ羅馬馬尼進出ヲ爲サシムルノ用意ヲ整ヘツツ
 アリト觀ラレ居リ何レモ本年收獲期ヲ境ニシテ危機發生
 スヘシト觀ラルルニ至レリ右ハ前記一ノ英國當局者ノ觀

測ノ基礎ヲ爲ス次第ナリ

六、獨逸ハ本年ハ英佛ニ於テ起ツ用意ナシト觀居リ又本年中ハ少クトモ獨逸側ニ有利ナリト認メ英蘇交渉ノ成立セサル前ニ中東歐ノ霸權確立ニ突進スヘシトノ見解英國當局者ヲ支配シ居ルモノト認メラル英國ハ何トカ此ノ形勢ヲ喰止メント劃策シ居ルハ前記ノ通りナルカ巴爾幹ノ平和運動モ期待薄ノ今日英國ノ努力カ果シテ成功スルヤ疑問ナルノミナラス宣傳ヲ主タル目的トスル英國政治家ノ聲明及政策ノ運用ハ却テ獨逸ヲシテ反撥セシムルコトナキヤ一般ニ疑ハレ居レリ英國カ前記ノ如ク「ヒトラ」ト獨逸國民トノ引離シヲ目指シ居ルト共ニ獨逸ノ離間ニモ力ヲ注キ獨逸ヲ孤立ニ陥入レントスルノ政策ハ頗ル辛辣ナルモノアリ

往電第六一七號土、白、米、伯、壽府ニ暗送セリ

佛、獨、伊、蘇、壽府、米ハ暗電シ白、土、伯ハ暗送セリ

262

昭和14年7月1日

在独国外務大臣宛(電報)

英独海軍協定廢棄通告に對する英國回答には

誠意が認められないとの独側評価について

ベルリン 7月1日後發

本省 7月2日前着

第五九七號

往電第五八八號ニ關シ

當國外務省筋ノ意嚮ヲ探リタル處獨逸政府當局トシテハ英國今次ノ申出ハ歐洲及極東ニ於ケル情勢カ英國ニ不利ナル今日窮餘ノ策トシテ爲サレタルモノニシテ英國トシテハ兎モ角獨逸トノ話合ヲ始メタキ希望ヲ有スル模様ナルモ他方獨逸ノ包圍政策ヲ清算スル意思ナク回答文ノ内容ヨリ判斷シ寧口其ノ「カムフラージェユ」タルニ過キササルモノト看做シ結局英國今次ノ回答ニハ何等誠意ノ認ムヘキモノナシトシテ之ヲ眞面目ニ取上ケサル方針ノ如シ

蓋シ一九三五年ノ英獨海軍協定締結セル當時ノ獨逸側ノ肚ハ之ヲ以テ獨逸ハ西歐進出ノ意思ナキコトヲ示シ他面英國ヲシテ獨逸ハ西歐進出ヲ默認セシムルノ政治的效果ヲ狙ヒタルモノナルモ「チエツコ」問題後ノ英國ハ俄然再ヒ世界大戰前ノ政策ニ立返リ獨逸ノ發展ヲ正面ヨリ妨害セントスル意嚮ヲ明カニシタルニ依リ獨逸トシテハ最早英獨海軍協

定存續ノ必要ヲ認メサルニ至リタルモノナルヘク從テ英國カ包圍政策ヲ斷念セサル限り獨逸ハ英獨海軍交渉再開ノ意思ヲ有セサルモノト判斷ス
英へ轉電セリ

263

昭和14年7月5日
在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ問題で独国が対波戦争を起こすこと
はないとの独国大使内話について

ワルシャワ 7月5日後発
本 省 7月6日前着

第一五九號

一、近ク「ダンチヒ」市カ獨立ヲ宣言スヘシトカ獨逸ヘノ復歸ヲ決議スヘシトカ又ハ之ニ關聯シ同市ノ武装強化乃至多數獨逸軍人ノ同市潛入等種々ノ情報傳ヘラルル一方當國ノ反獨氣分ハ六月末全國ニ亘リ催サレタル「海ノ週間」ニ於テ大統領カ同國獨立保持ノ爲「ダ」市ヲ「ゲデア」ト共ニ守護セヨト訴ヘタルコト竝ニ前記情報等ニ刺激セラレテ益々高調シ來レル爲形勢愈々逼迫シ恰モ聞

戰ノ前夜ニ在ルカノ如ク觀測スル向アリ

二、右ニ付一兩日前ニモ獨逸大使ト懇談セル處同大使ハ獨トシテハ國際情勢上有利ノ立場ニ在ル此ノ際ノ如キ機會ヲ捉ヘ「ダ」市問題ノ解決ヲ期スルニアラスヤトノ觀測ニハ一應首肯スヘキ點アルカ如シ然シ「ダ」市ハ住民及參議院ノ構成等ヨリ見テ既ニ事實上獨領ニテ例ヘハ波蘭カ外交權ヲ有ストスルモ自分ハ自由ニ參議員代表ト電話ヲ交換シ居ルカ如キ狀態ナリ故ニ名實共ニ完全ニ獨領トナルハ唯時期ノ問題ニ過キス之ヲ思ハハ「ダ」市問題ハ獨ニ取り戰爭ノ危險ヲ冒シテ迄解決ヲ急クヘキ程ノ重要事ニアラス

從テ獨カ波ヲシテ餘儀ナク武力抗爭ヲ爲サシムルニ至ルカ如キ事態ヲ誘發スル惧アル擧ニ出ツヘシトハ思ハレス尤モ自分ノ當地在勤九年ノ經驗ニ依レハ波蘭人ハ特異ノ性情ヲ有シ他人ノ評價ヲ顧スシテ自己ノミヲ正シトシ強シト認定シテ行動スルカ故ニ如何ナル紛糾ヲ起スヤモ知レス此ノ點ハ充分戒心ヲ要スル所ナリト述ヘ自分ハ平和解決ノ希望ヲ捨テス依テ外務當局トノ接觸ヲ保チ置キタク格別ノ用件アル次第ニアラサルモ近ク外務次官ヲ往訪

スル積リナリト附言シ居タリ

三、波ハ對獨強硬態度ヲ持シ居ルハ其ノ自力過信モ一因ナルヘキモ當局トシテハ「チエツコ」ノ例ヲ考ヘ右ヲ以テ最モ適切ト認メタル結果ナルヘク即チ「ズデーテン」ノ如ク「ダンチヒ」ヲ讓レハ其ノ獨立喪失ノ第一歩ナリトシ之カ死守ヲ決意シ之ニ從ヒ反獨輿論ノ強化ニ努メ來レル次第ナリ夫レ故昨今ノ情勢ヨリ見レハ「ダ」市ニ對スル獨ノ措置如何ニ依リテハ決戰ヲ覺悟シ必スヤ「ダ」市ノ武力占領ヲ敢行スヘク然ラサレハ國論沸騰收拾ノ途ナカルヘキ實情ナリ從テ和戰ノ鍵ハ獨ノ主張ニ在リト言フヘク事態ハ甚タ逼迫シ居ルモ前記獨逸大使ノ證言ヲ考慮シ又波トシテモ自ラ「アグレサー」ト認メラルルカ如キ舉ニ出ツルコトハ之ヲ避クヘキニ依リ差向キ「ダ」市問題カ契機トナリテ戰爭勃發スヘシトハ觀測セラレス

在歐各大使へ轉電セリ



264

昭和14年7月15日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ問題などに関するベック内話について

ワルシヤワ 7月15日後発
本 省 7月16日前着

第一七〇號

十三日蜂谷參事官紹介ノ爲「ベック」外相ヲ往訪セルニ外相ハ田舎ニ靜養中ナリシ爲接見遲レタリト斷リタル上

一、歐洲ノ事態ハ稍々鎮靜ノ感アルモ今尙諸種紛糾ノ要素錯綜シテ存スルヲ以テ何時何事カ起ルヤモ知レス

三、大戰ニ際シ現領土ノ約四分ノ三カ戰場トナリ三百萬戸カ破壊セラレ昨今漸ク復興期ニ入りタル波蘭カ戰爭ヲ欲セサルハ勿論ナリ然リトテ平和ヲ欲スル餘リ他ニ屈服スルハ聽テ獨立ヲ失フ惧アルヲ以テ餘儀ナク抗戰ノ覺悟ヲナセル次第ナルカ「ダンチヒ」ニ付テハ波蘭トシテハ從來總ユル權益ノ保持ヲ要望スルモノニシテ「ダ」市カ「ナチ」又ハ他ノ「レヂーム」トナルヤノ如キハ問題トスルニアラス從テ獨ニ於テ商議ノ意アラハ之ニ應スヘキハ勿論ナルモ獨ハ商議ヲ避ケ居ルカ如シ獨カ恰モ霸者ノ如ク振舞ヒ一方的ニ事ヲ決セントスルハ甚タ遺憾ナリ

三、「ダ」市カ假ニ獨立ヲ宣言スル場合波カ如何ナル處置ニ出ツヘキヤハ其ノ時ノ事情ト方法トニ依ルヘク若シ右獨

立宣言カ波蘭ニ相談ナク行ハレ然モ獨ヘノ併合ノ前提ト認メラルトキハ傍觀スル能ハス

四、英波借款商議ハ近ク結了スヘク波蘭トシテハ目下約四十

萬ノ兵力ヲ動員シ居リ又軍備ハ未タ充實シ居ラサル次第

ニ付右借款ノ成立ヲ重視スルハ言フ迄モナシ

五、英蘇會談ハ先日申上ケタル通ノ成行ヲ(往電第一二二號)

見ツツアルカ如シト得意氣ニ大笑シ蘇ハ今尙英ヲ巧ミニ

操リ居ルモノト見ルヘキニ依リ今後ノ推移之ヲ注視スル

要アルヘシ

六、英ノ飛行機ノ訪波(往電第一六七號)ニ付テハ未タ公式ノ

報道ニ接シ居ラス云々ト語レリ

在歐各大使、壽府へ暗送セリ

265

昭和14年8月4日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ通商交渉に関する独国外務省通商局長の

説明振りについて

ベルリン 8月4日後発

本省 8月5日前着

第七七九號

二日宇佐美「ヴァール」通商局長ト會談ノ際獨蘇通商交渉ニ付質問シタルニ同局長ハ蘇聯トノ通商ノ話ハ余程以前ヨリ始マリタルコトニシテ最近ハ伯林ニテ「シユヌレ」ト蘇聯通商代表トノ間ニ行ハレ居ルモ目下ノ處如何ナル結果ニ到達スルヤ見當付カス蘇聯トノ間ノ貿易ニハ「クレヂツト」ノ話カ常ニ附物ナルカ果シテドレ位ノ「クレヂツト」ヲ與フルコトトナルヤ額等全ク不明ナリ獨逸側トシテ輸入シタキ品目ハ皮革、「マンガン」、石油、燐鑛、木材等ニシテ獨逸側ヨリ賣ル物ハ矢張主トシテ機械ト云フコトニナルヘシト述ヘ宇佐美ヨリ日本側ヨリ見レハ露西亞カ獨逸ノ「クレヂツト」等ニ依リ少シテモ強クナルコトハ面白カラス又工作機械ノ如キハ日獨通商交渉ニ當リテ問題ニナリタル所ニシテ獨逸ニ餘裕アラハ日本ニ入レタキモノナリト述ヘタルニ同局長ハ獨逸ハ「チエツコ」問題以來對米輸出減少シ米國ヨリ原料ノ輸入困難トナリタリ獨逸トシテモ蘇聯ヲ強メタクナキコトハ同様ナルモ軍事上ニモ必要ナル原料ハ如何ニシテモ輸入ノ必要アリ外貨ナキ獨逸トシテハ之カ支拂ノ爲機械等ヲ以テ充ツルノ已ムナキ次第ニテ此ノ點ハ

御了解ヲ願度シト述ヘタルヲ以テ宇佐美ハ何レニスルモ不
必要ナル誤解起ラサル様今後交渉ノ經過等ニ付テモ隨時通
報アリタシト申入レ置キタル趣ナリ
在歐各大使、米へ轉電セリ

266

昭和14年8月11日

在独国外務大臣宛(電報)
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ市民の対波抗議大会におけるフォレ
スター演説要旨について

ベルリン 8月11日後発

本 省 8月12日前着

第七九四號

「ダンチツヒ」黨地方區長官 Forster ハ「ヒ」總統ト「バ
ルヒテスガーデン」ニ於テ會見ノ後「ダンチツヒ」ニ歸來
シ十日「ダンチツヒ」市民ノ對波抗議大會ニ於テ演説ヲ爲
シタルカ右ハ「ヒ」總統ノ指令ニ依ルモノトシテ注目セラ
ルル處要旨左ノ通り

波蘭ヨリ加ヘラルル連續的脅威竝ニ同國官邊ノ煽動ハ我々
ヲシテ茲ニ抗議示威ヲ爲スヨ餘儀ナクセシメタリ四月二十

八日以來ノ波國新聞ノ反獨煽動、波國官憲ノ對獨領土的要
求、就中「スミグリー」參謀總長ノ「ダンチツヒ」占領ハ
波蘭ノ對獨進駐ノ第一段階ナリトノ演説ノ如キハ吾人ノ忍
フ能ハサル所ナリ

一、吾人ハ戰爭ノ脅威ヲ怖レススル脅威ハ「ダンチツヒ」ニ
些サカノ不安ヲモ與ヘ得ス

二、「ダンチツヒ」市民ハ「ナチ」ノ國家指導ニ全幅ノ信頼
ヲ置キ今日ノ緊迫セル時局ニ際シ度ヲ失セサル用意アリ
三、吾人ハ數週間來「ダンチツヒ」ヘノ攻撃ニ對シ其ノ種類
ノ如何ヲ問ハス之ヲ防禦反擊スル準備ヲ爲セリ

四、「ダンチツヒ」ハ決シテ孤立シ居ラス波蘭ヨリ攻撃ヲ受
クル場合大獨逸國ト「ヒ」總統ハ「ダンチツヒ」救援ニ
起ツ決意ヲ固メ居レリ

波蘭ハ宜シク以上ノ事實ヲ考慮スヘシ又今日英佛新聞ハ
「ダンチツヒ」カ英佛波領ニ屬スル如ク同問題ヲ取扱ヒ居
ルモ「ダンチツヒ」ノ生活ト其ノ將來ノ決定權ハ唯我々ニ
ノミ屬ス「ダンチツヒ」市ハ建設以來純獨逸ノ都市ニシテ
大戰後獨逸離脫以來波蘭ノ爲計畫の二生存ノ基礎ヲ奪ハル
ルニ至レリ斯テ市民ハ痛切ニ獨逸復歸ヲ冀ヒツツ今ヤ解放

1 独波開戦に至る経緯

ノ時機至レルヲ信シ「ヒ」總統カ右市民ノ要望ヲ達成シ自
己決定權ヲ回復スヘキヲ確信シ居レリ此ノ際我々ハ一致團
結シ此ノ獨逸領土ノ攻撃ニ對シ全力ヲ盡シテ防衛シ「ヒ」
總統ノ命令ヲ實現セント誓フコトコソ最上ノ策ニシテ市民
カ再ヒ此所ニ集合シ大獨逸トノ合同ヲ祝フノ日近キヲ望ム
云々

英、佛、波ニ郵送セリ

267 昭和14年8月13日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ問題から欧州戦争が勃発する可能性
を示唆した伊国武官の内話について

モスクワ 8月13日後発

本省 8月14日前着

第九三四號(極秘)

最近獨逸ヨリ歸莫セル當地CC2ハ十一日「ダンチツヒ」
問題ニ關シ情勢逼迫シ獨トシテ現状ノ儘之ヲ放任シ置クハ
殆ト不可能ナリト語リタルカ十二日在當地伊太利大使館附
武官ハ好富ニ對シ自分個人ノ印象ニ依レハ月末頃迄ニハ獨

ハ「ダンチツヒ」ニ侵入スヘク其ノ場合波蘭モ蹶起スヘク
然ルニ於テハ英佛ハ必スヤ波ヲ援助シ茲ニ歐洲大戰トナル
ヘシト語リタル趣ナリ

268 昭和14年8月19日

在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

戦争回避努力が希薄な仏国の対独伊強硬姿勢

について

パリ 8月19日後発
本省 8月20日前着

第四七七號

貴大臣發獨逸電報第五〇六號ニ關シ

一般情勢觀測ハ屢次往電ニテ大體盡シ居ルモノト存スルニ
付佛國ノ態度ニ付テ申進ス

昨年九月英佛ハ無準備ノ爲如何ニシテモ戦争ヲ回避セサル
ヲ得ス醜ヲ天下ニ晒シタル處人民戰線ノ毒酒ニ酔ヒ居タル
朝野愕然トシテ目覺メタルカ軍部ニテ(當時)ノ往電殊ニ第
六一五號御參照)爾來熱心ニ國力建直ニ努力シ相當成績ヲ
上ケ他方英國トノ關係一身同體(英カ主佛ハ從屬)同様トナ

リ之等ヲ吹聴宣傳シ居ル中ニ自然相當自信ヲ回復シ來リ例
ヘハ伊太利カ「コルシカ」「チユニス」ヲ驕立テタル際佛
國ハ首相以下地方ニ示威的旅行ヲ爲シタルヲ始メ帝國意識
ヲ煽リ立テ盛ンニ強硬態度ヲ示シタルカ其ノ後伊太利カ驕
カサルニ至レル等ノコトモアリテ益々氣ヲ強クシ居リ「ミ
ユンヘン」政策カ三月致國併合ニ依リ無慘ニ止メヲ刺サレ
テ以來ハ獨逸トノ交渉約定ノ如キハ三文ノ價值ナシトノ考
多クナリ獨伊ノ強氣ニ對シテハ英佛モ強氣ニテ押ス以外ニ
途ナク又押サハ獨伊モ尻込ミスヘク戰爭ヲ避クルコトモ或
ハ可能トナルヘク又若シ戰爭不可避トナルモ致方ナシトノ
考普及スルニ至リ戰爭回避ニ努力スル氣分ハ少クモ表面ハ
姿ヲ消シタル形ニテ行ク所迄行ク外ナシトノ運命論的態度
支配的ニシテ文武當局ハ獨伊ヲ尻込ミサセル爲外交軍事國
内施策等總ユル方面ニ於テ戰爭ニ臨ミ得ル姿勢ヲ整ヘ且充
實スルニ努メ居レリ「マジノ」線ニハ戰時同様ノ兵數ヲ入
レ居リ空軍及海軍又然リト云フ

⁽²⁾尤モ若シ獨逸カ英佛ノ面目ヲ害セサル方法ト條件ニ於テ時
局解決ニ努メ來ラハ之ニ應シテ可ナリトノ考カ一部ニ潜在
スルハ明カナルカ佛國ノ對英依存從テ外交ニ於テモ英ニ從

屬追從スル傾向益々顯著ナルハ御承知ノ如ク從テ前述ノ如
キ場合執ルヘキ態度ハ英國次第ナルヘシ

過日來四國會談說羅馬法王斡旋說等流布サレ居ルニ對シ佛
國新聞ノ態度ハ共產乃至蘇聯派等極左方面カ絶對反對ヲ唱
ヘ居ルハ別トシ一般ニ強硬態度堅持及嚴重監視等ヲ言ヒテ
贊否ヲ明確ニ言ヒ切ラサル風アルト共ニ英國ノ「リアクシ
ヨン」ヲ詳細報道シ居ルハ右傾向ヲ如實ニ示スモノト解シ
得ヘシ又今後ノ見透ニ付テハ英佛共ニ致國掌握ニ依リ獨逸
ノ戰鬪力ヲ著シク昂メタルニ懲リテ波蘭ヲ見殺シニハ出來
サル關係上飽迄尻押スル態度ヲ執リ波蘭殊ニ軍部ハ相當氣
カ強クナリ過キ居ル模様ニ付神經戰爭ニテ波蘭ヲ參ラセン
トスル獨逸ノ作戦ハ意外ニ困難トナリツツアリ獨波ノ頑張
リ競争ハ漸次事態ヲ惡化急迫ナラシメ居リ近ク戰爭トナラ
ストスルモ戰爭ヘ紙一重ノ所迄ハ行ク可能性アルヘシ
(在也)
歐各大公使ヘ暗送セリ

269

昭和14年8月20日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

ダンチヒ問題に対する独国動向につき観測報告

第八一七號(極秘)
貴電第五〇六號ニ關シ

ベルリン 8月20日後發
本省 8月21日前着

一、「ダンチツヒ」問題ノ解決ハ「ナチス」ノ根本方針タル「獨逸人ハ獨逸國家へ」ノ主義ニ基キ其ノ面目ニカケテモ之ヲ貫徹セサルヲ得サルコト勿論ナルモ唯其ノ時期ニ付テハ獨逸ハ波蘭民心ノ沈靜ヲ待チツツ睨合ヲ續ケ好機ヲ待チ來リタルコト往電第七九五號申進ノ通りナリ然ルニ波蘭國民ノ反獨氣分増々高マリ波蘭ハ容易ニ強氣ノ氣勢ヲ棄テス而シテ獨逸トシテハ既ニ全世界注視ノ的タル此ノ重大懸案事項ヲ長ク放置スルコトハ獨逸ノ威信ヲ失墜スヘク此ノ際之ヲ解決シテ英佛ノ包圍政策ニ一大打撃ヲ與ヘ英佛ノ歐洲ニ於ケル政治的地位ヲ動搖セシムルコトハ獨逸ノ國策遂行上必要ニシテ又國內ニ於ケル豫備兵ノ召集其ノ他民心ノ緊張狀態ヨリ見テモ長ク本問題ノ解決ヲ遷延スルヲ不利トスヘク獨逸トシテハ依然流血ノ慘ヲ避ケルニ努メ居ルモ近ク何等カノ解決手段ニ出ツルモノト觀測セラル而シテ現狀ヨリ見テ或ハ黨大會前ニ

之カ解決ニ着手スルコトアルヤモ測ラレス

二、「ダンチツヒ」問題ノ解決ヲ四國會議等ニ依ルコトハ獨逸カ本問題ハ獨逸自身ノ問題ニシテ英佛等ノ干與ヲ許サル旨言明シ居ルヲ以テ成立セサルヘシ從テ獨逸ノ執ルヘキ手段ハ一方的ニ「ダンチツヒ」ヲシテ現在ノ「ベルサイユ」條約ニ基ク「ステータス」ヲ廢棄セシメ獨逸ニ合併ヲ宣言セシムルニ在ルヘシ

而シテ斯ル手段ヲ執リタル場合波蘭カ兵力ヲ以テ之ヲ妨害スヘキヤ否ヤニ付獨逸ハ波蘭カ恐ラク此ノ舉ニ出テサルヘク然ルトキハ英佛亦戰爭ニ訴フルコトナカルヘシト觀測シアリ蓋シ波蘭ニシテ兵ヲ「ダンチツヒ」ニ進メントセハ東部及西部ニ在ル獨軍ニ對シ全面的戰爭ヲ覺悟セサルヘカラス假令英國カ此ノ場合武力ヲ以テ波蘭ヲ支援スルコトアルモ西方戰場ニ於ケル勝敗決定ニ先チ波蘭軍カ殲滅ノ打撃ヲ蒙ルコトハ明カナルヲ以テナリ

三、獨逸ノ判斷ハ上述ノ如キモ波蘭カ勢ノ趨ク所兵力ヲ使用シ獨逸間ノ全面的戰爭發生セハ英佛亦之ニ參加スルモノト豫想シ此ノ場合ヲ考慮シ獨逸ハ既ニ豫備兵ノ召集ノミナラス一切ノ國內的準備ヲ整ヘ獨リ波蘭ノミナラス英佛

ニ對スル大規模ノ戰爭準備ヲ完了シアリ

四、尙獨逸ハ「ダンチツヒ」問題ト同時ニ「コリドール」問題ノ解決ヲモ企圖スヘシトノ風説外國方面ニ行ハレ居ル模様ナルモ獨逸トシテハ若シ此ノ際「コリドール」ヲモ實力ヲ以テ奪回スルモノトセハ波蘭トノ全面的戰爭トナリ來ルヲ豫想シ居ルヲ以テ此ノ際ハ先ツ「ダンチツヒ」問題ノ解決ヲ主トシ他ノ問題ハ他日ニ讓ルコトニスヘシト觀測セラル併シ乍ラ獨逸トシテハ「ポーゼン」地方及上部「シレジア」等獨逸人多數居住地域ハ一般「コリドール」問題ト離レテモ成ルヘク速ニ回復シタキ希望ヲ有スルヲ以テ「ダンチツヒ」問題解決ニ關聯シ有利ナル情勢生セハ併セテ之カ處理ニ出ツルコトナシトセサルヘシ在歐各大使ヘ轉電セリ

270 昭和14年8月21日 在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ通商協定の成立に関する報道振り報告

モスクワ 8月21日後發

本省 8月22日前着

第九六六號

二十一日各新聞ハ第一面冒頭二十九日伯林ニ於テ蘇獨貿易「クレジツト」協定調印セラレ右ニ依リ蘇聯ハ獨逸ヨリ金額二億麻克期限七年五分利ノ「クレジツト」ヲ受ケ協定調印ノ日ヨリ二年間ニ獨逸商品ヲ買付クルト共ニ獨逸ハ蘇側ヨリ二年間ニ一億八千萬麻克ノ商品ヲ買付クルコトナレル旨ノ「タス」報ヲ掲クルト共ニ「プラウダ」及「イズベスチヤ」ハ論說ヲ掲ケ本協定ノ成立ヲ謳歌シ新協定ハ從前ノモノト異リ事實上金融的「クレジツト」ノ性質ヲ帶フルモノナリト云ヒ尙從來兩國間ノ通商關係ノ萎靡沈滞ハ全ク政治關係ノ緊張ニ基クモノナルニ鑑ミ新協定ノ成立ハ斯ル緊張セル雰圍氣ヲ緩和シ營ニ兩國間ノ經濟關係ノミナラス政治關係ノ今後ノ改善ニ取り重大ナル踏石トナルヘシト論シ居レリ

英、佛、獨、伊、米ヘ轉電セリ

271 昭和14年8月21日 在オランダ石射(猪太郎)公使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢緊迫に関する蘭国外交筋の観測報告

第八二號(出所極秘)

ハーグ 8月21日後発
本省 8月22日前着

獨宛貴電第五〇六號ニ關シ(歐洲情勢判斷ニ關スル件)

未タ政府責任者ノ觀測ヲ叩キ居ラサルモ左記何等御參考迄
一、政務局長ハ十九日萩原ニ對シ「ダンチヒ」ノ事態ハ何等
カノ切掛アラハ直ニ戰爭トナル惧アリ今春迄ハ英國起タ
ストノ見込ノ下ニ行動シ居タル獨逸ハ今日ニテハ英トノ
衝突ヲ見越シツツ而モ勝算アリトシテ行動シ居リ爲ニ最
近危機ノ増大ヲ感セシム(右勝算ハ客觀的ニハ必スシモ
斷定シ難シ)一方英國トシテモ第二ノ「ミュニツヒ」ヲ
ナシ土、羅等ノ同盟國ニ失望ヲ與フルハ折角作り上ケタ
ル包围陣ヲ崩潰セシムル惧アルニ付敢テセサルヘシト述
ヘ居タリ

二、獨逸代理公使邊リハ如何程迄事情ヲ知り居ルヤ不明ナル
モ獨逸ハ最早後ヘハ退ケス少クトモ一ヶ月以内ニハ「ダ
ンチヒ」ノ解決ヲ期シ居リ英若シ起ツモ之ヲ辭セストナ
スモノナレハ今後一ヶ月以内ニ相當ノ危険アリト稱シ居
レリ

三、獨蘭關係ニ付テハ政務局長ハ獨カ對英戰略上ノ必要以外

ニテ和蘭ヲ侵略スルコトナキハ明カニシテ戰略上ノ必要
サハ疑問ニシテ獨トシテハ寧口物資供給ノ爲蘭ヲ中立ニ
殘シ置クコトヲ有利トスヘシト觀測シ居ル旨ヲ述ヘ獨代
理公使モ自分ノ知ル限りニテハ獨逸側ニテ和蘭寄りニ兵
力ヲ集結シ居ル事實ナシ蘭側モ極力中立ヲ維持セント苦
心シ居リ獨ニ對シ必スシモ好感ヲ有セサルハ明カナルモ
獨側ノ希望(例ヘハ排獨映畫禁止)ハ何テモ出來得ル限り
之ヲ容レテ其ノ氣ヲ害ネサルコトニ努メ居リ如何ナル形
ニテモ英ニ加担セハ直ニ獨軍力侵入シ來タルヘキヲ熟知
シ居ルニ付結局和蘭ハ中立ヲ守リ通シ得ヘシト思フ旨ヲ
述ヘ居タリ(往電第七七號新嘉坡會談ニ蘭側參加ノ有無
ニ付テモ否定的情報ヲ有スル由)

四、和蘭側一般ノ空氣ハ未タ靜觀のニシテ右ハ客年來恐慌的
氣分カ慢性化シタルト前記ノ如ク蘭カ中立ヲ保チ得ヘシ
トノ見込ヲ得來レルニ依ル點アルヘキモ少クトモ客年九
月乃至本年四月程ノ神經過敏振リヲ示シ居ラサルハ事實
ナリ尤モ對獨國境及海岸ノ防備ヲ堅メ防空練習ヲ旺ニ遣
リツツアリ

在歐洲各大使、公使、「バタヴィヤ」へ暗送セリ

272 昭和14年8月22日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭獨立擁護のためなら英仏両国は蹶起を躊躇せずとの英國外務省筋の内話報告

ロンドン 8月22日前発
本省 8月22日後着

第九七一號

一般的情報

歐洲情勢ニ關シ二十一日外務省中歐部係官ノ加瀬ニ語ル所ハ從來ノ情報ト種々重複ノ箇所モアルモ英國係官ノ説明振何等御參考迄情勢ハ險惡ニシテ戰爭誘發ノ危機ヲ多分ニ包藏ス波蘭ハ外交交渉ヲ拒否セル次第ニアラス英國モ獨、波間ノ平和的話合ニ依リ危機ノ解消センコトヲ切望シ居ルモ獨逸ノ對波壓迫ハ逐次増進シツツアリ獨逸ニシテ其ノ要求(既ニ「ダンチヒ」問題ヲ逸脱シ相當廣範ナルモノトナリツツアリト傳ヘラル)ヲ「デクテイト」セントスルニ於テハ波蘭人獨立

擁護ノ爲敢然抗争スヘク其ノ際ハ英國ハ何等ノ躊躇ナク蹶起スヘク佛蘭西モ亦同様ナリ波蘭ハ歐洲均衡上必要ナル存在ナリ客秋危機ノ當時ト相違シ英國ハ輿論現狀ニ鑑ミ此ノ際「アツピーズメント」ヲ試ミル餘地全然ナク(第二ノ「ミユンヘン」ハ直ニ政府ノ失脚ヲ來スヘシ)獨逸モ亦今更退クニ退キ難キ立場ニ在リ從テ客秋ヨリモ衝突ノ危險更ニ濃厚ナルモノアルモ獨逸トシテモ英、佛ノ斷乎タル決意ヲ知ラサル筈ナク又獨逸政府當局ニ於テ果シテ最後ノ決心ヲ固メタルヤ否ヤ尙疑問ニ屬ス而シテ伊太利ハ由來波蘭ト親交アリ極力戰爭回避ニ努ムヘキヲ以テ平和ハ或ハ羅馬ニ於テ繫キ止メラルルコトトナルヤモ知レス何レニセヨ目下ノ所前途ヲ的確ニ豫斷スルコト困難ナリ尙情勢右ノ如ク機微ナル際獨蘇通商交渉成立カ公表ヲ見タルハ奇異ノ感ヲ抱カシムルモノアリ蘇聯ハ英、獨ヲ兩天秤ニ掛ケ蘇聯一流ノ「マヌーバア」ヲ行ヒ居ルモノト解セラレサルニアラス云々

在歐各大使、壽府へ暗送セリ

1 独波開戦に至る経緯

273

昭和14年8月22日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独波が開戦してもソ連は参戦しない見通しと

の諜報報告

モスクワ 8月22日前発

本省 8月23日後着

第九六八號(極秘)

二十一日當地UU二ノ館員ニ對スル内話左ノ通り

一、波ハ既ニ動員シ萬一二對スル準備全ク成レリ

若シ「ダンチツヒ」ニ於テ獨トノ合併ヲ決議スル等ノコ

トアラハ波ハ直ニ起ツヘク然ルニ於テハ英佛ハ去ル十八

日在獨兩國大使ヲシテ獨政府ニ申入レシメタル通り直ニ

波ヲ援助スヘシ

二、右戰爭ニ立到ル場合ニモ蘇ハ當分ノ間絶對ニ起タサルヘ

シ其ノ理由ハ

(イ)蘇聯邦ハ獨ト交戦スルヲ極力避ケントシツツアルコト

(ロ)若シ蘇聯邦カ參戦スレハ日本カ直ニ蘇聯邦ニ向ツテ開

戦スヘキヲ信シ居ルコト

(ハ)又事實問題トシテモ波ハ蘇聯邦軍ヲ一兵タリトモ波ニ

入ルルヲ許ササルヘキヲ以テ蘇聯邦カ萬一波ヲ武力援
助セントスルモ其ノ方法ナシ

三、若シ蘇聯邦カ參戦ストセハ戰爭カ二三年續キ獨伊側カ全
ク疲弊セル場合ナルヘシ

獨蘇兩國ノ外交ハ駈引多ク此ノ點兩者相酷似ス獨ハ日伊

ト防共協定ヲ結ビ乍ラ今回蘇聯邦ト通商協定ヲ結ビ蘇聯

邦ハ獨ノ侵略政策ヲ攻撃シ乍ラ今次協定ニ依リ獨ニ原料

ヲ供給シテ其ノ侵略ヲ援助セントシツツアリ



274

昭和14年8月23日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢緊迫に伴う波蘭政府の動向につき観

測報告

ワルシヤワ 8月23日前発

本省 8月24日前着

第二〇六號(極秘)

⁽¹⁾在獨大使宛電第五〇六號ニ關シ(歐洲情勢ニ對スル判斷

電報方ニ關スル件)

一、獨逸動員完了説、獨新聞ノ波蘭猛攻撃等ニ依リ事態甚タ

緊迫シ來レルヤニ説ク者多ク當地ニ、三大公使館ニテハ
戰爭勃發ニ處スル用意ヲ濟マセルモノモアリ又獨芬蘭間
定期船ハ本週限り中絶セラルヘシトノ情報モアリ

二、波トシテハ「ダンチツヒ」問題ニ付獨ト妥協ノ希望ナキ
ニアラサルモ一方の讓歩ヲ爲スニ於テハ次イテ舊獨領全
部カ獨ニ回復セラルヘキ機運ヲ醸成スルヲ惧レ強硬態度
ヲ持シスル態度ヲ持スルコトニ依リ「ダ」市問題ニ付テ
モ獨ノ強行の行動ヲ阻止シ得ヘシト看做シ居ル次第ニテ
和戰何レカハ一ニ獨逸ノ出方ニ懸ルモノトナシ居レリ而
シテ萬一武力抗戰ノ已ムナキニ至ル場合第一戰ニ敗ルト
モ其ノ内ニハ英佛ノ援助モ有效トナルヘキニ鑑ミ漸次後
退シテ敵軍機械化部隊ノ有效ニ行動シ得サル沼澤地方ニ
立籠リ持久戰ノ態勢ヲ採ルノ覺悟ヲ定メ居ルカ如シ(外
務省員ノ内話ニテ獨大使モ同様ノ聞込アリト言ヘリ)右
ハ戰爭カ長引クニ從ヒ敵國ノ方カ經濟的ニ窮境ニ陥ルヘ
キモノト豫想シ波ニ取り有利ナル講和ノ機到ルモノトノ
假想ニ基クモノナリ

三、波カ進シテ事ヲ起スコトナキハ之ヲ想定シ得ル所ナルモ
果シテ如何ナル事態ヲ見ハ武力抗爭ヲ爲スヘキヤニ付テ

ハ英佛ノ態度ニモ關係スル次第ニテ豫斷シ難キモ(イ)「ダ
ン」市カ獨立ヲ宣言スル場合迄ハ交渉ノ餘地アリトナシ
居リ(往電第二二七號末段)(ロ)「ダ」市カ獨復歸ヲ宣言ス
ル場合ハ武力抗爭ヲ爲スヘシ

四、從テ獨波間ニ戰端カ開カルルヤ否ヤハ獨ノ態度ニ依ルヘ
キカ獨ノ立方ハ英佛ノ決意竝ニ蘇聯邦ノ眞意ニ對スル判
斷如何ニ依リ左右セラルル所大ナルヘク卑見ニ依レハ獨
トシテハ少クトモ今後暫クノ間(約二年間)ハ英佛トノ戰
爭ヲ極力避クヘキニ依リ英佛カ波ノ援助ニ乗出ササルヲ
得サルカ如キ事態ヲ惹起セサルヤニ思ハル夫レ故前項(ロ)
ニ付所謂第二ノ「ミユンヘン」ノ望アリトノ見透付カハ
斯ル措置ニ出ツヘキモ(イ)ノ如キハ此ノ際之ヲ斷行セサル
ヘシ尤モ最近獨側カ頻リニ問題ハ「ダ」市ニアラスシテ
舊獨領全部ノ回復ニ在リトノ趣旨ヲ宣傳シ居ル事實ニ鑑
ミ獨ニ於テ舊獨領ノ全部又ハ大部分ヲ急遽武力占領シ
(數日ニテ足ルヘシト説ク者アリ)夫レ以上ハ欲スル所ニ
アラスト宣言シテ守勢ニ轉シ波ニ講和ヲ強要シ此ノ間英
佛ヲシテ

波ニ武力援助ノ暇ヲ與ヘサルカ如キ措置ニ出ツルヤモ測

ラレストノ觀察モアリ得ヘシ此ノ場合(甲)波カ講和ヲ肯セサルニ於テハ英佛カ果シテ其ノ國運ヲ賭シテ獨伊ト戰フヘキヤ甚タ疑問ナリトノ説ト(乙)抑々英カ波ニ保障ヲ與ヘタルハ一面獨伊樞軸ノ強化膨脹ヲ阻止セントスルト共ニ他面同樞軸トノ衝突不可避ト認メ進ンテ戰爭ノ原因ヲ作リタルモノナリトノ觀測ノ下ニ波カ武力抗爭スル場合英佛ハ必ス起ツテ獨伊ト決戦スヘシトノ説トアリ得ルカ如ク獨ニシテ前者(甲)ヲ採ラハ以上ノ如キ舉ニ出ツルコトナキヲ保セサルヘシ

五、近時ノ如キ獨波間ノ摩擦狀態カ此ノ儘永續スヘクモアラサルト共ニ獨カ最近著シク強氣ヲ示シ來レル爲頻リニ危機ノ切迫カ傳ヘラレ伊太利ノ如キモ二十一日本使ニ對シ今尙戰爭ヲ避ケ得ル望アルモ獨ハ既ニ諸般ノ用意ヲ濟マシタルカ如ク唯時勢ト方法ニ付決心付カサルカ如シ氣候ト作戰トノ關係ヨリスレハ「ニューロンベルグ」會議ハ既ニ時期遲キニ過クルヲ以テ或ハ本月末頃ニハ何事カ勃發スルヤモ知レスト内話セルカ(獨大使ハ休暇歸國中ナリ)本使トシテハ前ニ略述ノ通り當分戰火ヲ見ルコトナカルヘク「ダ」市問題ニ付テハ例ヘハ最近屢行ハレ居ル

「ダ」市當局ト當國代表トノ會談ノ如キモノカ機縁トナリテ平和的解決ヲ見ルニ至ルニアラスヤト觀測シ居レリ在歐各大使、壽府へ轉電セリ

275 昭和14年8月23日 在ウイーン山路総領事より 有田外務大臣宛(電報)

歐洲大戦の勃発は避けがたいとの観測報告

ウイーン 8月23日後発
本省 8月24日夜着

第六〇號(至急)

(1)(2)(3)

獨逸ハ今春波蘭問題ノ危機以來萬一ノ場合ニ對スル準備ヲ整ヘ特ニ最近二箇月來一層之ヲ急キ居レルカ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ(一)對波蘭輸出制限方ニ關スル當局ノ内密指令(二)八月末(三)「ケーニヒスベルヒ」、(四)「プレスロウ」ヨリノ波蘭語宣傳放送ヲ開始セル外從來維納ヨリ行ヒ居タル「ウクライナ」語放送ノ強化(五)戰時ノ爲補助警察官ノ組織(四)防空措置實行ヲ求メタル在獨外國使臣宛獨外務省ノ通牒(七月二十日附)(五)八月一日以降軍人ハ絶對ニ又一般人ハ成ルヘク外國ニ出ササルコトス(六)貯藏強化ニ

依ル最近ノ食料品缺乏ノ減少(七)八月中旬以後運輸困難ナルヘキ旨ヲ以テ早目ニ石炭買入方諸方面ニ從憑(八)自動車ノ徵發及「ベンヂン」制限(九)十、十一月ノ既電鐵材料(配)給割當ヲ減スル旨ノ指令(十)軍需工場等ニ對スル防空施設ヲ八月十五日迄ニ完成スヘキ旨ノ指令(十一)波蘭語及露西亞語ヲ解スル豫備兵ノ調査(十二)戰爭ノ際和蘭ハ中立ヲ維持シ得サルヘシトノ見解ノ下ニ從來同地ニ置キタル獨逸軍部ノ情報蒐集機關ヲ密ニ「コペンハーゲン」ニ移シ此ノ爲約六十名ノ職員ヲ同地ニ置ケルコト(十三)伊太利ニ多數ノ軍隊ヲ送り又「トレスト」ニハ獨逸潛水艦ヲ派遣シ居ル模様ナルコト(戰爭ノ場合伊太利ハ相當ノ難局ニ立ツヘキヲ以テ最初ヨリ獨軍協力ヲ要スヘシ)(十四)多數ノ豫備兵召集(現在既ニ二百數十萬ノ兵力ヲ時スルカ月末迄ニハ三百五十萬位ニ上ルヘシト言フ)等ニシテ之等ニ徵スルニ獨逸カ八月中旬以後ノ適當ノ時期ニ於テ波蘭問題解決ノ肚ヲ夙ニ決定シ居タルコトハ明カナル處

²⁾獨逸新聞ハ特ニ八月初以來連日本問題ヲ大々ノニ取扱ヒ波蘭在留ノ獨逸人ニ對スル迫害等ニ關スル報道ヲ詳細傳フルト共ニ今ヤ問題ハ名譽ノ問題トナレリトカ、「ダン

チツヒ」及廻廊問題ハ英佛等ニ關係ナキモノニシテ何等妥協ノ餘地存セストカ、更ニ上「シレジア」ハ不當ニ獨逸ヨリ分離セラレタルモノナリトカ等ト盛ニ書立テ又大規模ノ軍隊輸送ハ引續キ行ハレ居リ他方對外的ニハ八月中旬ノ獨伊「ザルツブルヒ」會談ヲ經テ今次ノ獨蘇協定成立發表ニ到リタルモノナリ蘇國ノ動向ハ兩陣營ニ取り極メテ重要ナル意義ヲ有スル處今回獨逸カ之ト不侵略協定及經濟協定ヲ締結スルニ至リタルハ其ノ重大ナル成功ニシテ英佛ノ對獨包圍政策ニ取りテハ大打撃タルヲ免レス(英佛蘇三國同盟ノ見込ナキ外其ノ波、土、羅ニ及ホス影響モ少カラス)

三、斯テ獨逸ハ内外ノ準備完成セル此ノ絶好ノ機會ニ於テ決然タル態度ヲ以テ波蘭問題ヲ一舉ニ解決セントシツツアリ從テ或ハ往電第五七號ノ宣言以上ニ出テ最後通牒の形式ヲ以テ舊獨領全部ノ復歸ヲ要求スルカ如キ可能性モ多分ニ存ス(其ノ時機ハ極メテ差迫リ居ルモノノ如ク茲ニ、三日ハ最モ注意ヲ要スヘシ)之ニ對シ波蘭及英佛カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ即チ戰爭カ否カノ問題ハ最後ノ瞬間迄之ヲ斷定シ難ク

先ツ波蘭ノ態度ヲ考フルニ或情報ニ依レハ同國內(軍部ヲ云フ)ニ於テ非戰論擡頭シツツアリテ結局泣寝入ノ外ナシトノ觀測モアルモ若シ英佛側ニ於テ忠實ニ援助義務ヲ履行スル態度ヲ持スルニ於テハ恐ラク波蘭ハ一カ八カノ覺悟ニテ獨ニ反抗的態度ニ出ツヘク次ニ英佛側ノ態度ヲ見ルニ援助義務ノ手前今更波蘭ニ對シ讓歩方ノ強キ壓迫ヲ加ヘ得サルヘク萬一再ヒ波蘭ヲ見殺スカ如キコトアラハ他ノ被保障諸國ハ勿論英帝國屬領及米國等ノ信用ヲ失フヘク加フルニ長期戦トモナラハ事態ハ自派ニ有利ニ展開スル望モ持チ得ヘク其ノ間又伊ヲ獨ヨリ引離サントスル策動モ爲シ得ヘキノミナラス場合ニ依リテハ米國ヲ自派ニ引入ルル考モアリ旁聽テ自己生存ノ脅威トナルヘキ「ナチ」獨逸ヲ此ノ最後ノ機會ニ於テ打倒セントスル態度ニ出ツルコトハ頗ルアリ得ヘキコトト認メラル更ニ再ヒ獨逸側ノ態度ニ歸ルニ「ヒトラー」ハ其ノ生存中ニ「ベルサイユ」條約ヲ完全ニ打破シテ第三帝國ヲ完成セシコトヲ熱望シ居ルヘキ處其ノ急速實現ハ結局現狀維持派ノ首魁タル英帝國ヲ打倒スルコトニ依リテノミ行ハレ得ヘク而シテ之カ實現ノ爲ニハ内外情勢ノ自己ニ最モ有

利ナル此ノ機(現在ノ獨逸ハ大戰直前ニ比シ遙ニ良好ナル地位ニ在ルモ其ノ永續ハ之ヲ望ミ得サルヘシ)ヲ措イテ他日ヲ待ツヲ得サルヘシ(舊植民地回復ノ如キ問題モ交渉ニ依リテ解決スルハ到底不可能ナルヘシ)尙伊側トシテモ其ノ願望ヲ完全ニ達成センカ爲ニハ此ノ際強大ナル獨逸トノ協力ニ依リ一戰ヲ敢行スルノ外ナカルヘシ斯ク觀シ來レハ最早兩派ノ衝突ハ殆ト避ケ得サルモノト認メラルル處現ニ新聞情報ニ依ルニ英佛政府ハ閣議ノ決定ニ基キ二十二日波蘭政府ニ對シ英佛ノ態度ハ何等變更ナキ旨ヲ通告セル趣ナルカ午後八時「ラヂオ、ニユーズ」ニ依ルニ駐獨英國大使ハ本二十三日「オーバーザルツ」ニ「ヒトラー」ヲ訪ヒ二十二日ノ閣議決定ヲ内容トスル「チエンバレン」ノ書翰ヲ手交セルニ對シ「ヒトラー」ハ英國ノ對波援助ニモ拘ラス獨逸ハ波蘭ニ對シ其ノ生存利益擁護ノ爲必要ナル措置ニ出ツヘキ旨ヲ言明セル趣ナリ從テ十九日「チアノ」カ「ザルツブルヒ」會談ノ結果ニ基キ英佛兩國大使ニ對シ獨波紛争ノ際兩國カ中立ヲ守ルニ於テハ伊モ之ヲ守ルヘキ旨ヲ提議セリトノ情報竝ニ法皇及「ルーズベルト」カ平和維持ニ努力シツツア

ル旨ノ情報アルニ拘ラス今ヤ歐洲戰爭勃發ノ可能性ハ著シク増大セルモノト思考セラル

三、⁽⁴⁾(A)各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ戰爭勃發ノ際ニ於ケル

獨逸ノ作戰計畫ハ先ツ波蘭ニ對シテハ主力ヲ以テ攻勢ニ出テ數週間内ニ之ヲ片付ケ尙洪牙利及伊太利ト共ニ「ボスポロス」海峽迄ニ至ル巴爾幹全體ヲ二、三箇月内ニ樞軸側ノ勢力下ニ置キ然ル後伊ト共ニ佛國ニ對シ大々の攻勢ニ出テ英國ニ對シテハ最初ヨリ主トシテ空軍ニ依リ攻撃ヲ爲シ大體九箇月位ニテ戰爭ヲ終結セシムル豫定ナルモノノ如シ(和蘭、瑞西或ハ白耳義モ中立ヲ侵サルル惧鮮カラス)

果シテ此ノ即決主義カ計畫通り進捗シ得ルヤ不明ナルモ波蘭及巴爾幹ノ把握ハ蘇聯トノ經濟關係好轉トモ相俟チ樞軸側ニ對スル食糧及原料ノ供給ヲ確保シ其ノ持久力ヲ増スコトトナルヘシ

(B)獨逸側ハ洪牙利ニ對シテ獨軍ノ波蘭及羅馬尼向ケ進軍ノ爲「カルパート」地方通過許容方ヲ求ムル等(之ハ波蘭ト洪牙利トヲ遮斷スル效果モアルヘシ)樞軸側ト一層強キ強力ヲ要求シ居ル模様ナルカ戰爭勃發ノ際

場合ニ依リテハ洪國現政府ヲ倒シ「ナチ」の政府ノ樹立ヲ策スルコトモアリ得ヘシ何レニスルモ洪牙利ハ羅馬ニ進軍シ又同國軍カ勃牙利國境迄到達スル曉ニハ勃牙利モ起ツコトトナル由ナリ

(C)羅馬ニハ波蘭ノ同盟國タル外石油等ノ關係モアリ獨軍ニ於テ直ニ之ヲ占領スルニ至ルヘシ既ニ同國內ニハ約八十萬ノ獨逸人アリ又今春ノ獨羅經濟協定ニ相當ノ束縛ヲ受ケ居リ且隣境諸國トノ間ニ失地回復問題アリ加フルニ國內事態モ良好ナラサルヲ以テ左シタル抵抗ハ爲シ得サルヘク戰爭勃發セハ結局領土縮少ノ運命ヲ免レサルヘシ

(D)獨逸ノ波蘭問題解決ニ伴ヒ波領「ウクライナ」分離問題モ具體化スヘク之ニ關シテハ一方同地域ニ洪牙利領「カルパート」及羅領ノ一部ヲ加ヘテ獨立國ヲ形成スルコトトナルヘシトノ情報アリ他方又是等「ウクライナ」地方ヲ蘇領「ウクライナ」地方ト併セテ一大「ウクライナ」共和國ヲ造リ蘇聯ノ一部ト爲スヘシトノ情報モアリ

(E)戰爭ニ際シ蘇聯カ中立ヲ守ル代償トシテ獨逸カ蘇ニ對

シ舊蘇領タリシ波蘭東方地域及「ベツサラビア」ノ回復ヲ支持スヘキ了解ヲ與ヘ居ルヤノ情報ニ付テハ既ニ電報シ置キタリ何レニスルモ獨蘇兩國共同國境設定ニハ反對ナルモノノ如キヲ以テ完全ナル波蘭分割ハナカルヘシ

(F)「スロバキア」新聞ハ獨逸ノ失地回復ノ際同國モ先般失ヘル地方ヲ波蘭ヨリ回復スヘキ旨主張シ居レリ
在歐各大使へ暗送セリ

276

昭和14年8月25日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

フォルスターの市長就任に関するダンチヒ当局の発表について

ワルシヤワ 8月25日午後
本 省 8月26日午前

第二一五號(至急)

情報

一、廿四日「ダンチツヒ」當局ハ一九三三年及一九三七年ノ國防ニ關スル法律ノ規定ニ基キ「ガウライター」タル

「フォルスター」ハ廿三日附ヲ以テ市長トナリタル旨發表シ「ガウライター」ハ其ノ旨國際聯盟高級委員「ブルリハルト」ニ通告セリ

二、右ハ「ダンチツヒ」ト「ナチ」トノ「パーソナル、ユニオン」ナリトカ「フォルスター」ハ元首トシテ外交權ヲ回復セリトカ種々ノ說アル處廿五日外務機關紙「クリエル、ボラニー」ハ「フォルスター」ノ任命ト題シ左ノ通り論セリ

「フォルスター」ノ「ダンチツヒ」自由市長任命ハ「ダンチツヒ」自由市憲法違反ニシテ何等法律の根據ナシ波蘭ハ右任命ニ關スル事情及波蘭トノ權益トノ關係カ明瞭トナラハ直ニ其ノ態度ヲ決定スヘク其ノ結果ニ付テハ豫斷ヲ許サス波蘭ハ如何ナル場合モ「ダンチツヒ」ノ「アンシユルス」ヲ許サス現狀變更ニ關スル獨逸側ノ如何ナル法律的的技巧モ笑止ト言フヘキノミ

三、尙各紙ハ左ノ四點アル場合ハ波蘭ノ權益侵害ト看做サルヘシト論シ居レリ

イ、「ダンチツヒ」ノ獨逸併合ニ關スル企圖
ロ、「ダンチツヒ」ニ於ケル波蘭關稅區域ノ撤廢

ハ、波蘭ノ權益ノ第三國ニ依ル管理

ニ、「ダンチツヒ」ニ於ケル波蘭ノ國籍(脱)[?]増徴等ニ關スル權利ノ拒否

四、路透ニ依レハ廿四日波蘭「ダンチツヒ」間ノ稅關吏問題
ニ關スル交渉ハ中絶セル趣ナリ
在歐各大、公使、壽府へ轉電セリ



277 昭和14年8月25日 在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

フォルスター市長就任に関する波蘭外務省東

方部長の内話について

ワルシヤワ 8月25日後発
本 省 8月26日前着

第二一六號(至急)

往電第二一五號ニ關シ

二十五日井上ヲシテ東方部長ニ質サシメタル處同部長ノ回答左ノ通りナル趣ナリ

一、「フォルスター」ノ總統就任ハ獨逸側ノ「トリツク」ノ

一ナリ其ノ理由ハ獨逸側ニ何等ノ善意認メラレス惡意依

然トシテ續行シ居レハナリ

ニ、波蘭トシテハ「ダンチヒ」ノ主權カ參議院ニ在ルト大統領ニ在ルトハ「ダンチヒ」ノ内政問題ニ屬シ波蘭ノ直接關知スル所ニアラス「フォルスター」今回ノ就任ハ參議員ノ選舉ニ懸ルモノナルヲ以テ之ニ異議ナキモ波蘭ニ相談セス一方的ニ行ハレタルコトハ不都合ニ付此ノ點ニ參議院ニ對シ抗議スルコトトナルヘシ

三、波蘭ノ態度ハ「ダンチヒ」内ニ於ケル波蘭ノ權益カ第三國ノ管理ノ下ニ入ルコトヲ排除スルニアリ目下ノ狀況ハ「フォルスター」カ果シテ「アンシユルス」ヲ宣言スルヤ否ヤヲ見送中ナリ

四、「アンシユルス」ヲ宣言スル場合ハ當然戰爭トナルカ宣言セサル場合ハ若シ「ダンチヒ」側ニ善意アラハ外交權ハ波蘭ニ屬スル關係上此ノ點ニ付交渉行ハルヘキ筋合ニシテ斯ル交渉アリタル場合ニハ波蘭ニ於テハ之ニ應スル準備アリ之ニ反シ「ダンチヒ」側ニテ波蘭側ト交渉ヲ爲スコトナク事態ヲ有耶無耶ノ内ニ遷延スルノ態度ニ出ツル場合ハ矢張り戰爭ナリ

五、從テ事態ハ依然逼迫シ居リ毫モ緩和セラレ居ラス巷間何

1 独波開戦に至る経緯

等カノ「コンプロミ」成立セリ等ノ如キハ事實無根ナリ
波蘭ノ動員ハ百萬以上ニ達セリ

在歐各大使、壽府へ轉電セリ

~~~~~

278 昭和14年8月25日  
在仏国宮崎臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約成立により独国が戦争を決意  
する可能性はなくなつたとの推論報告

パリ 8月25日後発  
本省 8月26日前着

第四九七號

往電第四七七號及第四九六號ニ關シ

歐洲情勢ハ愈大戰前夜ノ感アリト一般ニ見ラレ居ル處左ノ  
如キ推論モ立チ得ヘシ

獨蘇條約ノ成立ニ依リ獨力戦争ヲ決意スル可能性ハ差當リ  
ナクナレルモノト想像サル蓋シ「ヒトラー」ハ常ニ不戦必  
勝ヲ心懸ケ居ルニ付戦争ニ依ル他ナキ程ノ窮地ニ陥ラスハ  
戦争ハナキモノト想像セラレ(四月往電第二五九號參照)從  
テ情勢有利トナルヲ俟テ開戦スト言フ如キ事實ト必勝主義

ノ兵法ハ用ヒサルヘク先般來英、佛、波先ツ頑強態度堅持  
ニ依リ不戦必勝方針行詰リ戦争ヲ避クル爲己ムヲ得ス面白  
カラサルモ殘サレシ唯一ノ途即チ獨蘇條約ニ依リ之ヲ打開  
セルモノナルヘク今ヤ有利ナル姿勢ヲ以テ英、佛、波ヲ威  
壓シ得ルニ至リ再ヒ不戦必勝方針遂行ニ都合好クナレルニ  
付戦争トナラス様注意深キ方法ニ依リ波蘭問題平和解決ヲ  
強行スル肚ト想像サル右註文通り行クヤ否ヤハ窮鼠即チ波  
蘭カ果シテ猫ヲ嚙ムヤ否ヤニ懸ルヘシ英佛トシテハ將來ノ  
爲ヲ考へ所詮戦争避ケ難シトスルモ出來得ルナラハ少クト  
モ之ノ八、九月迄ハ避ケタキ肚(往電第四七二號(五)參照)ト  
思ハルルニ付戦争ニ赴カムコト一日モ遲キコトヲ希望シ居  
ルヘシト想像サル

右ハ單ナル推論ニ過キサルモ獨宛貴電第五〇六號ノ次第モ  
アリ何等御參考迄ニ

在歐各大使へ轉電セリ

~~~~~

279 昭和14年8月26日
在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約成立により欧州戦争の可能性

は増大したとの英国武官の内話報告

モスクワ 8月26日前発

本省 8月26日夜着

第一〇〇一號(極秘)

廿五日當地英國大使館武官ノ館員ニ對スル内話左ノ通り

一、自分ハ今次英佛蘇軍事會談ニ參加セルカ同會談ニ依リ明カトナリタルハ蘇聯カ絶對ニ西方ニ於テ戰爭ニ捲込マルルコトヲ回避セントスルコトナリ右ハ(イ)莫斯科カ爆撃サルルコト及(ロ)國民ノ最重要部分カ歐露ニ在リ從テ戰爭ノ國民ニ與フル影響カ最強ク現レ反革命ノ危險ヲ齎スヲ以テナリ尙此ノ點ニ於テハ極東ニ於ケル戰爭ハ蘇聯ニ取リ歐露戰ヨリモ危險性少シト思考ス

二、蘇聯カ獨卜前記條約ヲ締結シタルハ蓋シ獨カ蘇聯ノ向背不明ナル限り對波作戦困難ナルヲ以テ蘇聯カ自國ノ中立ヲ獨ニ約束シ以テ獨ノ開戦決意ヲ容易ナラシメ蘇聯ノ豫テヨリ對外根本政策トスル歐洲大戦ヲ勃發セシメントスルニ出テタルモノニシテ從テ本條約ニ依リ戰爭ノ可能性ハ増大セリト信ス

三、今開戦後ノ狀況ヲ考フルニ英佛ハ波ニ對シ友好的武力援

助不可能ナルヲ以テ獨ハ三ヶ月ヲ出テスシテ波蘭ヲ全ク席捲スヘク爾後獨ノ西部國境ニ於テ双方對峙トナリ持久戰ニ入ルヘシ只伊ハ獨ト異ナリ本國及殖民地何レモ弱點多ク其ノ一部ハ英佛側ニ占領セラレ結局伊ハ樞軸側ノ弱味トナルヘシ現在英佛側ハ獨伊側ヨリモ空軍劣勢ナルモ持久戰トナラハ英佛側ハ其ノ優レタル軍需工業ト米國ノ支持トニ依リ之ヲ取戻スヘク結局戰勝ハ英佛側ニアリ

四、米ハ暫ク中立ヲ守ルヘキモ英佛側不利トナラハ之ニ加擔シテ參戰スヘシ

280

昭和14年8月26日

在ウイーン山路総領事より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭軍の戦闘能力に関するウイーン軍事消息

筋の観測報告

ウイーン 8月26日前発

本省 8月26日夜着

第六五號

⁽¹⁾當地軍事消息通ノ間ニ於テ波蘭ノ戦闘能力ニ關シ大體左ノ如キ觀測ヲ下シ居ルニ付時局柄報告ス

1 独波開戦に至る経緯

波蘭ノ兵力ハ主トシテ陸軍ナルカ此ノ内騎兵優位ヲ占ム右ハ同國ノ交通組織ノ不備(戰時ニ何ノ程度迄軍事輸送及其ノ他ノ緊急輸送ヲ實行シ得ルヤハ見物ナリ尙外國トノ交通モ北方ノ廻廊東南ノ陸路ノ封鎖ニ依リ開戦ト同時ニ杜絶セシメラルルヘシ)ニ鑑ミ尤モナルカ元來騎兵ハ獨軍ノ如キ最近ノ便ヲ有スル敵ニ對シテハ到底對抗シ難キモノニシテ殊ニ西部波蘭ノ如キ裝甲部隊及砲兵カ快速ヲ以テ自由ニ馳驅シ得ル地方ニ於テハ一層然ルモノアリ(獨逸側ハ波蘭ニ對スル獨軍ノ進軍速度ヲ一日二、三十料ト見積リ居ル模様)又波蘭軍ハ自國製武器ノ外佛獨埃太利露製銃、佛露製ノ砲(殊ニ重砲及高射砲然リ)及英佛製ノ重戰車(輕戰車ハ自國製等雜多ノ兵器ヲ使用シ居ル有様ナリ)空軍ハ單獨ニテ大規模ノ行動ヲ起スニハ不充分ニシテ陸軍ノ補助部隊タルニ過キス海軍モ亦不練ニシテ獨逸ノ如キ敵ニ對シテハ數日間海面ヲ確保スルコトスラ絶對ニ不可能ナリ

⁽²⁾其ノ他ノ點ヲモ見ルニ先ツ軍需工業ハ最近相當ノ發展ヲ示セルモ未タ到底戰爭ノ需要ヲ自足スルヲ得ス次ニ食料ハ過剩ノ農産物アル爲心配ナカルヘク又石炭ハ有り餘リ居レルカ一方鐵鑛及石油ハ輸入スルノ必要アリ波蘭ニ取リ決定的

ナル弱點ハ其ノ重工業カ戰爭ノ際危險トナルヘキ國境附近ニアルコトナリ例ヘハ「コークス」ノ全部、粗鐵、粗鋼ノ八割、鑄鋼ノ大部分、石炭ノ七割以上、電力ノ四割及錫鑛ノ殆ト全部ヲ生産スル上部「シレジャ」及「オルザ」ノ兩地ハ此ノ地帯ニアリ右危險ニ鑑ミ波蘭ハ五年計畫ヲ以テ「ラドム」、「キエルツエ」及「ザンドミル」ノ三市ヲ繋ク地域内ニ工業地帯ヲ設ケントシツツアルハ周知ノ事實ナルモ既ニ實現シ居ルハ一小部分ニ過キササルノミナラス同地ノ空襲ニ對スル安全性ハ致國ノ崩壞以來疑問トナレル一方國內ノ他地方トノ聯絡ハ未タ不完全ナリ尙元來「スラブ」人ハ降服シ易キ人種ナルカ波蘭人モ一度大打撃ヲ受クルトキ容易ニ收拾ノ途ナク度ヲ失フ性質ヲ有スルモノナルニ付獨逸トシテハ戰端ノ開始ト同時ニ波蘭側ニ對シ直ニ一大痛撃ヲ加フヘシ云々

獨、波へ轉電セリ

281

昭和14年8月28日

在ポーランド酒匂大使より
有田外務大臣宛(電報)

波蘭は対独決戦を辞さないとの波蘭外務省東

方部長の内話について

ワルシヤワ 8月28日後発

本 省 8月29日前着

第二二九號

二十八日本使東方部長ト午餐ヲ共ニセルカ部長ノ内話中參考トスヘキ點左ノ通り

一、波蘭ハ本朝迄ニ約二百三十萬人(最高四百萬)ノ動員ヲ爲セリ約三百萬ノ動員ヲ爲セル獨逸ハ既ニ食糧其ノ他ニ「カルテルシステム」ヲ施行セルモ波蘭ハ未タ斯ル必要

ヲ認メ居ラス「ヒットラー」ハ國內事情ノ爲戰爭ヲ擇ハントスルヤニモ觀測セラルル處波蘭ハ既ニ戰爭ヲ覺悟シ居リ「ヘンダーソン」大使カ齋スヘキ「ヒットラー」ニ對スル回答如何ニ依リテハ戰端開カルヘク一方的讓歩ヨリハ決戰ヲ選フコトニ決定シ居レリ

二、波蘭ハ非常時ヲ考慮シ軍事工場ノ分散主義ヲ採リ多ク森林中ニ建設シ居レリ從テ敵ノ空襲ヲ恐レ居ラス

三、獨トノ鐵道聯絡ハ獨カ遮斷セルモノニテ當地獨大使館全員獨新聞記者及居留民全部ハ十七日迄ニ引揚ケタリ(獨領事一名ノミ殘留ス)駐獨波蘭大使及館員、領事館員等

未タ引揚ケス尙當地伊太利大使及館員等モ未タ引揚ケ居ラス

四、蘇聯邦ハ蘇獨不可侵條約後土耳古ニ相互援助條約ノ提議ヲ爲セルモ土ハ之ヲ拒絶セリ

在歐各大使へ轉電セリ



282 昭和14年8月29日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英獨間に外交上の最後の駆引き進行中について

ロンドン 8月29日後発
本 省 8月30日前着

第一〇一六號(極秘)

廿六日「ヘンダソン」ノ齋ラシタル「ヒットラー」ノ「メツセイジ」ナルモノハ「ハリファックス」外相ノ本使ニ對スル説明ニ依リテモ明カナル如ク獨逸ノ決意ヲ強硬ニ表明セルモノニシテ(右ハ廿八日發表ノ「ダラデイエ」ト「ヒットラー」トノ往復ニ依リテモ證明セラル)之ニ對シ英國トシテハ回答ノ基礎ハ複雑ナラサルヘキ筈ナルニモ拘ラス數日間國內及自治領トノ手續ハ勿論友好國トノ間ニ於テモ往復

ヲ重ネ漸ク廿八日夕刻ニ回答ノ運ヒトナリ其ノ間ニ軍備ハ勿論總テノ戦備ヲ全力ヲ擧ケテ進メ居リ而シテ政府當局方面ニ於テハ其ノ間ニモ相當樂觀說ヲ外國人ニハ漏ラシ居ル模様ナリ斯ル形勢ヨリ見レハ右數日間ノ考慮ハ英國ノ對獨回答ノ結果ヲ見越シ各方面ノ地固メニ特ニ費サレタルモノナルコトハ疑ヲ容レス「ヒ」ノ「メツセイジ」ハ和戦ノ決ヲ英ノ態度ニ懸レリトシ英ノ回答ハ反對ニ右ハ一ニ英回答ニ對スル獨ノ態度如何ニ在リトナスモノニシテ要スルニ外交上ノ最後の駈引ニ外ナラスト一般ニ見ラレ居レリ
前電補足旁

283

昭和14年8月30日

在独国大島大使より
阿部外務大臣宛(電報)

波蘭の挑発的態度に鑑み同国との直接交渉は
望み薄との独国外務次官補の内話について

ベルリン 8月30日後発

本省 8月31日後着

第八八三號(極秘)

三十日夕字佐美「ヴェーアマン」次官補ヲ往訪時局ニ付質

問シタルニ「ヴェーアマン」ハ問題ノ重點ハ之ヲ獨波直接交渉ニテ解決シ得ルヤ否ヤニ在リ「ヒ」總統ハ昨日ノ對英回答ニ於テ波蘭トノ直接交渉ニ同意スルモ右交渉ハ即時之ヲ行フコトヲ必須ノ條件トスルコトヲ答ヘタリ英國ノ回答ハ本夜到着スヘキ筈ナルモ英國ハ昨日議會ニ於ケル首相說明ノ如ク先ツ不安緊迫ノ状態ヲ除キタル後交渉開始ヲ主張シ居ルヲ以テ意見一致ヲ見ルヤ否ヤ不明ナリ然ルニ波蘭ハ本日總動員ヲ行ヒ而モ其ノ理由トシテ甚タ挑発的趣旨ヲ發表シ居リ波蘭ノ態度カスノ如キモノナル以上平和ノ望ミ大ニ薄ラキ來リ形勢カ極メテ重大ナリト述ヘ更ニ宇佐美ノ質問ニ對シ白耳義和蘭ヨリ調停ノ申出アリタルハ事實ナルカ現在英獨間ニ話合行ハレ居ル次第ナルヲ以テ之ヲ受クル考無シト答ヘタル趣ナリ
在歐各大使米、壽府へ轉電セリ

284

昭和14年8月30日

在英国重光大使より
阿部外務大臣宛(電報)

独国の対英回答に譲歩なく戦争は避けがたい
との英国外務省筋の内話について

ロンドン 8月30日後発
本 省 8月31日夜着

第一〇一九號

往電第九九六號ニ關シ

三十日外務省係官ノ語ル所左ノ通り

一、獨逸ノ對英回答ハ特ニ時局ノ平和の收拾ニ資スルモノトモ思ハレス情勢依然險惡ナリ目下ノ所「ヒ」カ波蘭問題處理ニ付態度ヲ緩和セサル限り戰爭ハ避ケ難カルヘク「ヒ」カ何等讓歩ヲ爲シ得ルヤ頗ル疑問ナリ英國政府ハ「ノート」交換ヲ續ケ居ル所ヨリ見レハ「ヒ」ニ於テモ戰爭ヲ避ケ所期ノ目的ヲ達セント苦慮シ居ルモノト見ラレルモ「ノート」交換ノ事實ノミヲ以テ平和維持可能ナルヤニ考フルハ當ラス英國側ハ更ニ對獨通牒ヲ發出スヘキモ右ニ對シテハ必スシモ回答ヲ期待シ難カルヘシ

二、獨蘇不可侵條約ハ「ヒ」カ狙ヒ居タルカ如キ效果ハ擧ケ居ラス却テ獨逸ニ不利ナル状態モ展開シ居レリ反共反蘇ハ「ナチス」ノ黨是タリシニ拘ラス之ヲ一擲セル爲黨員一般(軍部ハ別ナルモ)ニ於テハ精神のニ甚大ナル衝擊ヲ感シタルコト疑ナク國民ハ「ヒ」ニ對スル信頼ニ動搖ヲ

來シツツアリ又國際的ニハ日、伊、西等ニ於テ不滿アリ葡萄牙ノ如キハ著シク親英トナリ此ノ點ハ英國トシテハ思懸ケサル收獲ナリ伊太利ニ於テハ有力者間ニ獨逸不信頼ノ念漸ク兆シ始メタリトノ報告アリ云々

在歐各大使、壽府、米ニ轉電セリ

285

昭和14年8月31日

在米國堀内大使より
阿部外務大臣宛(電報)

欧州危機に對する米國政府の對処方針につき

觀測報告

ワシントン 8月31日前発

本 省 8月31日夜着

第八九一號

現下ノ歐洲危局ニ對シ米國朝野ハ非常ナル緊張振ヲ示シ英佛側ニ對スル同情ノ空氣ハ歐洲大戰直前ノ比ニアラスト言ハルル處過般大統領ノ意嚮ト「ヒットラー」總統ニ對スル「アツピール」ノ調子ハ何レカト言ヘハ中立的ニシテ大統領、國務長官等ノ新聞會見ニ於ケル説明振モ亦極メテ用心深く寧口餘リ騒立テサル様仕向ケ居ルヤニ認メラレ「ミュ

1 独波開戦に至る経緯

ンヘン」危機ノ際ニ比シ米政府側ノ態度著シク「ノン、コミタル」ナルハ識者ノ注意ヲ惹キ居レリ右ハ蓋シ今回ノ危機カ前ノ場合ニ比シ遙ニ深刻ニシテ米政府筋ノ發言ノ持つ重大ナル影響ヲ考慮セルコト及米議會第一會期ノ終リ頃特ニ顯著トナレル議會ノ反政府空氣就中立法修正問題ニ對スル下院ノ態度(歐洲戰爭ニ捲込マレサラントスル國民ノ空氣ヲ上院ヨリモ強ク反映スト言ハル)ニ鑑ミ政府トシテモ先走リタル態度ニ出ツルコトハ内政上ヨリモ危険ナルコト等ニ依ルモノト認メラレ從テ歐洲ニ本格的ノ戰爭勃發ノ場合ハ差當リ中立ヲ保ツ爲政府トシテハ幾多ノ不滿ヲ感シ居ルニモ拘ラス現行中立法ヲ發動スルト共ニ臨時議會ヲ召集シテ國內輿論ノ展開ヲ俟ツテ一氣ニ武器類禁輸ノ條項ヲ修正シ豫テノ註文通り英佛側ニ都合好キ一切物資ノ「キヤツシユ、エンド、キヤーリー」制度ト爲サントスルモノト認メラル

又獨蘇協定ノ締結ニ引續ク歐洲情勢ノ米國ノ極東關係ニ及ホス影響トシテハ此ノ際歐洲ニ戰爭勃發スルモ日本カ獨伊ニ加擔スル危険ナクナリ太平洋方面ニ於テ重荷ヲ解カレタリトテホツトシタル姿ト認メラル

英へ轉電シ在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)へ暗送セリ
英ヨリ在歐各大使へ轉電アリタシ

286

昭和14年8月31日

在独国大島大使より
阿部外務大臣宛(電報)

波蘭との直接交渉を断念したとの独国政府発
表について

ベルリン 8月31日後発

本省 9月1日前着

第八八七號(大至急)

三十一日午後九時「ラヂオ」放送ハ左ノ趣旨ヲ發表セリ
獨逸政府ハ二十九日ノ對英回答ニ於テ獨波直接交渉ニ關スル英國ノ仲介ノ申出ヲ受諾シ三十日夕刻迄ニ波蘭政府派遣ノ全權委員ト交渉ニ應スルノ用意アル旨明カニセリ然ルニ波蘭政府ハ之ニ答フルニ總動員ヲ以テシ遂ニ全權委員ヲ派遣セス三十日夜「ヘンダーソン」英大使カ英政府ノ最後ノ回答ヲ齎シタル際「リ」外相ハ同大使ニ對シ獨逸政府カ獨波交渉ノ爲用意シ居リタル提案ヲ(要旨別電第八八八號^{編注}ノ通り)示シタリ其ノ間在獨波蘭大使ノ來訪アリタルモ全權

ヲ有シ居ラステ獨逸政府ハ二日間波蘭政府ノ全權委員派遣ヲ待チタルモ無益ナリキ事情右ノ通りナルニ付獨逸政府ハ其ノ提案カ事實上拒否セラレタルモノト認ム
在歐大公使、米、壽府ニ轉電セリ

編注 別電第八八八号は見当らない。独逸の提案については

第288文書参照。

287 昭和14年8月31日
在独逸大島大使より
阿部外務大臣宛(電報)

対波戦争が避けがたい旨を独国外務次官が内報について

ベルリン 8月31日後発
本省 9月1日前着

第八八九號(大至急)

卅一日夜九時半「ワイツゼツカー」次官ノ求メニ應シ往訪セルニ往電第八八七號公表ヲ記シタル書物ヲ手交シタル上萬事右書物ニテ承知アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ事態如何ト質問セルニ多分戦争ハ避け難カルヘシト答ヘタリ

尙本使ト前後シテ各國大使「アルファベット」順ニ同次官ニ面會ノ爲來訪セルヲ認メタリ
在歐各大使、壽府へ轉電セリ

288 昭和14年9月1日
在ベルギー來栖大使より
阿部外務大臣宛(電報)

独逸の対波提案は波蘭に拒絶されたとの独逸ラジオ放送について

ブリュッセル 9月1日前発
本省 9月1日後着

第一九一號(至急)

三十一日夜ヨリ九月一日深更ニ亘ル獨逸放送局放送要點獨逸政府ハ英國トノ間ニ左記諸點其ノ他合計十六項目ヲ掲ケタル實際的提案ヲ爲シ之カ交渉ノ任ニ當ルヘキ波蘭全權ノ伯林派遣方ヲ要求シテ交渉ヲ重ネ遂ニ其ノ派遣ヲ見スシテ空シク二日ヲ過セリ獨逸總統及政府ハ之ヲ以テ獨逸ノ提案ハ拒絶セラレタルモノト認ム
一、「ダンチヒ」ノ即時獨逸復歸
二、「コリドル」ハ獨逸ニ歸屬スヘキカ波蘭ニ屬スヘキカ

1 独波開戦に至る経緯

ヲ自ラ決定スルコト

三、右決定ハ同地方住民ノ一般投票ニ依ルコト

四、右一般投票ハ準備ノ都合上茲十二箇月以内ニハ行ハサル
コト

右ハ卅一日蘇獨兩國ノ不可侵條約批准完了及獨波國境ノ衝突事件ニ關スル報道ト共ニD N B特別「ニュース」トシテ各放送局ヨリ一齊ニ放送セラレタルカ幾度モ繰返シ其ノ間絶エス行進曲ヲ奏シ午前二時尙繼續シ居レリ右ハ關係公館ヨリ電報濟ト存スルモ通信故障等ノ場合ヲ慮リ爲念

